中村地区の遺跡

中村松田遺跡2・3次小坂七ノ坪遺跡2次

2007

松山市教育委員会 財団法人 松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター

中村地区の遺跡

中村松田遺跡2・3次でサガ坂七ノ坪遺跡2次



2007

松山市教育委員会 、財団法人 松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター 本書は、平成9年から10年にかけて市内中村地区において実施した三遺跡の 発掘調査成果をまとめたものです。

一連の調査の結果、中村松田遺跡2次調査地においては、弥生時代後期の土器が廃棄された溝を検出したのをはじめ、小坂七ノ坪遺跡2次調査地では、同時期の円形土坑から多数の土器が良好な状態で発見されました。

これらの遺跡は、松山平野における代表的な弥生時代の集落遺跡である釜ノ 口遺跡群に隣接する位置にあることから、周辺地域における遺跡の広がりを考 えるうえで貴重な情報を収集することができました。

このような成果を上げることができましたのも、埋蔵文化財に対する関係各位の深いご理解とご協力のたまものと深く感謝申し上げる次第です。

本書が、さまざまな分野で広く活用されることを願っております。

平成19年3月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団 理事長 中 村 時 広

例 言

- 1. 本書は、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが平成9年4月~平成10年3月に、 松山市中村1丁目と同2丁目、小坂2丁目で宅地開発に伴う事前の緊急調査として実施した埋蔵文 化財発掘調査の報告書である。
- 2. 遺構は、呼称を略号で記述した。竪穴住居址:SB、溝:SD、土坑:SK、掘立柱建物址:掘立、柱穴:SPである。
- 3. 遺物の実測・製図、遺構の作図・製図は、担当調査員指示のもと、水口あをい、山下満佐子、平 岡直美、大西陽子、西本三枝、日之西美春、渡辺いづみ、山邊進也、猪野美喜子、岡本邦栄、金子 育代が行った。
- 4. 写真図版は、担当者と大西朋子が協議し、作成は大西朋子が行った。
- 5. 遺構図と遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。
- 6. 本書に使用した方位は、中村松田遺跡が磁北、小坂七ノ坪遺跡は真北である。
- 7. 本書にかかわる遺物や記録物は、松山市立埋蔵文化財センターで保管している。
- 8. 本書の執筆は梅木謙一・小笠原善治・水本完児が行った。編集は梅木謙一が担当し、 宮内慎一、 水口あをいの協力を得た。浄書は、平岡直美が行った。
- 9. 製版 白黒図版-175線

印刷 オフセット印刷

用紙 白黒図版-マットコート

本 文 目 次

	はじめに 調査に至る経緯				[梅木・水本]]
	中村松田遺跡 2 調査の経過				[梅木・水本] ······ 5 結
	中村松田遺跡3 調査の経過				······ 〔水 本〕····· 6. 結
	小坂七ノ坪遺跡 調査の経過				〔小笠原〕 8: 結
第5章	おわりに	 	 	••••	〔水 本〕… 13

挿 図 目 次

第1章	き はじめに	
第1図	遺跡分布図(縮尺 1 / 50,000)	3
第2章	章 中村松田遺跡 2 次調査地	
第2図	調査地位置図(縮尺 1 / 2,000)	7
第3図	基本層位図(縮尺 1 / 20)	
第4図	遺構配置図 (縮尺 1 / 200)	10
第5図	SB2·3測量図 (縮尺1/60)	
第6図	SB2炉測量図 (縮尺1/20)	
第7図	SB2出土遺物実測図(1)(縮尺1/4)	13
第8図	SB2·3出土遺物実測図(縮尺1/4)	14
第9図	SB4測量図・出土遺物実測図(縮尺1/40・1/4)	
第10図	SB5測量図・遺物出土状況 (縮尺 1 / 40)	
第11図	SB5出土遺物実測図(1)(縮尺1/4)	
第12図	SB5出土遺物実測図(2)(縮尺1/4)	20
第13図	SD1測量図(縮尺1/50)	21
第14図	SD1遺物出土状況(縮尺1/20·1/10)	22
第15図	SD1出土遺物実測図(1)(縮尺1/4)	
第16図	SD1出土遺物実測図(2)(縮尺1/4)	
第17図	SD1出土遺物実測図(3)(縮尺1/4)	
第18図	SD1出土遺物実測図(4)(縮尺1/4)	26
第19図	SD1出土遺物実測図(5)(縮尺1/4)	
第20図	SD2測量図 (縮尺1/200·1/40)	
第21図	SD2遺物出土状況(縮尺1/20·1/10)·································	
第22図	SD2出土遺物実測図(1)(縮尺1/4)	
第23図	SD2出土遺物実測図(2)(縮尺1/4)	32
第24図	SD2出土遺物実測図(3)(縮尺1/4)	33
第25図	SD2出土遺物実測図(4)(縮尺1/4)	34
第26図	SD2出土遺物実測図(5)(縮尺1/4)	35
第27図	SD2出土遺物実測図(6)(縮尺1/4)	36
第28図	SD2出土遺物実測図(7)(縮尺1/4)	·····37
第29図	SD2出土遺物実測図(8)(縮尺1/4)	38
第30図	SD2出土遺物実測図(9)(縮尺1/4)	36
	SD2出土遺物実測図(10)(縮尺1/4·1/3)SD出土遺物実測図(縮尺1/4)	
133 (2) (2)	> 1 出 〒 項 初 手 刈 以 し (縮 尺	····· 4

第33図	SP・SX出土遺物実測図 (縮尺 1 / 4)	42
第34図	中世の遺構配置図(縮尺 1 / 200)	43
第35図	第 V 層出土遺物実測図(縮尺 1 / 4) ·······	
第36図	1・2次調査の遺構配置図(縮尺1/500)	46
第3章		
第37図	調査地位置図(縮尺 1 / 2,000)	
第38図	西壁・南壁土層図(縮尺 1 / 50)	
第39図	遺構配置図(縮尺 1 / 100)	
第40図	SB1測量図·出土遺物実測図(1)(縮尺1/50·1/4·1/3)	
第41図	SB1出土遺物実測図(2)(縮尺1/4)	
第42図	掘立1測量図・出土遺物実測図(縮尺1/60・1/4・1/3)	····· 75
第43図	SK·SP·地点不明出土遺物実測図(縮尺1/4·1/3)	····· 77
	章 小坂七ノ坪遺跡 2 次調査地	
第44図	調査地位置図(縮尺1/800)	
第45図	調査区区割図(縮尺1/300)	
第46図	南壁・東壁土層図(縮尺 1 / 50)	
第47図	遺構配置図(縮尺 1 / 100)	
第48図	SD2 · 3出土遺物実測図 (縮尺1/4) ····································	
第49図	SD2・3・4測量図 (縮尺 1 / 60)	
第50図	SK2測量図(縮尺1/20)	
第51図	S K 2 出土遺物実測図(縮尺 1 / 4) ·······	
第52図	S K13測量図(縮尺 1 / 20) ······	95
第53図	S K13出土遺物実測図上層下部 (1) (縮尺1/4) ····································	96
第54図	S K13出土遺物実測図上層下部 (2) (縮尺 1 / 4) ··································	97
第55図	S K 13出土遺物実測図上層下部 (3) (縮尺 1 / 4) ··································	98
第56図	S K 13出土遺物実測図上層下部 (4) (縮尺 1 / 4) ··································	100
第57図	S K13出土遺物実測図上層下部 (5) (縮尺 1 / 4) ··································	101
第58図	S K 13出土遺物実測図上層下部 (6) (縮尺 1 / 4) ··································	102
第59図	S K13出土遺物実測図上層下部 (7) (縮尺 1 / 4) ··································	103
第60図	S K13出土遺物実測図上層下部 (8) (縮尺1/4) ····································	104
第61図	S K13出土遺物実測図下層 (縮尺 1 / 4) ·······	105
第62図	S X 1 測量図 (縮尺 1 / 40)	106
第63図	S X 3 測量図 (縮尺 1 / 30) ······	107
第64図	SD1測量図(縮尺1/50)	109
第65図	SD1出土遺物実測図(1)(上部)(縮尺1/3)	111

第66図 SD1出土遺物実測図(2)(上部)(縮尺1/3	. 1 / 4) 112
第67図 SD1出土遺物実測図 (3) (縮尺1/3) ·············	
第68図 SD1出土遺物実測図(4)(縮尺1/3·1/	4)115
第69図 SD1出土遺物実測図(5)(ベルト)(縮尺1/	(3 · 1 / 4) 116
第70図 SD5測量図 (縮尺1/40)	
第71図 SD5出土遺物実測図 (縮尺1/3·1/4)	118
第72図 SD6測量図(縮尺1/30)	
第73図 SK1測量図・出土遺物実測図(縮尺1/30・1	
第74図 S K11測量図 (縮尺 1 / 20) ···································	120
第75図 S K11出土遺物実測図 (縮尺 1 / 3 · 1 / 4) ·····	
第76図 SX2測量図・出土遺物実測図(縮尺1/20・1	
第77図 地点不明遺物実測図 (縮尺 1 / 3 · 1 / 4) ·········	
dda war abo a ba ba ba	
第5章 おわりに	
第78図 中村松田遺跡の遺構分布図(縮尺 1 / 500)	137
表目次	
我 日 	
第1章 はじめに	
表 1 調査地一覧	
	-
第2章 中村松田遺跡2次調査地	
表 2 竪穴住居址一覧	47
表 3 溝一覧	
表4 SB2出土遺物観察表 (土製品)	48
表 5 SB3出土遺物観察表 (土製品)	50
表 6 SB4出土遺物観察表(土製品)	
表7 SB5出土遺物観察表 (土製品)	51
表8 SD1出土遺物観察表 (土製品)	52
表 9 SD2出土遺物観察表 (土製品)	55
表10 SD2出土遺物観察表 (石製品)	63
表11 SD3・5・6出土遺物観察表(土製品)	
表12 SP・SX出土遺物観察表(土製品)	
表13 第 V 層出土遺物観察表 (土製品)	64

第3	3章 中村松田遺跡3次調査地	
表14	竪穴住居址一覧	79
表15	掘立柱建物址一覧	
表16	溝一覧	
表17	土坑一覧	
表18	S B 1 出土遺物観察表 (土製品)	80
表19	掘立1出土遺物観察表(土製品)	81
表20	S K出土遺物観察表 (土製品)	82
表21	S P 出土遺物観察表(土製品)	
表22	S P 10出土遺物観察表 (石製品)	
表23	その他出土遺物観察表(土製品)	
第4	4章 小坂七ノ坪遺跡 2 次調査地	
表24	土坑一覧	124
表25	溝一覧	
表26	SD2・3出土遺物観察表(土製品)	
表27	SK2出土遺物観察表(土製品)	125
表28	S K13出土遺物観察表(土製品)	
表29	SD1出土遺物観察表(土製品)	130
表30	SD1出土遺物観察表(石製品)	132
表31	SD5出土遺物観察表(土製品)	133
表32	SK1出土遺物観察表(土製品)	
表33	S K11出土遺物観察表(土製品)	
表34	S X 2 出土遺物観察表 (土製品)	134
表35	地点不明遺物観察表(土製品)	
表36	地点不明遺物観察表(石製品)	

写 真 図 版 目 次

第2章	中村	松田遺蹟	亦 2	次調子	至地
-----	----	------	-----	-----	----

図版1 1.調査前全景(北より)

2. 掘削状況 (東より)

図版2 1. 作業風景(南東より)

2. 基本土層 (北東より)

図版3 1. A区完掘状況(北より)

図版4 1. B区完掘状況(1)(南東より)

- 2. B区完掘状況(2)(北より)
- 図版5 1. SD1・2遺物出土状況(西より)
 - 2. SD1遺物出土状況(西より)
- 図版6 1. SB2完掘状況(北より)
 - 2. SB4完掘状況(北東より)
- 図版7 1. SB5遺物出土状況(南より)
 - 2. SB5完掘状況(北より)
- 図版 8 1. 出土遺物 (SB2 · 3 · 4 · 5 (1))
- 図版 9 1. 出土遺物 (SB 5 (2) · SD 1 (1))
- 図版10 1. 出土遺物 (SD1) (2)
- 図版11 1. 出土遺物 (SD1) (3)
- 図版12 1. 出土遺物 (SD1) (4)
- 図版13 1. 出土遺物 (SD2) (1)
- 図版14 1. 出土遺物 (SD2) (2)
- 図版15 1. 出土遺物 (SD2) (3)
- 図版16 1. 出土遺物 (SD2) (4) · SD6·第V層)

第3章 中村松田遺跡3次調査地

- 図版17 1.調査地遠景(南東より)
 - 2. 調査前全景(北西より)
- 図版18 1. 基本土層(西より)
 - 2. 遺構完掘状況(西より)
- 図版19 1. SB1 完掘状況(北西より)
 - 2. SB1遺物出土状況(東より)
- 図版20 1. 出土遺物 (SB1 · SP32 · SP10)

第4章 小坂七ノ坪遺跡2次調査地

- 図版21 1. 遺構検出状況 (東より) 2. 北壁・SD2断面状況 (南西より)
- 図版22 1. SK13遺物出土状況(南東より) 2. SK13断面状況(東より)
- 図版23 1. SD1・2・3掘り下げ状況(西より) 2. 遺構完掘状況(北西より)
- 図版24 1. S K13出土遺物(1)
- 図版25 1. SK13出土遺物(2)
- 図版26 1. S K 13出土遺物 (3)
- 図版27 1. S K 13出土遺物(4)
- 図版28 1. 出土遺物 (SK13 (5)·SD1·SK11)

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターは、平成9年4月に市内中村2丁目54番1・2・3、平成10年2月に市内中村1丁目100番1、同年9月に市内小坂2丁目472-6の3箇所において宅地開発に伴う事前の発掘調査を実施した。発掘調査に至るまでの詳細は、第2章以降の各調査報告で行い、ここでは遺跡名称と周辺遺跡について、若干の解説をする。

平成9年4月に調査した中村2丁目54番1・2・3と、平成10年2月に調査した中村1丁目100番1は、埋蔵文化財包蔵地「No.108 中村町遺跡」内にあたる。同包含地内では、昭和62年3月に中村松田遺跡1次調査が実施され、弥生時代の竪穴式住居址をはじめとする集落関連遺構や遺物が確認されている。このことから、遺跡名称を前者は中村松田遺跡2次調査地、後者を中村松田遺跡3次調査地とした。

平成10年9月に調査した小坂2丁目472-6は、埋蔵文化財包蔵地「No.110 釜ノ口遺跡」内にあり、同包含地内では平成元年6月に七ノ坪遺跡1次調査が実施され、古代の溝のほか陶硯が出土している。このことから、遺跡名称を七ノ坪遺跡2次調査地とした。

野外調査終了以降は、各調査担当者が整理作業を行い、平成18年度には本格的な報告書作成作業を 実施した。この間には、松山市教育委員会文化教育課(現、文化財課)、ならびに財団法人松山市生 涯学習振興財団埋蔵文化財センターは互いに協力・支援をし、作業の円滑化に努めた。

表 1 調査地一覧

遺跡名	所 在 地	面積(㎡)	調査期間
中村松田2次	中村2丁目54番1.2.3	1675.03	1997年4月1日~同年8月31日
中村松田3次	中村1丁目100番1	1261.54	1998年2月2日~同年3月31日
小坂七ノ坪2次	小坂2丁目472-6	781.29	1998年9月1日~同年10月31日

2. 調査・刊行組織 (平成19年3月31日現在)

松山市教育委員会教育長 土居貴美

企 画 官 江戸 通敏

企 画 官 仙波 和典

企 画 官 宮内 健二

文 化 財 課 課 長 家久 則雄

(財) 松山市生涯学習振興財団 理事長 中村 時広

事務局長 吉岡 一雄

事務局次長 丹生谷 博一

調 査 監 杉田 久憲

埋蔵文化財センター 所長兼考古館館長 丹生谷 博一

次長兼管理係長 重松 幹雄

次長兼調査係長 田城 武志

学 芸 係 長 大北 冬彦

担当調査員 梅木 謙一(現在学芸係)

水本 完児

小笠原 善治

河野 史知

大西 朋子

3. 環 境

松山平野は、四国北西部、瀬戸内海に大きくつきだした高縄半島の西のつけ根にある。平野の規模は、西部瀬戸内地方で最も広い面積をほこる。平野は、重信川や石手川をはじめとする大小河川の堆積作用によってできた扇状地と沖積地からなる。海岸線は15km、海岸から重信川扇状部までは21km、面積は概ね320kmである。

素鵞地区は、平野の北東部にあり、石手川扇状地の扇端部に立地し、海岸までは7.5 kmである。 一帯には、弥生時代から古代までの集落が展開している。以下、周辺遺跡について時代をおって記述 する(第1図)。

先土器~縄文時代

近年、石手川南岸地域には、AT火山灰の堆積が確認されている。素鵞地内では、釜ノ口遺跡7次調査地でAT火山灰の2次堆積層を検出している。また、当地区の東にある束本遺跡4次調査地では、AT火山灰の1次堆積層を検出し、考古学に限らず地理学的研究にとっても大きな成果を得ている。

遺物では、釜ノ口遺跡より、有舌尖頭器1点が出土している。

この時代の遺構や遺物は少なく、釜ノ口遺跡~束本遺跡一帯の調査は今後重要となる。



①中村松田遺跡 1 ~ 3 次調査地 ②素鵞小学校構内遺跡 ③七ノ坪遺跡 1 次調査地 ④小坂七ノ坪遺跡 2 次調査地 ⑤中村長正寺遺跡 ⑥釜ノ口遺跡 ⑦福音小学校構内遺跡 ⑧来住廃寺 ⑨北井門遺跡 ⑩若草町遺跡 ⑪松山大学構内遺跡 ②文京遺跡

第1図 遺跡分布図(S=1:50,000)

弥生時代

当地区の南部には、平野を代表する弥生時代遺跡の釜ノ口遺跡がある。釜ノ口遺跡は現在までに8次の調査が実施され、後期の集落遺跡であることが分かっている。8回の調査で検出した遺構には、竪穴式住居址12棟、土坑6基、溝7条がある。竪穴式住居址は、主柱の基部が遺存するものが多くみられ、このうちには礎板をもつものもある。竪穴式住居址には、ガラス小玉を95点出土したものがあり、注目される。

古墳時代

素鵞小学校構内遺跡は5~6世紀を主体とする集落遺跡で、竪穴式住居址1棟と掘立柱建物9棟が 検出されている。竪穴式住居址からは、土師器と須恵器が出土し、特に須恵器では、非陶邑系のもの がある。

古 代

白鳳時代に比定される中村廃寺の存在が指摘されているが、所在は確認されていない。

(梅木)

「婶文〕

高尾和長 編 1996 『東本遺跡 4 次調査・枝松遺跡 4 次調査』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯 学習振興財団埋蔵文化財センター

森 光晴・長井数秋ほか 1973 『釜ノ口遺跡調査報告書』松山市教育委員会

松 山 市 1987 「釜ノ口遺跡 第4~5次」「素鵞小学校遺跡」『松山市史料集』

森 光晴 1986 「小坂釜ノ口遺跡 第2~5次|『愛媛県史資料編考古』愛媛県

高尾和長編 1997 『釜ノ口遺跡 II - 6 · 7 · 8 次調査 - 』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯 学習振興財団埋蔵文化財センター 第2章

中 村 松 田 遺 跡
- 2 次調査地-



第2章 中村松田遺跡2次調査地

1. 調査の経過

(1)調査に至る経緯(第2図)

1996(平成8)年7月、関谷九郎氏より、松山市中村2丁目54番1・2・3における宅地開発にあたり、当該地の埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課(以下、文化教育課)に提出された。申請地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『108 中村町遺跡』内にあり、当地域は弥生時代から古墳時代までの集落地帯である。申請地の北5mには、中村松田遺跡1次調査地があり、弥生時代後期~終末期の竪穴住居址、溝、土坑、6世紀以降の掘立柱建物址が検出されている。北東200mには5~6世紀を主体とする素鵞小学校構内遺跡があり、竪穴住居址1棟と掘立柱建物址9棟が検出されている。竪穴住居址からは、土師器と須恵器が出土し、特に須恵器には、非陶邑系のものがあり注目される。また、南500mには、現在までに10次の調査が実施された釜ノ口遺跡がある。遺跡は弥生後期の集落遺跡で、竪穴住居址1棟、土坑6基、溝7条等が検出されている。竪穴住居址には、主柱の基部が遺存するものが多くみられ、礎板をもつものもある。土坑には、松山平野で数少ない貯蔵穴と比定できるものがあり、土坑中から種子や木製品が伴出している。

このことから、当該地における埋蔵文化財の有無と、さらには遺跡の範囲や性格を確認する必要があるため、1996(平成8)年7月25日に文化教育課は試掘調査を実施した。



第2図 調査地位置図 (S=1:2000)

試掘調査では、竪穴住居址1棟、柱穴3基と遺物包含層を検出し、上部層からは中世の土師器片、下部層からは弥生土器片が多数出土した。さらには、遺構検出面が二面あり、上層面からは中世の柱穴、下層面からは弥生時代の柱穴を検出し、遺跡が二時期にわたることを確認した。

これらの結果を受け、文化教育課と申請者の両者は遺跡の取り扱いについての協議を重ね、宅地開発に伴って消失する遺跡に対し、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、弥生時代及び古墳時代の集落解明を調査の主目的とし、文化教育課の指導のもと、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが主体となり、1997(平成9)年4月1日より本格調査を実施した。

(2)調査の経緯

調査は、4月1日から7月31日までは野外調査、8月1日から8月31日までは室内調査を実施した。 以下、調査経緯を略記する。

1997(平成9)年4月1日、調査区を設定する。調査は排土置場の都合上、調査区をA・B地区に分けて実施した。掘削までの期間は、草刈りや調査地一帯の地形測量を行った。4月9日、A地区の調査を開始する。ユンボで第V層上面(中世)までを掘削する(4月12日終了)。4月14日、高所作業車を用いて、中世遺構の検出写真を撮る。4月15日、中世の遺構を完掘し、遺構完掘状況の写真を撮る。また、遺構の測量を開始し、同日に測量を終了する。4月16日~18日、ユンボで第Ⅲ層上面(地山)までの掘削を行う。4月21日~5月28日、弥生時代遺構の掘り下げと測量を行う。5月29日、高所作業車で遺構完掘状況の全景写真を撮る。6月4日~6日、A地区の埋め戻し。6月7日~10日、B地区を設定して、ユンボで第Ⅲ層上面(地山)まで掘削する。6月12日~30日、弥生時代の遺構を掘り下げる。7月1日、高所作業車で、B地区の遺構完掘状況の写真を撮る。7月2日~22日、遺構の測量をする。7月15日、素鵞小学校6年生120名に対し現地説明会を行う。7月23日~24日、B地区をユンボで埋め戻す。7月25日、道具の片付けを開始し、7月31日に道具を撤去して野外調査を完了する。8月1日~31日、松山市埋蔵文化財センターにて測量図や出土物の整理作業を行う。

(3) 調査組織

遺跡 名 中村松田遺跡 2 次調査地

調査場所 松山市中村2丁目54番1・2・3

調査期間 1997 (平成9) 年4月1日~同年8月31日

調査面積 1675.03 m²

調査主体 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

調査委託 関谷九郎、関谷省三、穂坂キクエ、穂坂 昇、㈱四国中央ホーム

調査担当 梅木謙一・水本完児

2. 層 位 (第3図)

調査地は、松山平野北東部、石手川扇状地の端部にあり、標高28.2~28.6 mに立地する。

基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層床土、第Ⅳ層灰色砂質土、第Ⅴ層黒褐色土、第 Ⅵ層黒色土、第Ⅲ層淡い茶色土である。

第 I 層は造成土で、厚さ35~45cmを測る。調査区全域で検出した。

第Ⅱ層は耕作土で、厚さ5~20cmを測る。調査区全域で検出した。

第Ⅲ層は床土(褐色土)で、厚さ5~15cmを測る。調査区全域で検出した。

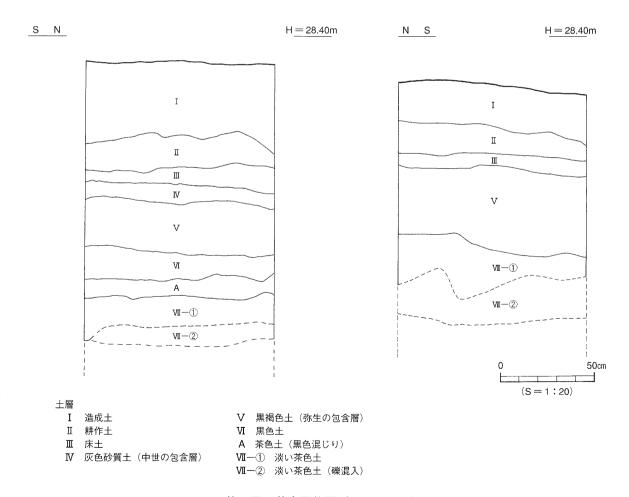
第Ⅳ層は灰色砂質土で、厚さ7~10cmを測る。中世の土師器を含む遺物包含層である。調査区南壁中央部で検出した。

第V層は黒褐色土で、厚さ25~30cmを測る。弥生土器と須恵器を含む遺物包含層である。調査区全域で検出した。なお、第V層上面では、中世の遺構を検出している。

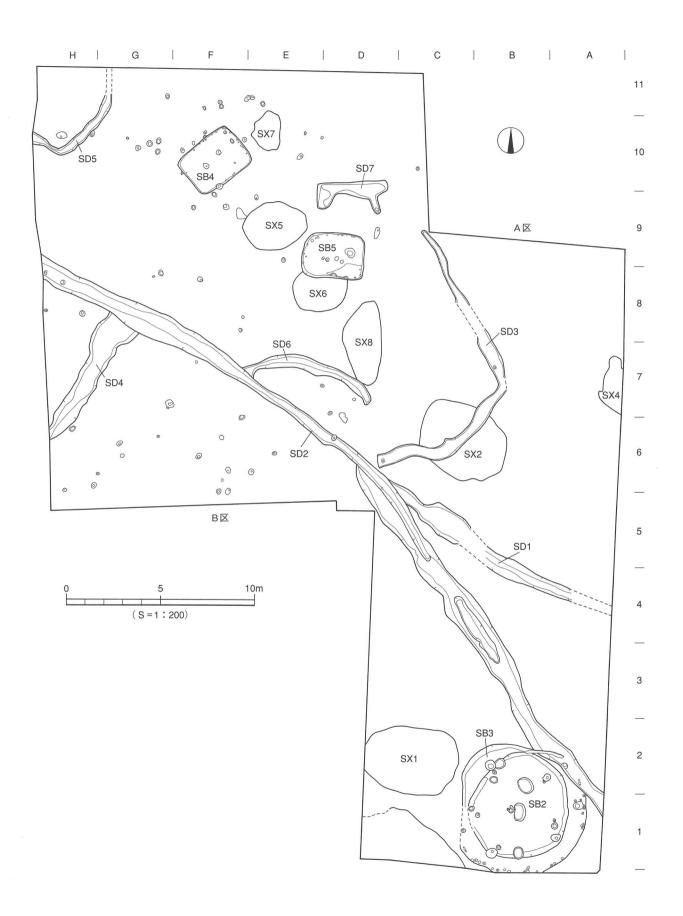
第VI層は黒色土で、厚さ10~20cmを測る。無遺物層である。調査区北壁中央から東側、南壁中央から西側で検出した。

第四層は礫の混入により上・下に細分できる。四一①は淡い茶色土で、四一②は淡い茶色土に礫が 混じるものである。第四層上面では、弥生時代~古代の遺構を検出した。

なお、南西隅の自然地形の落ちには、茶色土(黒色混じり)がみられた。第3図では、この層をAとして記載した。



第3図 基本層位図(S=1:20)



第4図 遺構配置図

3. 遺構と遺物 (第4図)

本調査では、主に弥生時代と中世の遺構を確認した。弥生時代の遺構は、竪穴住居址(SB)4棟、溝(SD)7条、弥生時代~古代の遺構は柱穴58基、中世の遺構は柱穴48基を検出している。

(1) 弥生時代

弥生時代の遺構は、竪穴住居址4棟、溝7条を検出した。

1) 竪穴住居址 (SB) …竪穴住居址はSB2~5の4棟である。なお、調査当初は、竪穴住居址とし調査していたものが、途中で自然の落ちと判明したため、本報告では、SB1が欠番となる。SB2 (第5・6 図、図版3・6)

SB2は、調査区南東部、A1~C2区に位置し、SB3の内側にあり、SB3に切られる。平面 形態は円形を呈し、規模は東西 $5.2\,\mathrm{m}$ 、南北 $5.6\,\mathrm{m}$ 、深さ $10~25\mathrm{cm}$ を測る。埋土は黒色土(黄色土が斑点状に混入)で深さ $3~21\mathrm{cm}$ を測る。遺物は、少量の土器と礫が出土している。

施設は、主柱穴・炉・壁体溝を検出した。主柱穴は5本柱($P1\sim5$)で、平面形態は円形と楕円形を呈している。主柱穴の直径は $13\sim40$ cm、深さは $13\sim25$ cmを測る。柱穴埋土は黒褐色土で、遺物には土器片が少量ある。炉は住居の中央で検出した。平面形態は長円形で、規模は東西60cm、南北95cm、深さ $2\sim7$ cmを測る。炉の埋土は2層に分層され、上層は黒褐色土で深さ $2\sim4$ cm、下層は暗茶褐色土(粘性が強い)で深さ $2\sim5$ cmを測る。遺物は、土器片が1点出土した。壁体溝は住居の北西側で検出したが、大半は削平を受けていて検出できなかった。規模は遺存長1.7m、幅 $18\sim26$ cm、深さ4cmを測る。埋土は黒褐色土で、遺物は出土しなかった。

出土遺物(第7·8図、図版8)

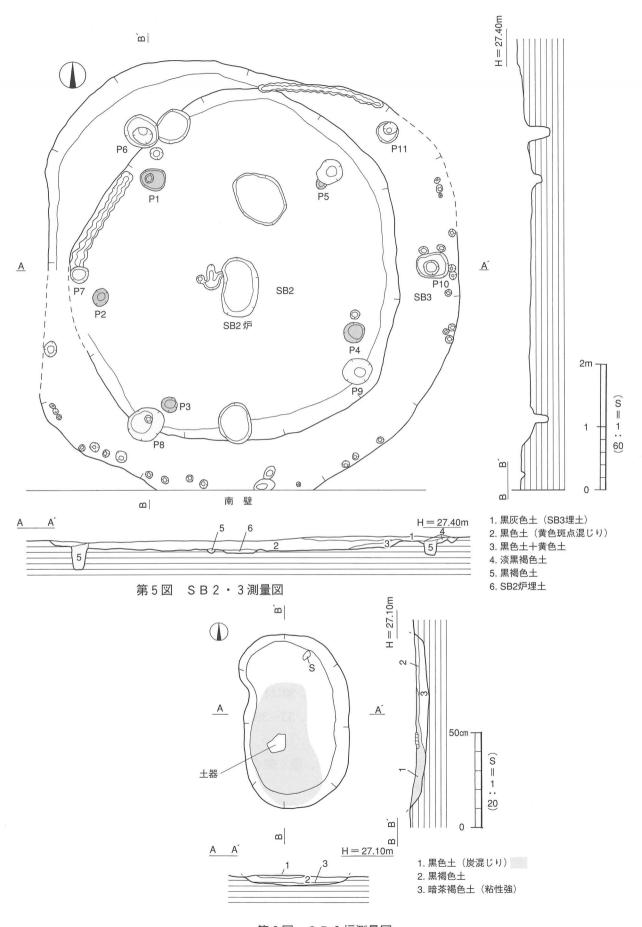
出土品には、甕形土器、壺形土器、高坏形土器、鉢形土器、支脚形土器、器種不明の土製品がある。 甕形土器は $1\sim10$ で、 $1\sim6$ は口縁部が「く」の字状に外反するものである。7は胴上半部片で、叩き痕がみられる。 $8\sim10$ は底部で、8は上げ底で叩き痕をもつ。

壺形土器は11~28で、11~19は複合口縁壺である。11は一・二次口縁の接合部(以下、口縁接合部と記す)に沈線文、12は頸胴部境に断面三角の突帯文を施す。16~19は頸部片で、木口押圧による刻目突帯文をもつ。20・21は外反する単純な口縁部を呈するもので、20は口縁端面に2条の沈線文を施す。22・23は細長頸壺で、22は口縁部外面にクシ描波状文、23は頸部を挟んで斜線充填の三角文とクシ描の多条沈線文を施す。24は肩部片で、「ノ」の字状の刺突文を施す。25~27は底部片である。28は口縁端部が垂下し、口縁内面に突帯をもつ。弥生前期末~中期初頭の土器片である。

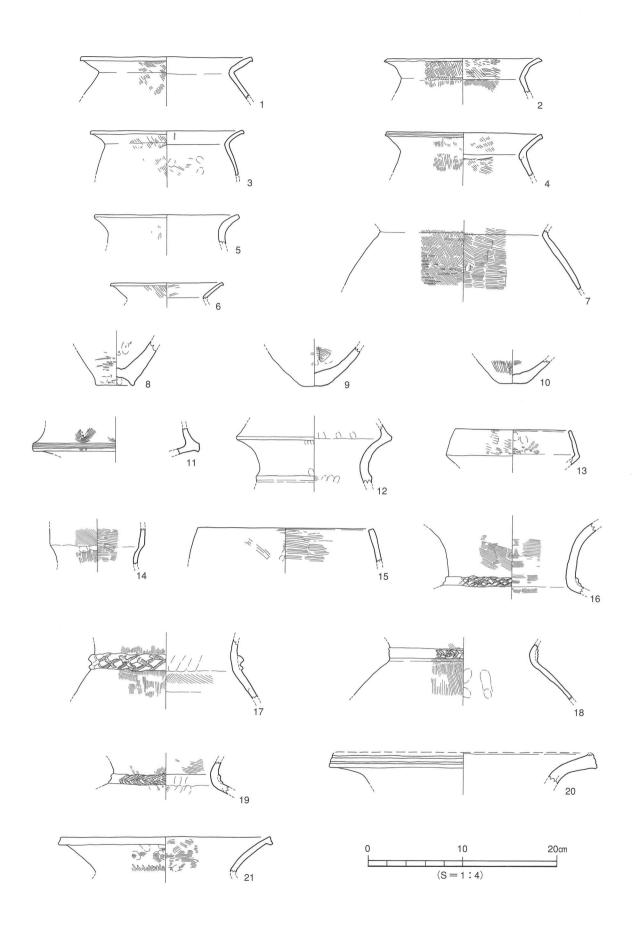
高坏形土器は29・30で、29は坏部、30は裾部となる。30は柱部がエンタシス状を呈するものである。 鉢形土器は31~40である。31・32は口縁部が外反し、33~36は直口口縁となる。37・38は底部片で、 39・40は台付鉢の脚部片となる。

支脚形土器は41~44で、41・42は円筒状の柱部に、短く開く口縁部と裾部をもつ。43は扁平な指部で、44は円孔を持つ低脚のものである。

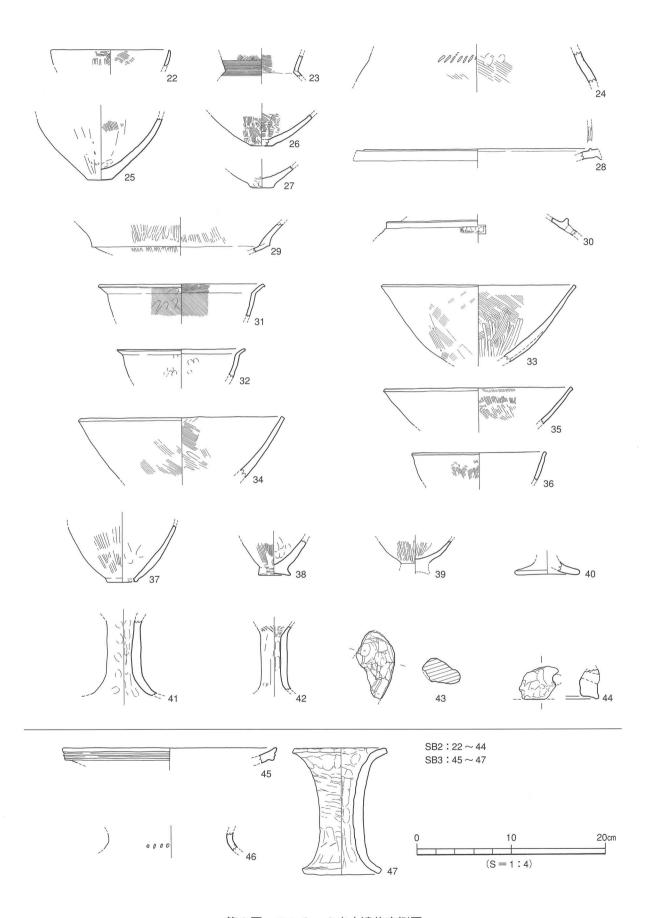
時期:出土土器は弥生時代後期後葉に属するもので、住居址の廃棄時期も同時期とする。



第6図 SB2炉測量図



第7図 SB2出土遺物実測図(1)



第8図 SB2・3出土遺物実測図

SB3 (第5図)

SB3は、調査区南東部、A1~C2区に位置し、SB2の外側にあり、SB2を切る。平面形態は楕円形を呈し、規模は東西 6.6 m、南北 6.8 m、深さ 2~8 cmを測る。埋土は黒灰色土で、遺物は土器片と礫が少量出土している。

施設は、主柱穴と壁体溝を検出した。主柱穴は6本柱(P 6 \sim 11)で、平面形態は楕円形を呈している。主柱穴の直径は25 \sim 55 cm、深さは17 \sim 36 cmを測る。埋土は黒灰色土で、遺物は土器片が出土した。壁体溝は住居の北側で検出し、それ以外は削平を受け検出できなかった。規模は遺存長2 m、幅10 \sim 15 cm、深さ4 cmを測る。埋土は黒褐色土で、遺物は土器片が数点出土した。

出土遺物(第8図、図版8)

出土品には、甕形土器、壺形土器、支脚形土器がある。

45は甕形土器の口縁部小片である。口縁端面には2条の沈線文をもつ。46は壺形土器の肩部片で、刺突文をもつ。47は支脚形土器で、一部を欠損する。円筒状の柱部に、短く外反する口縁部と裾部をもつ。

時期:出土品より、弥生時代後期後半としておく。

SB4 (第9回、図版6)

SB4は、調査区北西部、F9~F10区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は東西 $3.4\,\mathrm{m}$ 、南北 $2.6\,\mathrm{m}$ 、深さ $20\,\mathrm{cm}$ を測る。埋土は $2\,\mathrm{em}$ に分層され、 $1\,\mathrm{em}$ 信は茶色土(黒褐色土に砂混じり)で深さ $2\,\mathrm{em}$ で深さ $2\,\mathrm{em}$ を測る。遺物は、北東側の $1\,\mathrm{em}$ を引きた。 $2\,\mathrm{em}$ を測さ、 $2\,\mathrm{em}$ と $2\,\mathrm{em}$ を測さ、 $2\,\mathrm{em}$ を測さ、 $2\,\mathrm{em}$ と $2\,\mathrm{em}$ を引き、 $2\,\mathrm{em}$ と $2\,\mathrm{em}$ を引き、 $2\,\mathrm{em}$ と $2\,\mathrm{em}$ を引き、 $2\,\mathrm{em}$ と $2\,\mathrm{em$

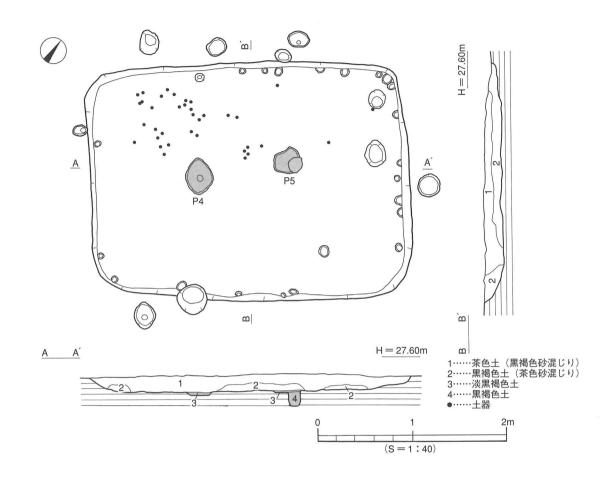
施設は、主柱穴を検出した。主柱穴は 2 本柱(P 4 ・ 5)で、平面形態は楕円形で埋土は黒褐色土である。主柱穴の直径は $21\sim40$ cm、深さは $5\sim17$ cmを測る。

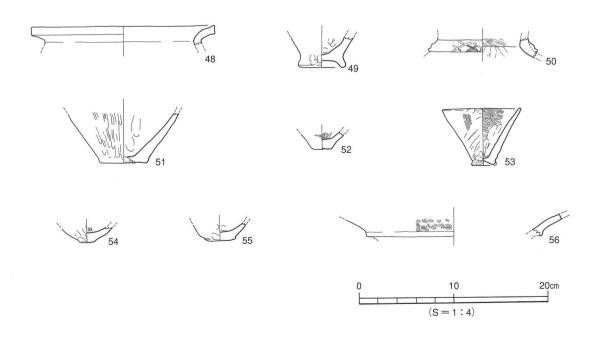
出土遺物 (第9回、図版8)

出土品には甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器がある。

48・49は甕形土器で、48は口縁端部が面をなす。49は底部で、くびれの上げ底となる。50~52は壺形土器で、50は頸胴部境に木口押圧の刻目突帯文をもつ。51・52は平底の底部片。53~55は鉢形土器である。53は口縁部の一部を欠損する。直口口縁で、くびれの上げ底をもつ。54・55は底部で、小さく突出する平底となる。56は高坏形土器の坏部片である。

時期:出土遺物より、弥生時代後期中~後葉をあてておく。





第9図 SB4測量図・出土遺物実測図

SB5 (第10回、図版4)

SB5は、調査区北西部、D8~E9区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は東西 $3.3 \, \text{m}$ 、南北 $2.3 \, \text{m}$ 、深さ $3 \sim 20 \, \text{cm}$ を測る。埋土は $2 \, \text{層}$ に分層され、 $1 \, \text{層}$ は黒褐色土(茶色混じり)で深さ $3 \sim 20 \, \text{cm}$ 、 $2 \, \text{層}$ は黒色土(茶色混じり)で深さ $2 \sim 8 \, \text{cm}$ を測る。

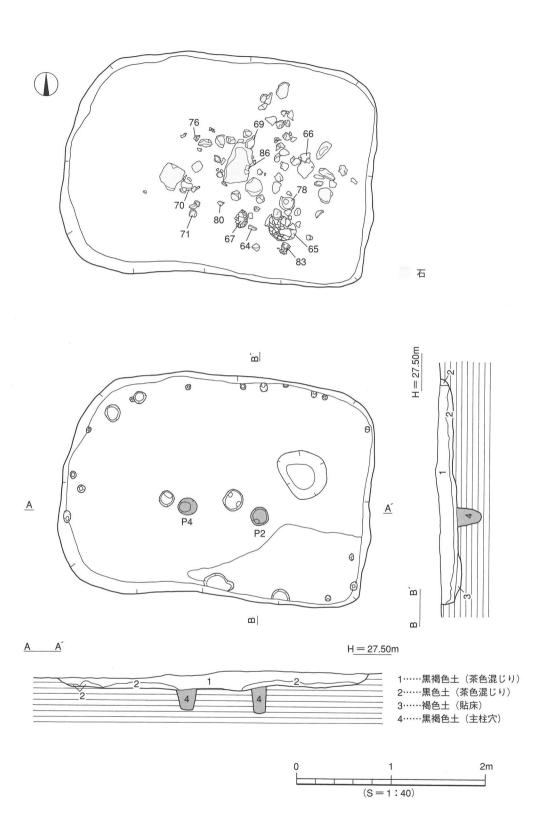
施設は、主柱穴 2本(P 2 · 4)を検出した。主柱穴は 2本柱で、平面形態は円形である。主柱穴の直径は $17\sim20$ cm、深さは $22\sim25$ cmを測る。また、住居址の南東部では貼り床を検出した。貼り床の規模は東西 1.8 m、南北 0.82m、厚さ $2\sim6$ cmを測る。埋土は褐色土である。遺物には土器片があり、上部から掘りこまれた部分には土師器(皿)が出土している。

出土遺物(第11·12図、図版8·9)

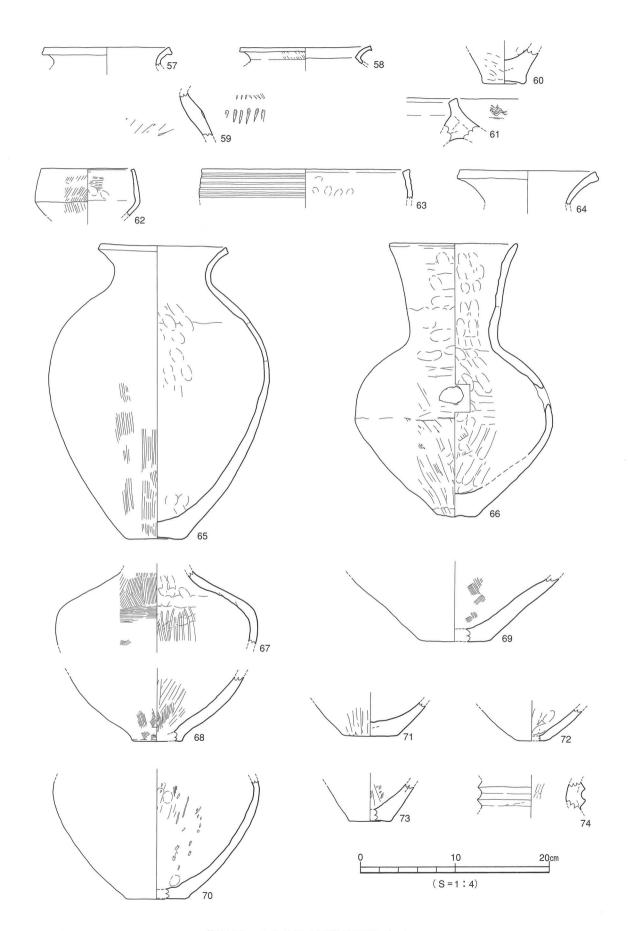
出土品は甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、器種不明土製品ほかである。

57~59は甕形土器である。57・58は口縁部小片で、57の口縁端部は幅広く面をなす。60は底部で、上げ底となる。59は胴上半部で、木口押圧による「ノ」の字状文を施す。61~74は壺形土器である。61~63は複合口縁壺で、61はクシ描波状文、63は多条沈線文を施す。64は口縁部で、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。65は完形品で、肩部に張りをもつ胴部に、短く内傾~直立してたちあがる頸部、短く外反する口縁部をもつ。底部は中央部がわずかにくほむ。66は完形品で、肩部に焼成後の穿孔を1ヶもつ。肩部が張り、外傾してたちあがる長い口頸部をもつ。底部は平底で厚い。67は胴上半部で、肩部の張りが強い。68~73は底部で、平底となる。74は頸部小片で、断面三角形の貼付け突帯を2条もつ。中期中葉の土器片である。75~81は鉢形土器である。75~78は口縁部が外反するもので、79・80は上げ底の底部をもつ。81は直口口縁で、脚台がつくものか。82~86は高坏形土器で、82は坏部片である。83は脚部で、円孔を2段に巡らす。84~86は裾部で、86は円孔を穿つ。87は器種不明品で、口縁部は水平となる。88は中世の土師器片で、坏の底部である。

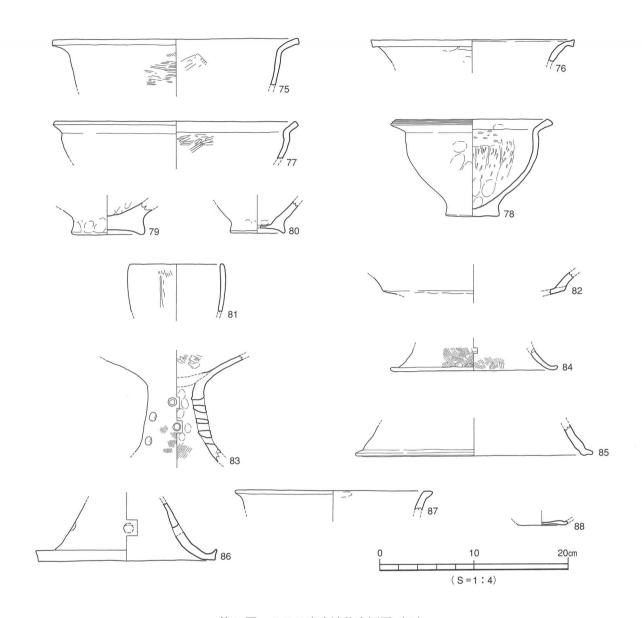
時期:出土品より、弥生時代後期後葉とする。



第10図 SB5測量図・遺物出土状況



第11図 SB5出土遺物実測図(1)



第12図 SB5出土遺物実測図(2)

2) 溝(SD) …溝はSD1~7の7条を検出した。

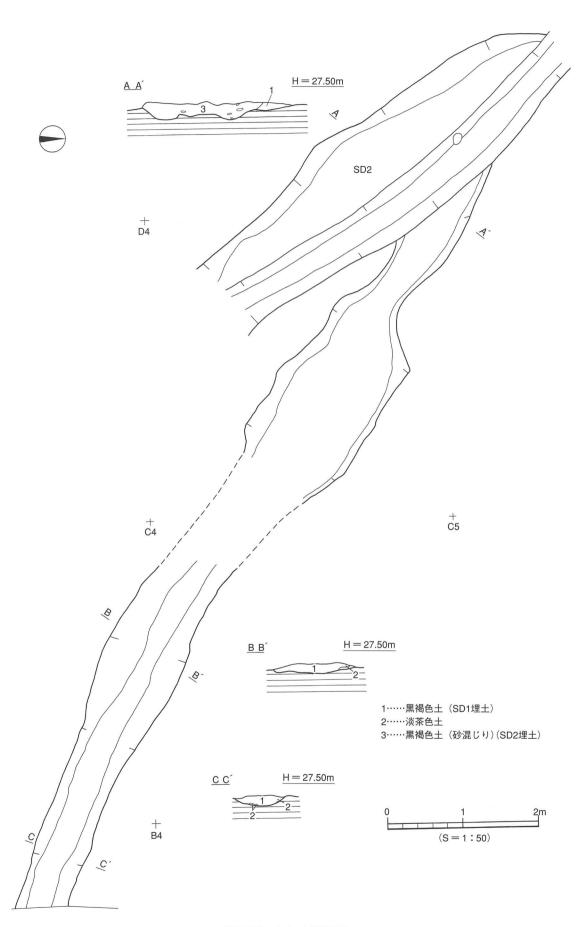
SD1 (第13·14図、図版5)

SD1は、調査区東壁から中央、A4~D6区で検出した。調査区の中央ではSD2と合流している。規模は全長11.3 m、幅0.50~1.45m、深さ2~15cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土である。出土遺物は完形に近い大型の土器が多く、礫の出土もある。

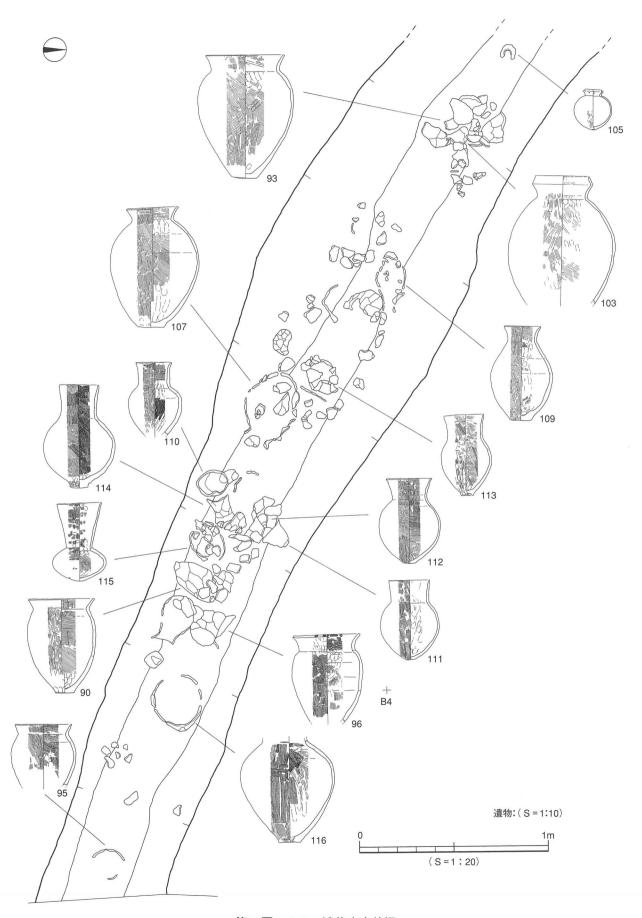
出土遺物 (第15~19回、図版 9~12)

出土品には甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器がある。

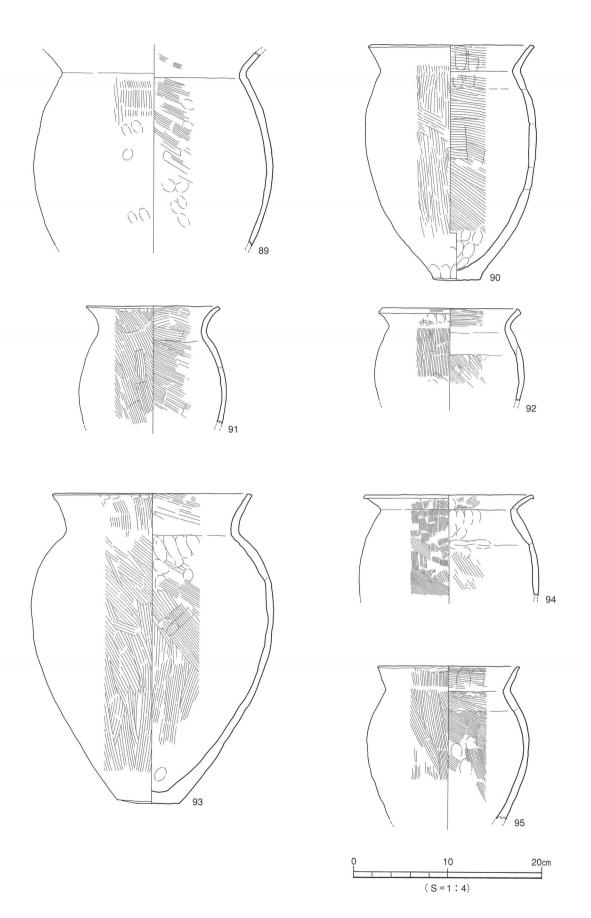
甕形土器は89~102で、89~92は胴上半部がゆるやかに張り、93~98は肩部の張りが強いものである。口縁部はいずれも上外方に長くのびるもので、底部は平底もしくはわずかにくぼむものになる。90・93・96・97は一部を欠くが、完形品に近い遺存のものである。このうち、96は胴部と口縁部との境に粘土接合の跡を明瞭に残す。



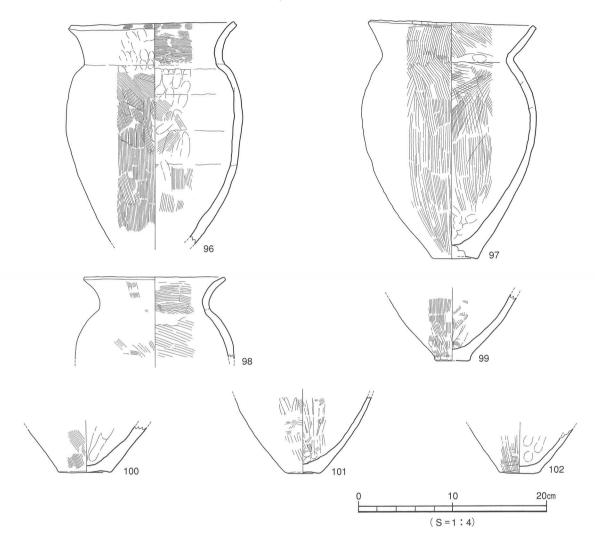
第13図 SD1測量図



第14図 SD1遺物出土状況



第15図 SD1出土遺物実測図(1)



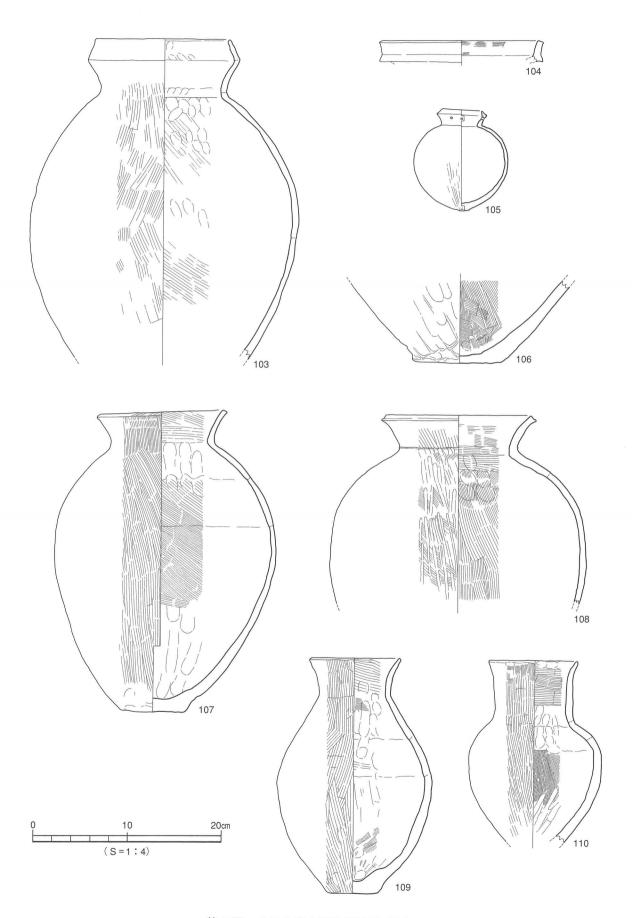
第16図 SD1出土遺物実測図(2)

壺形土器は103~117である。103~106は複合口縁壺で、二次口縁部は無文となる。105は小型の完形品で、一次口縁部に2ヶ1組の小円孔が2組施されている。107・108は短く外反する口縁部をもつもので、107は一部を欠損するが、完形品にちかい遺存品である。109~115は、口頸部が長いものである。胴部は丸くなり、底部はたちあがりをもつ。115は細長頸壺で、扁平球の胴部をもつ。117は胴下半部片で、中型品となる。

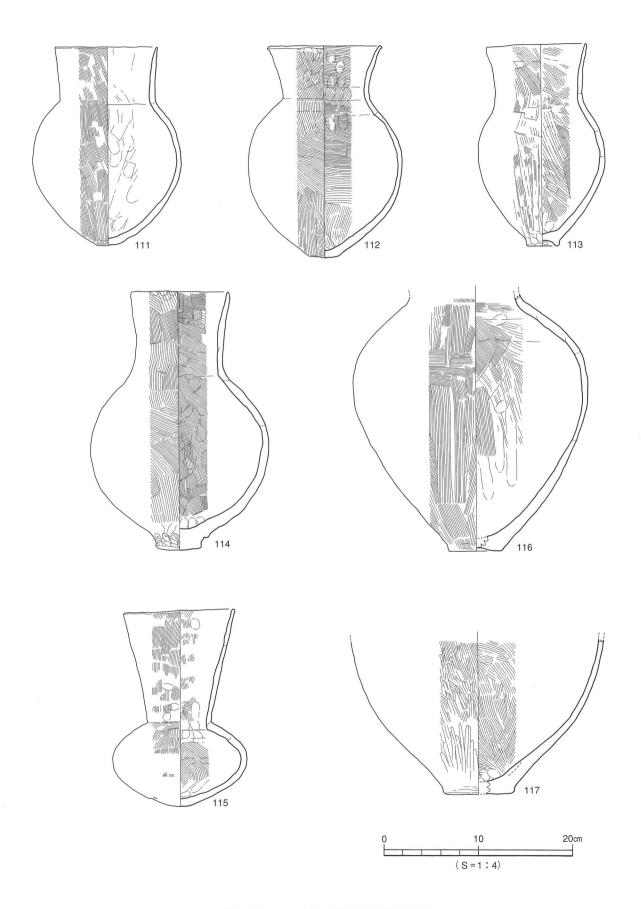
鉢形土器は118~128で、口縁部が外反するもの118~125と直口口縁のもの128がある。118・119は口径値に対する器高値の割合が高いもので、口縁部は長く上外方にのびる。120~123は口径値が器高値を大きく凌ぐもので、123は口縁部が内湾してたちあがる。124・125は胴部が球形~扁平球を呈し、壺形土器としても良いものである。126・127は類似品から、外反する口縁部がつくものになる。128は直口口縁で、胴部は逆台形状を呈する。

高坏形土器は129~133で、129は坏部の口縁部片で、口縁端面にはクシ描波状文をもつ。130は坏部、131~133は裾部となる。133は裾部に円孔を穿つ。

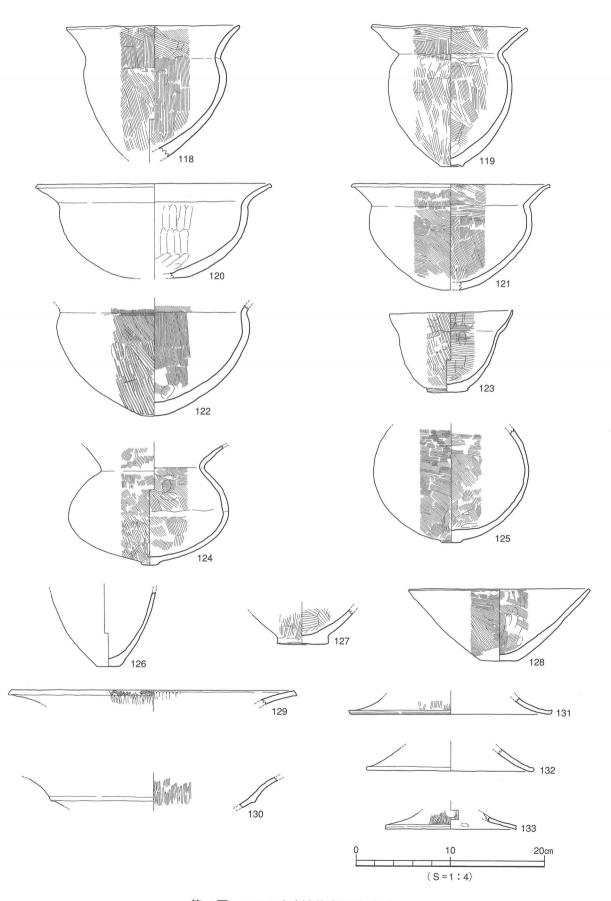
時期:出土品より、弥生時代後期後葉とする。



第17図 SD1出土遺物実測図(3)



第18図 SD1出土遺物実測図(4)



第19図 SD1出土遺物実測図(5)

SD2 (第20·21図、図版5·6)

SD2は、調査区東壁南東から西壁中央、A1~H9区で、調査区を横断するように検出した。調査区中央C5~D6区ではSD1、中央西E7~F7区ではSD6、北西部G8区ではSD4が合流する。規模は全長42.3 m、幅0.50~1.65m、深さ2~15cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土(少し砂混じり)である。出土遺物は復元完形品を含む多くの土器と、石製品がある。

出土遺物 (第22~31図、図版13~16)

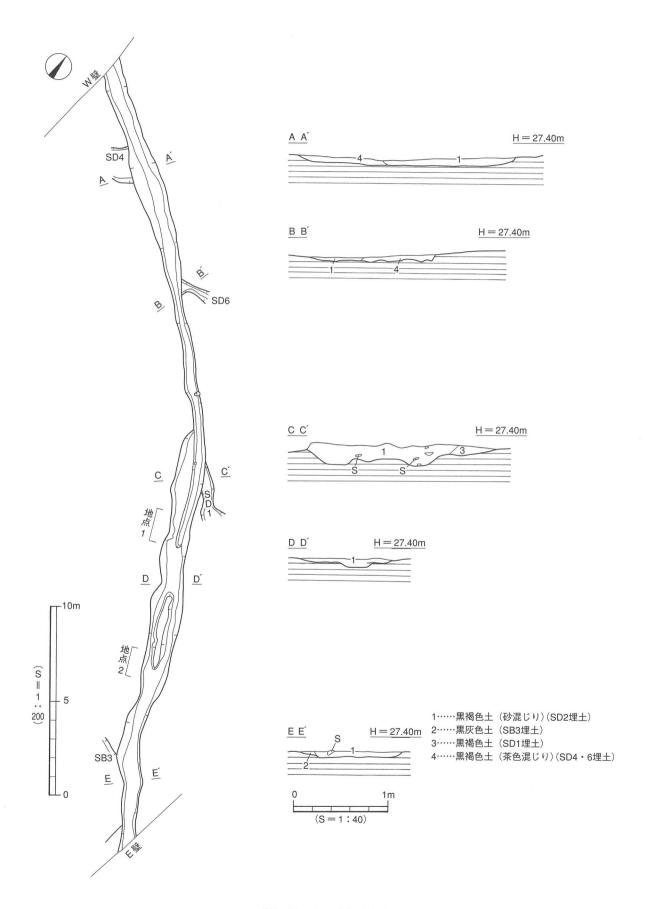
出土品には甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、器台形土器、支脚形土器、石庖丁などがある。

甕形土器($134\sim168$) $134\cdot135$ は大型品で、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。口縁端部は明瞭な面をもつ。 $136\sim152$ は中型品である。 $136\sim141$ はこのうち法量が大きいもので、口縁部が直線的にたちあがるものが多い。136は胴上半部に強い張りをもつ。 $139\sim147$ は出土数が最も多い法量の甕形土器で、胴上半部の張りが強いものが一般的である。139は一部を欠損するが良好な遺存のもので、長胴で、胴部全体の張りが少ない。 $148\sim152$ は中型品のなかでは小さいもので、148は胴部が短いものである。 $153\sim156$ は小型品で、肩部に張りをもつ。 $157\sim159$ は口縁端部がナデにより拡張されるもので、 $157\cdot158$ の肩部には木口押圧の「ノ」の字状文が施されている。 $157\sim159$ は先の甕形土器よりは古い形態のものである。 $160\sim168$ は底部片で、168を除いてあいまいなたちあがりをもち、平底もしくはくぼみ底になる。168は小型品で、くびれの上げ底となる。

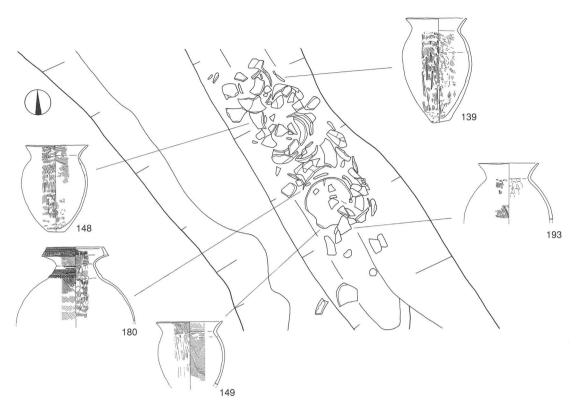
壺形土器(169~235) 169~191は複合口縁壺である。頸部から一次口縁端までの長さと形により区別され、短いものから掲載した。169~172は、頸部下端から短く外傾及び外反するもので、172の頸胴部境には斜格子目の刻目突帯がつく。173~176は外傾・外反するやや長い口頸部をもつもので、176は頸胴部境に斜格子目の刻目突帯をもつ。177~179は外傾する頸部に大きく開く一次口縁がつくもので、口縁部にはクシ描波状文をもつ。177・178には頸胴部境に木口押圧による斜格子目の刻目突帯がつく。180~182は頸部が内傾するものである。180は口縁部と頸部にクシ描直線文・波状文がつく。183~191は口縁部片で、183~187は接合部が突出するものである。187は口縁部に斜格子目文とクシ描波状文、接合部に斜格子目文をもつ。188・189は接合部が面をなし、190・191は接合部が稜となるものである。

192~194は口頸部が短く外反するものである。194は欠損部分をもつが、完形品にちかい遺存品である。195~201は口頸部が長いもので、外傾~直立する頸部をもつ。200は頸胴部境に断面三角形の突帯、201は肩部に「ノ」の字状の刺突文が巡る。202~206は細長頸壺である。202と203は同一体の可能性をもつ。204は口縁部外面にクシ描波状文、205はクシ描直線文2段、206は半截竹管文とクシ描波状文をもつ。

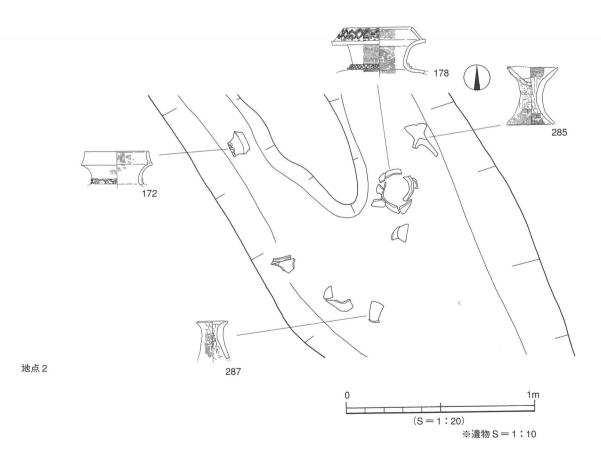
 $207\sim218$ は頸部片である。 $207\sim210$ は「ノ」の字状文、 $212\sim217$ は突帯を巡らす。218は頸部にクシ描直線文、頸胴部境に断面三角形の突帯文、肩部にクシ描波状文を施す。色調も白っぽく、施文手法も他とは異なる。 $219\sim235$ は底部片である。 $219\sim225$ は中型~大型品で、たちあがりをもち、平底となるものである。 $226\sim235$ は中型品で、226は平底、 $227\cdot228$ は丸みのある平底。 $229\sim231$ は中型品で、底径がやや大きく、小さいたちあがりをもつ。 $232\cdot23$ 3はたちあがりをもち、底径が小さく、平底となる。234は平底、2354は上げ底となる。



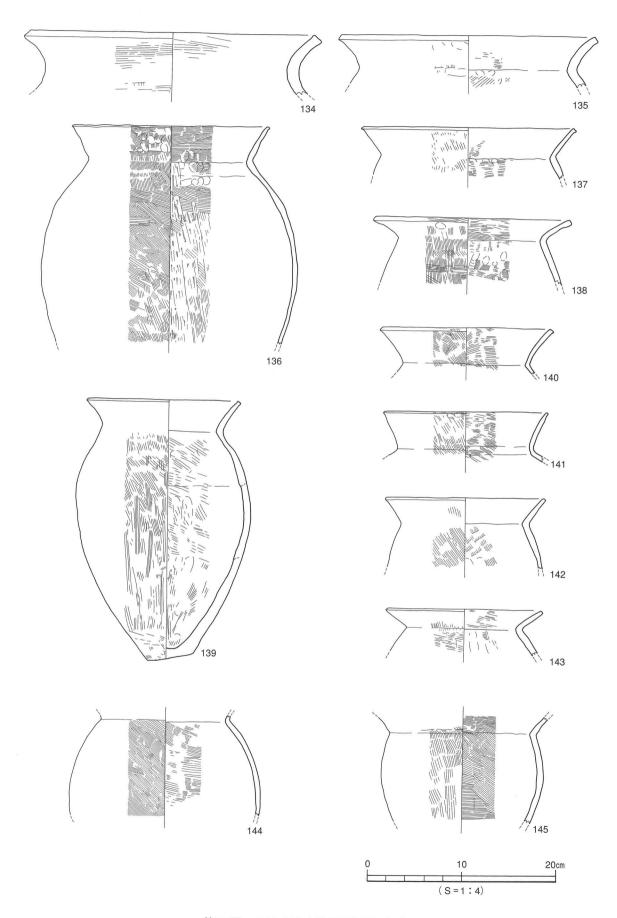
第20図 SD2測量図



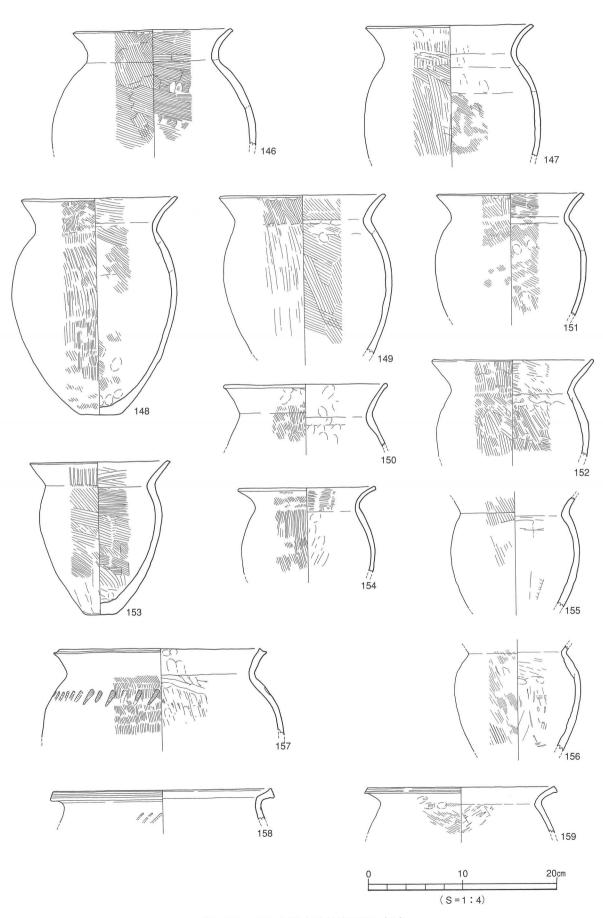
地点1



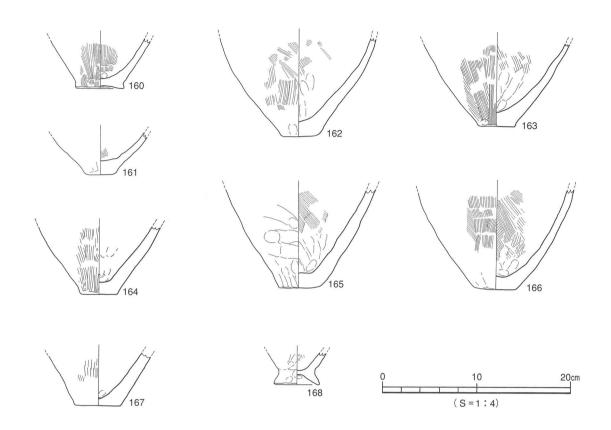
第21図 SD2遺物出土状況



第22図 SD2出土遺物実測図(1)



第23図 SD2出土遺物実測図(2)



第24図 SD2出土遺物実測図(3)

鉢形土器($236\sim263$) $236\sim244$ は口縁部が外反するものである。 $236\sim239$ は口径値が器高値を大きく凌ぐもので、 $240\cdot241$ は器高値が口径値をわずかに凌ぐ。244は長い口縁部が大きく開くものである。 $245\sim248$ は直口口縁となるものである。249は脚台がつくものである。 $250\sim263$ は底部で、ほとんどのものがたちあがりをもつ平底が多く、くぼみ底となるものが少数みられる。

高坏形土器($264\sim278$) $264\sim272$ は坏部で、 $264\cdot265$ は口縁部が短く、口縁端部がナデにより拡張される。 $266\sim271$ は長い口縁部が大きく開くものである。272は口縁端部が拡張されるもので、裾部が二段になるものである。 $273\sim278$ は脚部で、 $273\cdot275$ は円孔 1 段、 $274\cdot277$ は円孔を 2 段に施す。276は坏底部に小円孔と柱上部に沈線文をもつ。278は坏底部の充塡が欠落している。

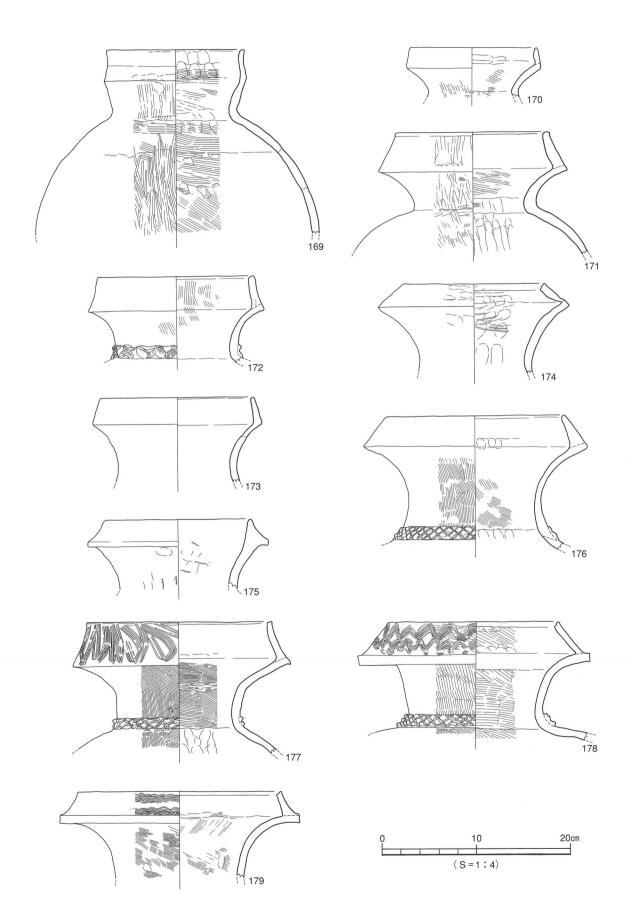
器台形土器 (279~284) 279~281は受部である。279は口縁端面に斜線充填の三角文、半截竹管と竹管文入りの円形浮文があり、口縁上端部にも半截竹管をもつ。282~284は柱部及び裾部で、282は円孔3段、283は円孔2段、284は楕円形状の透し孔をもつ。

支脚形土器 (285~289) 285・286は受部が「U」の字状に傾斜し、287は受部径が小さいものである。288・289は裾部がゆるやかに開いている。

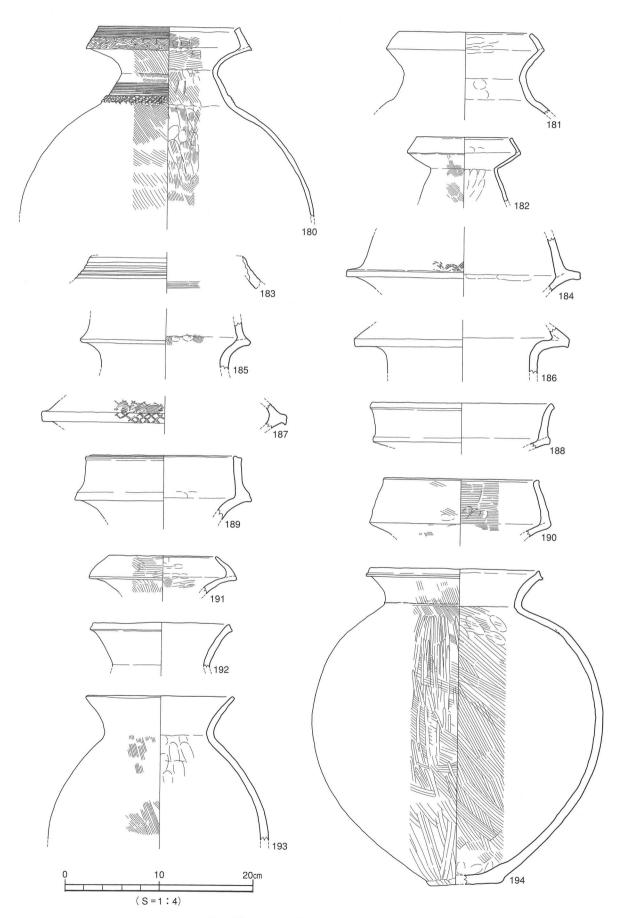
その他(290~293) 290は大きな平坦部をもつものである。逆転する可能性をもつ。291は手づく ね品で、器種・器形が判断できない。292・293は把手部をもつジョッキ形の土製品である。いずれも 把手部が欠落している。

石庖丁(294) 294は緑色片岩製の石庖丁である。両側部に抉りをもつ。

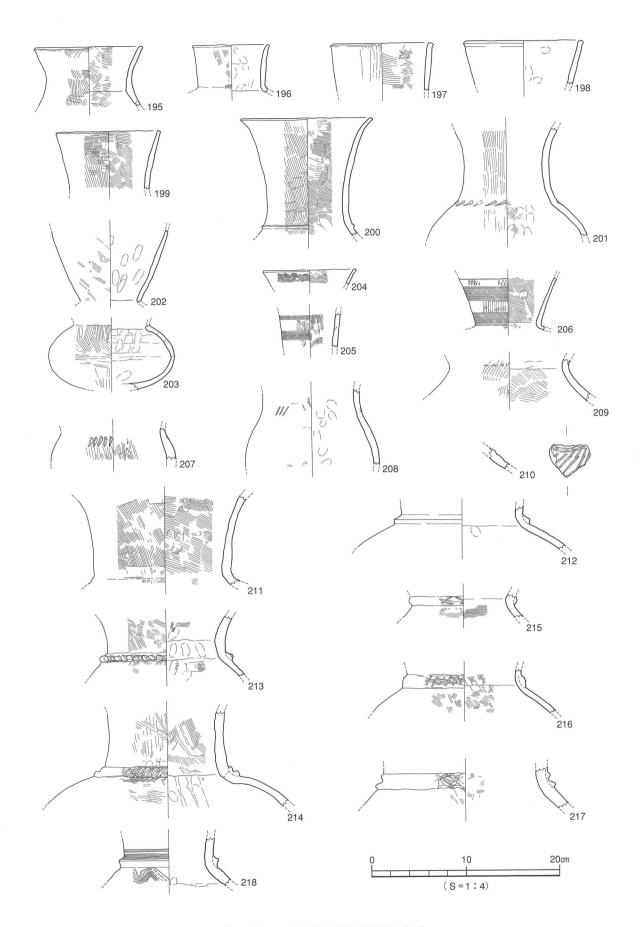
時期:出土品より、弥生時代後期後葉とする。



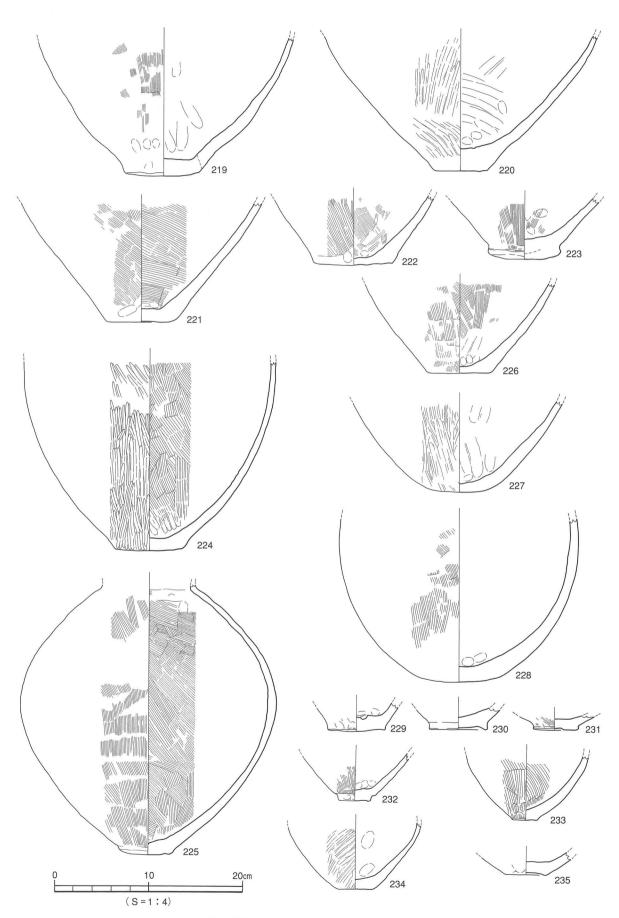
第25図 SD2出土遺物実測図(4)



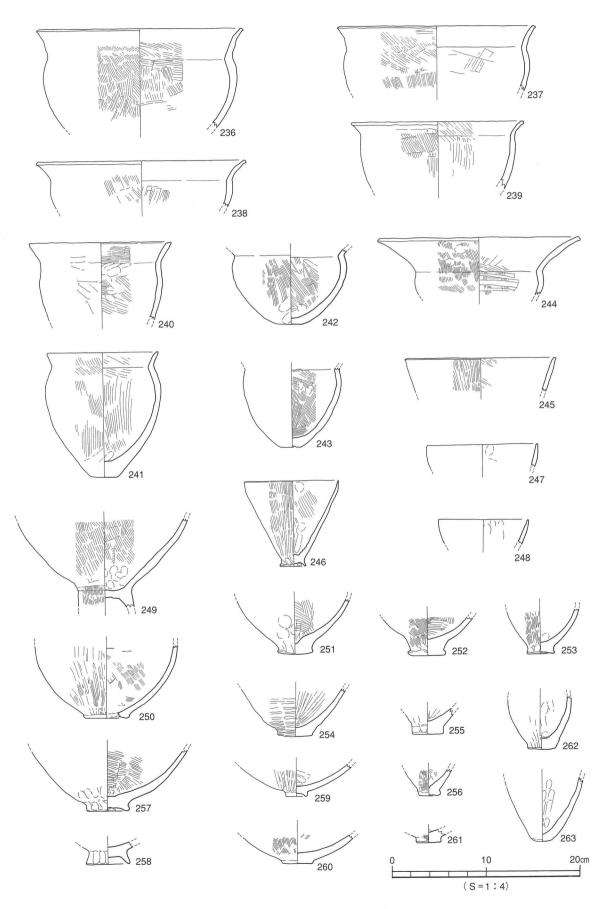
第26図 SD2出土遺物実測図(5)



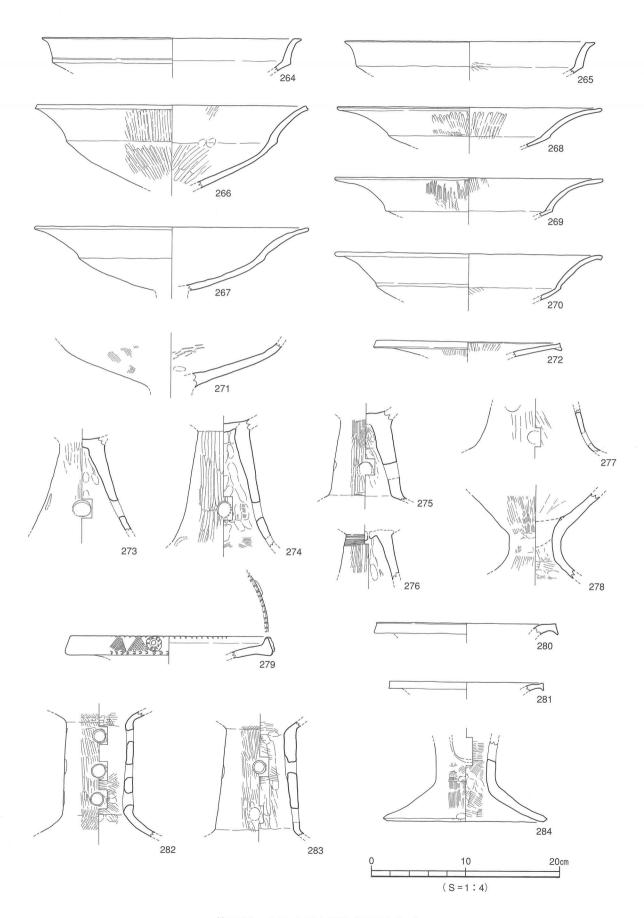
第27図 SD2出土遺物実測図(6)



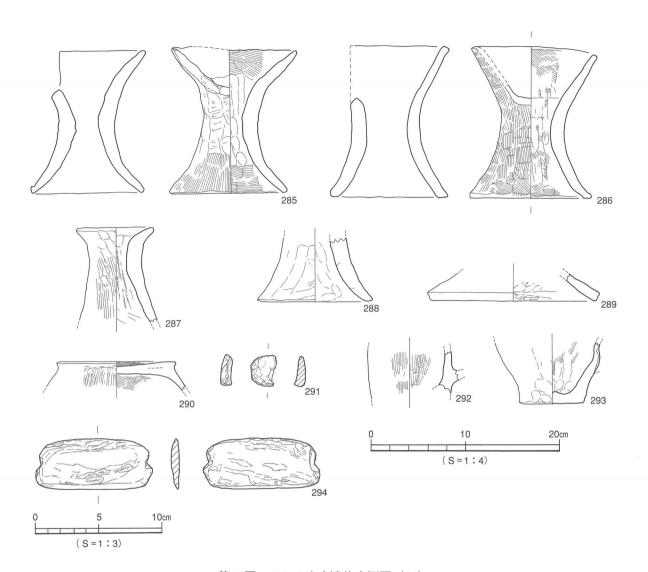
第28図 SD2出土遺物実測図(7)



第29図 SD2出土遺物実測図(8)



第30図 SD2出土遺物実測図(9)



第31図 SD2出土遺物実測図(10)

SD3 (第4図)

SD3は、調査区北壁の中央部、С9~D6区で検出した。規模は全長17.6 m、幅0.30~0.90m、深さ2~15cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は淡い黒褐色土である。出土遺物は土器片2点がある。

出土遺物 (第32図) 295は壺形土器で、複合口縁壺の口縁部となる。

時期:出土遺物からの時期決定は難しいが、埋土が弥生時代遺構のそれと同じであるため弥生時代 後期後半に比定する。

SD4 (第4図)

SD4は、調査区南西から中央部、G8~H6区にかけて検出した。規模は全長7.1 m、幅0.6~1.9 m、深さ2~8 cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土(茶色混じり)である。出土遺物は土器片1点がある。

時期:出土遺物からの時期決定は難しいが、埋土が弥生時代遺構のそれと同じであるため弥生時代 後期後半に比定する。

SD5 (第4図)

SD5は、調査区の北壁北西部から西壁北西部、G11~H10区にかけて検出した。規模は全長5. 9 m、幅0.20~0.60m、深さ2~10cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土(茶色混じり)である。遺物は土器の小片が出土した。

出土遺物 (第32図) 296は壺形土器の底部、297は支脚形土器の裾部である。

時期:出土遺物から弥生時代後期後半に比定する。

SD6 (第4図)

SD6は、調査区中央から西、D7~F7区にかけて検出した。規模は全長 $7.6\,\mathrm{m}$ 、幅 $0.30\sim0.70\,\mathrm{m}$ 、深さ $2\sim7\,\mathrm{cm}$ を測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土(茶色混じり)である。出土遺物は土器片数点がある。

出土遺物 (第32図、図版16) 298は甕形土器で、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。299~301は壺形土器で、299は複合口縁壺、300は短く開く口縁部となる。302・303は高坏形土器で、302は坏部、303は脚部となり、303の柱部にはクシ描直線文と円孔を施す。

時期:出土遺物からの時期決定は難しいが、埋土が弥生時代遺構のそれと同じであるため弥生時代 後期後半に比定する。

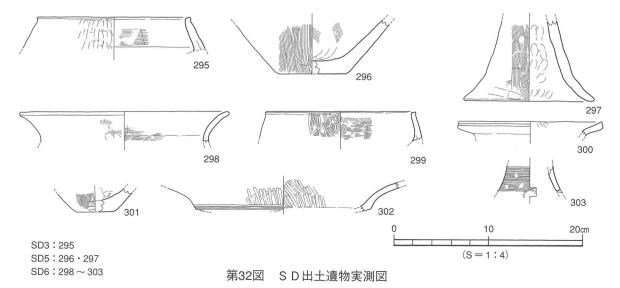
SD7 (第4図)

SD7は、調査区の北側、D9~E10区で検出した。規模は全長3.8 m、幅0.6~1.7 m、深さ5 cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土(少し灰色混じり)である。出土遺物はない。

時期:遺物は出土していないが、埋土が弥生時代遺構のそれと同じであるため弥生時代後期後半に 比定される。

(2) 弥生時代~古代

弥生時代~古代の遺構は、調査区北西部にあり、柱穴58基を検出した。柱穴の平面形態は円形と楕円形で、埋土は黒褐色土である。直径は13~40cm、深さは6~35cmを測る。出土遺物はない。これ等の柱穴の時期は、規模や埋土が1次調査の柱穴と類似するため、弥生時代~古代に比定する。



(3) 中 世(第34図)

中世の遺構は、調査区南東部の第V層上面で、柱穴48基を検出した。柱穴の平面形態は円形と楕円形で、埋土は灰色砂である。直径は11~65cm、深さは5~15cmを測る。遺物は土器片が数点出土した。これ等の柱穴の時期は、第IV層から中世の遺物が出土し、柱穴の埋土は第IV層と同じであることより、中世に比定される。

SP出土遺物(第33図) 304はSP7出土品で、弥生時代後期の甕形土器口縁部片である。305はSP1出土品で、坏の口縁部は中世前半。306はSP5出土品で、皿の口縁部片。307はSP6出土品で、皿の口縁部片。

(4) 倒木痕(SX)(第4図)

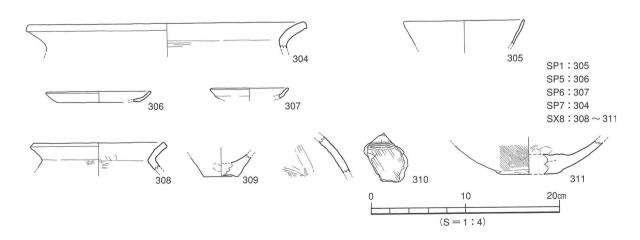
第Ⅲ層上面では7基(SX1·2·4~8)の倒木痕を検出した。出土遺物と検出層より弥生時代後期~ 古代のものである。

SX8出土遺物 (第33図) 308~311は全て弥生土器である。308・309は甕形土器で、309は「く」の字状の口縁部片、309は上げ底の底部。310・311は壺形土器で、310は胴上半部にクシ描波状文が2段以上施される。

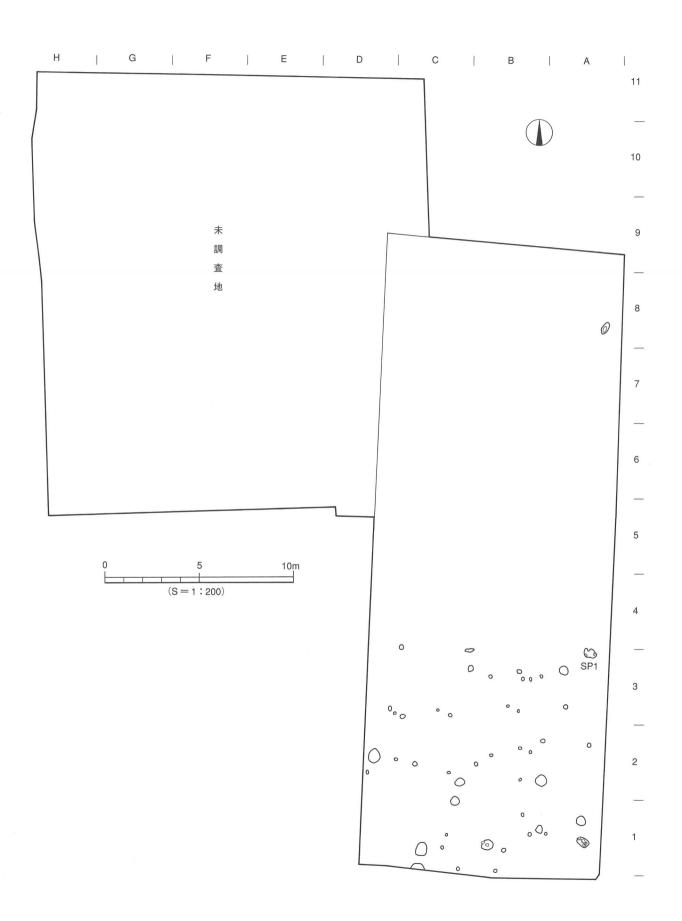
(5)包含層出土遺物(第35図)

ここでは第V層出土の弥生土器を取り上げておく。

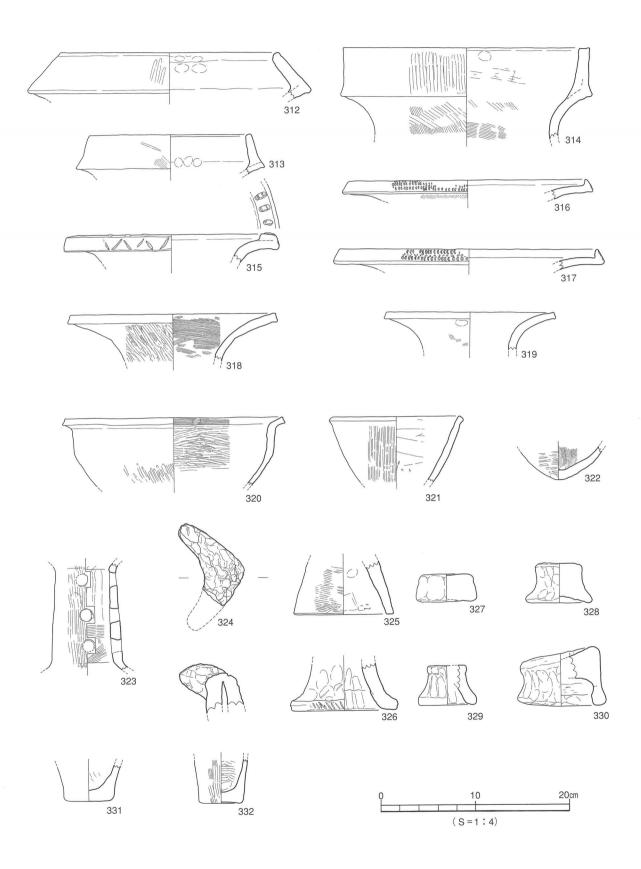
312~319は壺形土器である。312~314は複合口縁壺で、口縁部は無文である。315は口縁端部を上方に拡張させ、端面に「ハ」の字状文、上面に刻目の浮文を施す(豊後系土器)。316・317は口縁端部を上方に拡張させる。端面には半截竹管文を3段施す。316・317は同一個体の可能性をもつ。318・319は大きく開く口頸部をもつものである。320~322は鉢形土器である。320は口縁部が外反するもので、321は直口口縁となる。322は小さく突出する平底の底部で、外面には叩き痕をもつ。323は器台形土器で、3段の円孔をもつ。324~330は支脚形土器である。324は角状の突起をもつもので、背面の粘土体は欠落している。325・326は裾部片で、326の脚端面には工具痕がある。327~330は器高が低いもので、327・328は底部がくぼみ、329・330は内側が中空となる。331・332は平底で、直線的にたちあがる胴部をもつもので、器種・器形が特定できない。



第33図 SP·SX出土遺物実測図



第34図 中世の遺構配置図



第35図 第V層出土遺物実測図

4. 小 結

中村松田遺跡 2 次調査は、主に弥生時代から古墳時代までに存在した集落の範囲や構造を解明する ために行った。

調査の結果、当地には古墳時代の遺構や遺物は稀薄であり、その一方、弥生時代の遺構や遺物を多数検出することになった。また、古代~中世の遺物が少数ながら得られた。

弥生時代に時期比定できるのは、竪穴住居址 4 棟($SB2\sim5$)、溝 7 条($SD1\sim7$)である。竪穴住居址の平面形態には、円形の $SB2\cdot3$ 、隅丸長方形の $SB4\cdot5$ がある。規模では、円形の $SB2\cdot3$ が29. $1\sim44.8$ m²で、方形の $SB4\cdot5$ が $7.5\sim8.8$ m²となり、円形住居は方形住居に比べ大きいものになっている。主柱穴は、SB2が 5 本柱、SB3が 6 本柱、 $SB4\cdot5$ が 2 本柱であり、面積に対応した主柱数がよみとれる。よって、竪穴住居 4 棟は、いずれも弥生時代後期後半に比定され、平面形態、規模、主柱穴の間には、一定の関係が認められるのである。

溝 $SD1 \cdot 2$ からは多量の土器が出土した。遺物は、深さ $2 \sim 15$ cmの同一埋土のなかにあり、出土品には大型破片が多く、完形品は稀少であった。したがって、出土物は出土状況と遺存状況より、順次廃棄されたものと推察できる。このような出土品(出土状況)は、中村松田遺跡1次調査地SD1にもみられ、本調査のSD2と1次調査SD1は同一遺構と考えられる(第36図)。

ところで、本調査では弥生時代から古代、さらには中世の遺構も検出したが、構造物としては認定できなかった。包含層には同時代の土器片もみられることから、調査地近隣には同時代の集落が展開していることが想定できる。

さて、今回の調査では、中村松田遺跡における弥生時代後期集落の構造や、竪穴住居の形態、土器 廃棄の様子が一部明らかになった。今後は、調査地の南に展開する小坂釜ノ口遺跡との関係を求め、 弥生時代集落の詳細を究明しなければならないだろう。

〔対文〕

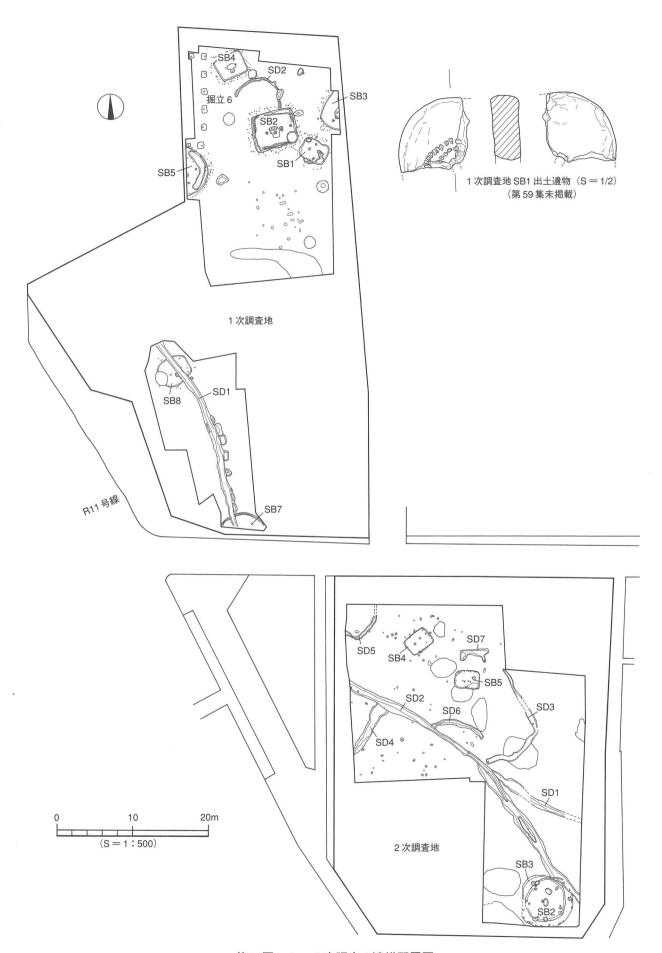
高尾和長編 1997 『釜ノ口遺跡 II 第6~8次調査』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振 興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一編 1997 『中村松田遺跡』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化 財センター

松 山 市 1987 「釜ノ口遺跡 第4~5次」「素鵞小学校遺跡|『松山市史料集』

森 光晴 1986 「小坂釜ノ口遺跡 第2~5次|『愛媛県史資料編考古』愛媛県

森 光晴・長井数秋ほか 1973 『釜ノ口遺跡調査報告書』松山市教育委員会



第36図 1・2次調査の遺構配置図

遺構・遺物一覧 一凡例一

- (1)以下の表は本調査検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。 遺構は水本完児、遺物は梅木・水口あをいが作成した。
- (2) 遺物観察表の各記載について。

法 量 欄 ():復元推定値

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。

例)□→□縁部、胴中→胴部中位、柱→柱部、胴底→胴部~底部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例)長→長石、石→石英、密→精製土。()の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例)石・長 $(1 \sim 4)$ 多 \rightarrow 「 $1 \sim 4$ mm大の石英・長石を多く含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表 2 竪穴住居址一覧

竪穴			規模(m)	埋土	床面積			内部	施設		周壁溝	備考
(SB)	B/1 ///1	ГШЛ	長さ(長径)×幅(短径)×深さ	<u> </u>	(m²)	(本)	高床	土坑	炉	カマド	同型海	1
2	弥生後期 後葉	円形	$5.6 \times 5.2 \times 0.1 \sim 0.25$	黑色土(黄色 土混入)	29.12	5	_		0	_	0	SB3に切 られる。
3	弥生後期 後半	楕円形	$6.8 \times 6.6 \times 0.02 \sim 0.08$	黒灰色土	44.88	6		_	_		0	SB2を切る。
4	弥生後期 中~後葉	隅 丸 長方形	$3.4 \times 2.6 \times 0.2$	1層 茶色土 (黒褐色土に砂混じり) 2層 黒褐色土 (茶色砂混じり)	8.84	2		_	_	_	_	
5	弥生後期 後葉	隅 丸 長方形	$3.3 \times 2.3 \times 0.03 \sim 0.2$	1層 黒褐色土 (茶色混じり) 2層 黒色土 (茶色混じり)	7.59	2	_	_			_	貼床部をも つ。

表 3 溝一覧

溝 (SD)	地区	断面形	規 模(長さ×幅>	(m) く深さ	方 向	埋土	出土遺物	時 期	備考
1	A4~D6⊠	皿状	11.3×0.5 ~1.45>	<0.02∼0.15	南東-北西	黒褐色土	弥生土器	弥生後期後葉	SD2と合 流。
2	A1~H9⊠	皿状	42.3×0.5 ~1.65>	<0.02~0.15	南東一北西	黒褐色土 (少し砂混じり)	弥生土器 石庖丁	弥生後期後葉	S D1・3~ 6が合流。
3	C9~D6区	皿状	17.6×0.3 ~0.9 ×	<0.02∼0.15	北一南	淡い黒褐色土	弥生土器	弥生後期後半	SD2に合 流。
4	G8∼H6区	皿状	$7.1 \times 0.6 \sim 1.9 \times$	0.02~0.08	北-南西	黒褐色土 (茶色混じり)	弥生土器	弥生後期後半	SD2に合 流。
5	G11~H10区	皿状	5.9 × 0.2 ~ 0.6 >	<0.02~0.1	北一西	黒褐色土 (茶色混じり)	弥生土器	弥生後期後半	SD2に合 流。
6	D7~F7区	皿状	$7.6 \times 0.3 \sim 0.7 \times$	0.02~0.07	東-西	黒褐色土 (茶色混じり)	弥生土器	弥生後期後半	SD2に合 流。
7	D9~E10区	皿状	3.8 ×0.6 ~1.7	×0.05	東-西	黒褐色土 (少し灰色混じり)		弥生後期後半	

表 4 SB2出土遺物観察表 土製品

調 整 色調 (外面) (内面) 胎土 図版 備考 番号 器種 法量(cm) 形態・施文 焼成 外面 内面 灰黄茶色 石·長(1~2) 「く」の字状口縁。口縁端部 口径(18.0) ハケ マメツ 煤 1 壅 は面をなす。 乳黄茶色 残高 4.5 口径(16.8) 内面に明瞭な稜をもつ。口縁 灰黄茶色 石·長(1~3) ハケ ハケ 2 甕 乳黄茶色 残高 3.8 端部は面をなす。 砂 内面に稜をもつ。口縁端部は ◎マメツ 乳黄色 口径(16.1) ハケ 3 甕 厠ハケ→ナデ 乳黄色 \bigcirc 残高 5.0 面をなす。 石·長(1~3) [□]ハケ→ナデ □ハケ→ナデ 灰黄茶色 ゆるやかに外反する口縁部。 口径(16.2) 4 甕 金 乳黄茶色 口縁端部はナデくぼむ。 厠ハケ 厠ハケ 残高 4.4 石·長(1~3) ゆるやかに外反する口縁部。 乳灰茶色 口径(15.0) ヨコナデ マメツ 5 壅 金 乳黄茶色 口縁端部は丸い。 残高 3.1 砂 灰黄色 外反する口縁部。口縁端部は 口径(11.9) ハケ→ナデ 金 6 甕 残高 1.7 面をなす。 灰黄色 0 石·長(1~4) 乳黄茶色 タタキ→ハケ 7 内面に稜をもつ。肩部は張る。 甕 残高 6.8 乳黄茶色 石·長(1~2) 黒褐色 底径 3.8 ケズリ 8 たちあがりをもつ上げ底。 タタキ 甕 黒褐色 残高 3.7 0 石·長(1~2) 茶褐色 底径 2.0 9 丸みをもつ厚い平底。 マメツ ナデ→ハケ 金 壅 淡茶褐色 残高 4.2 石・長(1~2) 黒褐色 底径 2.5 ハケ→ナデ 丸みをもつ平底。 ハケ 10 甕 余 残高 2.4 黒褐色 複合口縁壺。クシ描波状文5 黄茶色 石・長(1~3) ヨコナデ ヨコナデ 11 壺 残高 2.8 条、クシ描直線文3条。 黄茶色 乳褐色 石·長(1~3) ナデ 複合口縁壺。頸部に突帯。 マメツ 12 壺 残高 6.2 暗茶褐色 乳黄褐色 石.長(1~4) 口径(10.5) ハケ→ナデ 複合口縁壺。口縁部は無文。 ハケ→ナデ 13 壺 乳黄褐色 ◎ 残高 3.7 石·長(1~3) 複合口縁壺。口縁部は上方に 黄褐色 14 残高 4.0 ハケ ハケ 金 壺 たちあがり、無文。 茶褐色 (() 乳黄茶色 石·長(1~3) 口径(18.6) 複合口縁壺。口縁部は無文。 ハケ→ナデ ハケ 15 壺 乳黄茶色 0 残高 3.6 石・長(1~3) 乳褐色 複合口縁壺。頸部に斜格子目 ハケ ハケ 16 壺 残高 7.6 金 の刻目突帯。 乳茶色 石・長(1~2) 複合口縁壺。頸部に斜格子目 働ナデ 茶褐色 ハケ 17 壺 残高 6.4 厠ハケ→ナデ 灰黄褐色 の刻目突帯。 石・長(1~2) 複合口縁壺。頸部に斜格子目 暗灰色 ハケ ナデ 18 壺 残高 6.4 の刻目突帯。 乳黄茶色 複合口縁壺。頸部に斜格子目 頭ハケ 淡黄茶色 石·長(1~2) 19 残高 3.9 唜 の刻目突帯。 卿ナデ 灰黄色 口縁部は短く外反。口縁端部 茶褐色 石·長(1~4) 口径(27.2) 20 ヨコナデ ヨコナデ 壺 には2条以上の沈線。 灰茶色 残高 3.3

(1)

31£ 🗆	RP 195	注具()	17.45 th to	詞	整	色調 (外面)	胎土	/±±	log π⊏
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	巴調 (内面)	焼成	備考	図版
21	壺	口径(22.8) 残高 3.8	大きく開く口縁部。口縁端部 は垂下する。	ナデ→ミガキ	ハケ→ナデ	茶褐色 乳黄褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
22	壺	口径(12.4) 残高 1.8	直口口縁。クシ描波状文6条。	ミガキ	ハケ	黄茶色 黄茶色	砂 ©		
23	壺	残高 2.4	細長頸壺。頸部に斜線充塡の 三角文、クシ描直線文9条。 肩部にクシ描直線文6条以上。	不明	ハケ	黄茶色 黄茶色	石·長(1~2) 金 ◎		
24	壺	残高 3.5	肩部に「ノ」の字状文。	マメツ	ハケ→ナデ	黄茶色 灰黄色	石·長(1~3) 金 ◎		
25	壺	底径 3.1 残高 6.6	胴下半部は張りが弱い。小さ い平底。	ケズリ	ハケ	茶褐色 淡褐色	石・長(1~2)		
26	壺	底径(2.2) 残高 3.5	わずかに突出する小さい平 底。	ハケ	ハケ	乳黄灰色 乳黄灰色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	
27	壺	底径 2.5 残高 2.1	突出する平底。	マメツ	マメツ	淡褐色 淡褐色	石·長(1~2) 金 ◎	黒斑	
28	壺	口径(25.2) 残高 1.2	口縁端部は垂下する。口縁内 面に貼付け突帯。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳灰色 灰黄茶色	石・長(1~2)◎		
29	高坏	残高 3.0	坏部片。稜をもって外反する 口縁部。	ミガキ	ハケ	淡黄茶色 淡黄茶色	石·長(1~2) 金 ◎		
30	高坏	残高 2.0	裾部片。貼付け突帯をもつ。	ミガキ	マメツ	黄茶色 灰黄色	砂 〇		
31	鉢	口径(16.6) 残高 3.5	稜をもって外反する口縁部。 口縁端部は面をなす。	ハケ	ハケ	淡茶色 白茶色	石·長(1~2) 金 ◎		
32	鉢	口径(13.5) 残高 3.1	稜をもって外反する口縁部。	ハケ→ナデ	ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	砂 ©		
33	鉢	口径(20.2) 残高 8.0	直口口縁。口縁端部は面をなす。	ハケ→ナデ	ハケ→ミガキ	茶褐色 灰茶色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	
34	鉢	口径(21.7) 残高 6.5	直口口縁。口縁端部は面をなす。	回ヨコナデ	ハケ	灰黄色 灰黄色	砂 金 ◎	煤	
35	鉢	口径(20.0) 残高 4.0	直口口縁。口縁端部は面をなす。	ナデ	ハケ→ミガキ	乳灰黄色 灰黄色	石·長(1~2) 金 ◎		
36	鉢	口径(14.2) 残高 3.0	直口口縁。口縁端部はわずかに外に開く。	ハケ	ナデ	灰黄茶色 黄茶褐色	砂 金 ◎	黒斑	
37	鉢	底径 (3.2) 残高 6.1	たちあがりをもつ小さい平底。	ハケ	ナデ	淡褐色 黒色	石·長(1~3) ◎	黒斑	
38	鉢	底径 3.4 残高 3.8	「ハ」の字状にたちあがる底 部はわずかにくぼむ。	ハケ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
39	鉢	残高 3.5	台付鉢。短い柱部をもつ。	ミガキ	ミガキ	黄茶色 乳黄茶色	砂 ©		
40	鉢	底径(6.9) 残高 1.4	台付鉢。短い裾部はやや厚い。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~2) ◎		

(2)

(3)

SB2出土遺物観察表 土製品

₩ 🗆	0.0 T-C	'	双公台	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	巴嗣(内面)	焼成	DE G	IZINX
41	支脚	残高 7.8	直立するやや厚い柱部。	ナデ	ナデ	乳灰黄色 灰黄色	石·長(1~2) ◎		
42	支脚	残高 6.6	直立する薄い柱部。	ナデ	ナデ	淡灰茶色 淡灰茶色	石·長(1~5) ◎		
43	支脚	残高 6.6	やや扁平な断面。	ナデ		暗黄色	砂 〇		8
44	支脚	残高 3.5	円孔 (ø 1.0cm) をもつ。	ナデ	ナデ	淡黄茶色 淡黄茶色	石·長(1~3) ◎		8

表5 SB3出土遺物観察表 土製品

777	BB 12F	注	TI	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	(内面)	焼成		ENIX
45	壺	口径(22.9) 残高 2.0	口縁端部に2条の沈線。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰茶色 暗灰茶色	密金◎		
46	壺	残高 1.9	肩部に刺突文。	ヨコナデ	マメツ	茶褐色 灰黄褐色	密金◎		
47	支脚	受部径 9.7 器高 13.4 底径 7.8	円筒状の柱部に、ゆるやかに 開く口縁部と裾部。	ナデ	ナデ	灰黄茶色 灰黄茶色		黒斑	8

表6 SB4出土遺物観察表 土製品

亚口	RP 135	注量/)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
番号	器種	法量(cm)	形態・旭又	外面	内面	内面)	焼成	I/H 75	
48	甕	口径(19.3) 残高 2.1	口縁端部は面をなす。	ヨコナデ	ヨコナデ	黄茶色 淡灰茶色	石·長(1~3) ◎		
49	甕	底径 4.7 残高 3.2	くびれの上げ底。	ナデ	ナデ	褐色 暗褐色	砂 ©	·	
50	壺	残高 2.0	複合口縁壺か。頸部に斜格子 目の刻目突帯。	マメツ	ハケ→ナデ	淡黄茶色 黒茶色	石・長(1~4)◎		
51	壺	底径 (5.8) 残高 4.0	平底。	ミガキ	ナデ	淡灰黄色 淡灰黄色	石·長(1~2) 金 ◎		
52	壺	底径 1.7 残高 1.9	わずかに突出する小さい平 底。	ハケ→ナデ	ハケ	茶褐色 茶褐色	砂 金 ◎		
53	鉢	口径 (8.3) 器高 6.0 底径 (2.5)	直口口縁。たちあがりをもつ 上げ底。	ハケ→ナデ	ハケ	灰黄色 灰黄色	石·長(1~2) 金 ◎		8
54	鉢	底径 1.5 残高 1.6	厚い平底。	ナデ	ハケ→ナデ	暗褐色 乳黄茶色	石·長(1~4) 金 ◎		
55	鉢	底径 3.4 残高 2.1	平底。	ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
56	高坏	残高 3.1	稜をもってたちあがる口縁 部。	ハケ	ナデ	黄茶褐色 黄茶褐色	砂 金 ◎		

表7 SB5出土遺物観察表 土製品

色調(外面) 胎土 番号 法量(cm) 器種 形態・施文 備考 図版 (内面) 焼成 外面 内面 砂 口径(13.7) 灰黄茶色 口縁端部は下方に拡張する。 ヨコナデ ナデ 57 甕 金 残高 1.3 灰黄茶色 0 砂 口径(14.0) 稜をもって外反する口縁部。 茶褐色 ハケ→ナデ ヨコナデ 58 壅 金 残高 1.9 口縁端部は面をなす。 茶褐色 0 肩部には木口押圧の「ノーの 灰茶色 石·長(1~3) ミガキ 59 甕 残高 4.5 ケズリ 字状文。 灰茶色 石·長(1~2) 底径 4.1 わずかにくびれる厚い上げ 乳灰黄色 ナデ ナデ 60 甕 金 残高 3.4 乳灰黄色 底。 石・長(1~3) 複合口縁壺。クシ描波状文4 灰黄茶色 61 壼 残高 4.6 ヨコナデ ヨコナデ 金 条。 灰黄茶色 口径 (9.8) 灰黄茶色 砂 ハケ→ナデ 複合口縁壺。口縁部は無文。 62 壺 ハケ 残高 5.1 灰黄茶色 ◎ 口径(21.8) 複合口縁壺。口縁部に6条以 苗茶色. 砂 ヨコナデ ヨコナデ 63 壶 残高 3.1 上の太沈線。 黄茶色 0 外反する長い口頸部。口縁端 口径(15.0) 黄茶褐色 石·長(1~5) マメツ 壺 マメツ 64 部は面をなす。 残高 3.5 黄茶褐色 0 ゆるやかに外反する口頸部。 口径 13.3 石·長(1~8) 回ナデ 黄褐色 ナデ 65 器高 30.2 肩部が張り、厚い平底。完形 8 飼ハケ 暗灰茶色 底径 6.0 品。 長頸壺。直線的に開く口頸部。 口径(13.2) ①ナデ 黄茶色 石・長(1~5) 66 器高 28.8 肩部が張り、底部は厚い。完 ナデ 8 ⑩板ナデ 灰黄茶色 0 底径 4.1 形品。 (胴Dナデ 灰茶色 石・長(1~4) 67 壺 残高 7.8 肩部が強く張る。 ハケ 黑斑 厠型ハケ 黄茶色 たちあがりをもつ平底。67と 底径 (5.0) 乳黄褐色 石·長(1~5) ハケ(マメツ) 68 唜 ハケ 残高 6.9 同一体か。 茶褐色 石·長(1~4) 底径 (7.4) 乳茶褐色 中型品の底部。平底。 ハケ(マメツ) 69 壺 マメツ 黒斑 残高 8.0 淡灰色 0 石・長(1~4) 底径 (6.8) 中型品の底部。わずかにたち 乳黄茶色 70 壼 マメツ ケズリ 黒斑 余 あがりをもつ平底。 残高 12.5 乳黄茶色 石·長(1~7) 底径 5.8 灰黄茶色 中型品の底部。厚い平底。 ミガキ ナデ 黒斑 壺 金 残高 3.7 暗褐色 石・長(1~2) 中型品の底部。丸みをもつ薄 底径 (2.8) 乳灰褐色 マメツ 72 ナデ 唜 残高 3.4 い底部。 茶褐色 底径(4.3) 暗褐色 石・長(1~2) 中型品の底部。平底。 マメツ ハケ 73 壺 残高 4.0 乳黄茶色 \bigcirc 石・長(1~3) 頸部片。断面三角形の突帯 2 灰茶褐色 残高 2.9 ヨコナデ ナデ 74 壺 条。 茶褐色 口径(25.8) ゆるやかに外反する口縁部。 回ヨコナデ 淡黄茶色 石·長(1~2) 75 鉢 マメツ 口縁端部は面をなす。 厠ナデ→ハケ 残高 5.0 淡黄茶色 口径(21.5) 黄茶色 石・長(1~4) 口縁端部は面をなす。 マメツ 黒斑 76 マメツ 残高 2.4 黄茶色

(1)

SB5出土遺物観察表 土製品

色調 (外面) 色調 (内面) 胎土 備考 図版 番号 器種 法量(cm) 形態・施文 焼成 外面 内面 石・長(1~2) ゆるやかに外反する口縁部。 回ヨコナデ 灰黄色 口径(26.1) ヨコナデ 77 鉢 金 厠ミガキ 灰黄色 残高 4.0 口縁端部は面をなす。 稜をもって外反する口縁部。 口径 17.1 石·長(1~4) 黄茶褐色 回ヨコナデ 口縁端部は面をなす。たちあ マメツ 金 黒斑 9 鉢 器高 10.4 78 卵ケズリ 黄茶褐色 がりをもつ平底。完形品。 底径 5.6 0 大型品。たちあがりをもつ底 黄茶褐色 石·長(1~7) 底径 7.0 ヨコナデ ナデ 鉢 79 部は、わずかに上がる。 黒灰色 残高 3.4 石·長(1~5) 中型品。たちあがりをもつ底 暗黄褐色 底径(5.6) マメツ マメツ 80 鉢 金 部は、わずかに上がる。 暗黄色 残高 3.5 0 口径(10.0) 乳灰黄色 石・長(1~2) ナデ マメツ 直口口縁。 81 乳灰黄色 残高 5.1 0 石・長(1~3) 黄灰色 稜をもってたちあがる口縁 ナデ 高坏 残高 2.3 ナデ 82 余 淡灰茶色 (0) 石·長(1~4) 邸マメツ 邸ミガキ 乳黄色 二段の円孔(φ 0.6cm)は 8 9 83 高坏 残高 10.9 金 ⑪ハケ→ナデ 働ハケ→ナデ 暗灰黄色 ヶ所に施される。 0 石・長(1~2) 灰黄色 底径(17.7) ゆるやかに開く裾部。 ハケ→ナデ ハケ→ナデ 高坏 84 金 灰黄色 残高 2.5 0 底径(25.2) 「ハ」の字状に開く裾部。脚 灰黄茶色 石·長(1~2) ケズリ ヨコナデ 85 高坏 端部は拡張され、くぼむ。 淡黄茶色 残高 3.3 0 石·長(1~5) 底径(19.2) 柱部には円孔 (φ 1.0cm)。脚 ナデ(一部ケ 黄褐色 ナデ 器台 86 金 *ズ*リ) 灰黄色 端部は上方に拡張。 残高 6.2 0 砂 端部は面をなす。器種・形態 乳白色 口径(20.8) 不明品 ナデ ナデ 87 残高 2.1 乳黄色 0 乳黄色 密 底径 5.0 底部には回転糸切り痕をも ナデ ナデ 88 \blacksquare つ。 乳黄色 0 残高 0.5

表8 SD1出土遺物観察表 土製品

(1)

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
留ち	右合作里	広里(III)	/// // // // // // // // // // // // //	外面	内面	(内面)	焼成	C and	
89	甕	残高 20.7	胴中位付近が強く張る。弱い 稜をもって外反する。	ハケ	ハケ	乳黄茶色 灰黄色	石·長(1~2) 金 ◎		
90	甕	口径(17.4) 器高 25.0 底径 5.0	胴中位前後に弱い張りをも つ。口縁端部は面をなす。平 底。	[□] ハケ→ナデ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ハケ	黄茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~5)◎		9
91	甕	口径 14.0 残高 12.6	胴中位付近が強く張る。ゆる やかに外反する口縁部。口縁 端部は面をなす。	ハケ	ハケ	灰黄色 黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
92	簉	口径(14.3) 残高 9.9	胴中位前後が張る。ゆるやか に外反する口縁部。	ハケ	回ハケ原シナデ原シハケ	暗褐色 灰茶褐色	石·長(1~5) 金 ◎		
93	甕	口径 20.6 器高 32.9 底径 6.6	肩部が張る。上外方にのびる 口縁部。平底。	ハケ	ハケ (一部ナ デ)	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) 金 ◎	煤	9
94	甕	口径(17.8) 残高 10.7	肩部が強く張る。稜をもって 外反する口縁部。口縁端部は 面をなす。	ハケ	①ハケ⑩Dナデ⑩ウハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2)◎		

				詞	 整	色調(外面)	胎土		
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	色調(内面)	焼成	備考	図版
95	甕	口径(14.9) 残高 16.2	肩部が張る。稜をもって外傾 する口縁部。	ハケ	ハケ	灰褐色 黄褐色	石・長(1~6)		
96	甕	口径(17.1) 残高 22.4	肩部が張る。ゆるやかに上外 方にのびる口縁部。口縁端部 は面をなす。	□ナデ⑩ハケ	回ハケ順Dナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4)◎	煤	10
97	甕	口径 17.0 器高 26.2 底径 4.8	肩部が張る。上外方にのびる 口縁部。口縁端部は面をなす。 上げ底。	ハケ	ハケ	淡茶褐色 淡茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎	煤	9
98	甕	口径(14.9) 残高 8.7	肩部が張る。ゆるやかに外反 する口縁部。口縁端部は丸い。	 ハケ→ナデ 	ハケ	乳黄色 黄茶色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
99	甕	底径 3.8 残高 7.2	たちあがりをもつ平底。	ハケ	ハケ→ナデ	茶褐色 灰黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
100	甕	底径 5.6 残高 4.8	わずかにくぼみ底。	ハケ	ナデ	淡茶色 灰色	石·長(1~5) 金 ◎		
101	蓮	底径 3.7 残高 8.1	わずかにくぼみ底。	ハケ→ミガキ	ケズリ	灰黄色 灰茶色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	
102	獲	底径 4.3 残高 4.9	平底。	ハケ	ナデ	灰黄色 灰黄色	石·長(1~3) 金 ◎		
103	壺	口径 14.1 残高 33.8	複合口縁壺。胴中位に張りを もつ。口縁部は無文。	□マメツ 働ハケ	□ヨコナデ 動ハケ	黄茶色 乳黄色	石·長(1~4) ◎	黒斑	10
104	壺	口径(17.3) 残高 2.3	複合口縁壺。口縁部は無文。	ヨコナデ	ハケ	乳黄褐色 乳黄褐色	砂 金 ◎		
105	壺	口径 4.2 器高 10.9 底径 1.2	複合口縁壺。球形の胴部。突 出する小さい底部。口縁部は 無文。小円孔2ヶ2組。	マメツ	ナデ	明茶色 明茶色	砂 〇		10
106	壺	底径 10.0 残高 8.9	大型品の底部。平底。	ナデ	ハケ	黄茶褐色 黄茶褐色	石·長(1~4) 金 ◎	黒斑	
107	壺	口径 13.7 器高 27.1 底径 6.9	肩部に張りをもつ。上外方に たちあがる口縁部。口縁端部 は面をなす。		□ハケ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	黄茶色 黄茶色	石·長(1~5) 金 ◎	黒斑	10
108	壺	口径(16.3) 残高 19.7	胴上半部が張る。上外方にた ちあがる口縁部。口縁端部は 面をなす。	□ハケ→ヨコ ナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ハケ→ナデ⑩ハケ	黄茶褐色 黄茶褐色	砂 金 ◎		
109	壺	口径 (9.2) 器高 (25.0) 底径 5.3	胴中位が張る。上外方に開く やや長い口頸部。	ハケ	[©] ハケ [®] ハケ→ナデ	乳灰褐色 乳灰褐色	石·長(1~5) 金 ◎		11
110	壺	口径 (9.2) 残高 14.3	肩部が強く張る。直立する長 い頸部。	ハケ	回ハケ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) 金 ◎		10
111	壺	口径 10.7 器高 21.0 底径 2.8	胴中位が最大径。直線的にた ちあがる口頸部。底部は平底。	ハケ	ナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石·長(1~4) 金 ◎	黒斑	11
112	壺	口径 12.2 器高 22.4 底径 3.1	胴中位が最大径。上外方にた ちあがる口頸部。突出する平 底。	ハケ	ハケ	黄褐色 黄褐色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	11
113	壺	口径 10.7 器高 21.5 底径 3.2	肩部が張る。たちあがりをも つ上げ底。直線的に上外方に のびる口頸部。	ハケ	ハケ	茶褐色 黒褐色	石·長(1~4) ◎		11
114	壺	口径 10.4 器高 27.5 底径 4.9	胴中位が最大径。上方にたち あがる長い口縁部。たちあが る平底。	ハケ	ハケ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~6) ◎	黒斑	12

(2)

S D 1 出土遺物観察表 土製品

調 色調 (外面) 色調 (内面) 整 胎土 図版 備考 番号 法量(cm) 形態 · 施文 器種 焼成 内面 外面 回ハケ 口径 11.9 細長頸壺。扁平球の胴部に、 黄灰色 厠Dハケ ハケ ミャモット 里班 12 器高 20.9 115 壺 橙灰色 突出する丸平底。 (胴)ナデ 底径 1.6 0 乳褐色 石·長(1~9) 底径 5.4 里班 肩部が強く張る。上げ底。 ハケ ハケ 116 壶 乳褐色 残高 27.1 石·長(1~3) 乳黄茶色 底径 (7.4) たちあがりをもつ平底。 ハケ→ミガキ 黒斑 壺 金 117 残高 16.3 乳灰黄色 暗茶褐色 ゆるやかに外反する長い口縁 石·長(1~5) 口径(18.1) ハケ 黑斑 鉢 118 暗茶褐色 残高 13.9 部。肩部がはる。 0 口径 16.3 稜をもって外反する長い口縁 石·長(1~3) 黄灰褐色 部。肩部がはる。たちあがり 煤 12 119 鉢 器高 15.0 ハケ ハケ 0 黒灰色 をもつ上げ底。 底径 2.4 口径(24.3) **眉部が張る。あいまいな稜を** 回マメツ 茶褐色 石·長(1~3) マメツ 120 もって外反する口縁部。 卵ナデ 灰黄色 残高 10.0 口径(20.9) 黄茶色 肩部が張る。稜をもって外反 石·長(1~3) ハケ ハケ 121 鉢 器高 11.2 する口縁部。 乳黄色 (0) 底径 (2.0) 石·長(1~5) 淡茶色 底径 3.3 肩部が張る。平底。 ハケ ハケ 黒斑 鉢 金 122 残高 11.9 淡茶色 0 口径 13.0 石・長(1~2) 内湾してたちあがる口縁部。 苗茶色 12 ハケ 器高 8.6 123 金 紘 突出する平底。 黄茶色 底径 4.3 扁平球の胴部。小さく突出す 働ハケ 石·長(1~2) 茶褐色 回マメツ 底径 1.8 厠Dハケ 12 る平底。稜をもって外反する 124 鉢 金 卿ハケ 茶褐色 残高 12.5 厠取ハケ→ミガキ 口縁部。 0 石·長(1~2) 底径 2.2 球形の胴部。小さく突出する 茶褐色 煤 ハケ ハケ 125 鉢 金 灰黄褐色 残高 12.1 平底。 茶褐色 石・長(1~3) 2.3 底径 マメツ マメツ 鉢 小型品。平底。 126 7.9 茶褐色 0 残高 石・長(1~2) 乳黄色 底径 5.5 たちあがりをもつ平底。 ハケ ハケ 黒斑 127 鉢 余 黄茶色 残高 3.8 0 口径 19.2 外傾してたちあがる直口口 石・長(1~6) 茶褐色 縁。口縁端部は面をなす。平 ハケ 12 ハケ 128 鉢 器高 7.7 金 淡茶色 0 底径 4.0 底。 密 口径(29.8) 口縁端部には3条のクシ描波 黄茶色 ミガキ ミガキ 12 129 高坏 金 灰黄色 残高 1.5 状文。 0 石・長(1~3) 灰茶褐色 稜をもってたちあがる口縁 ナデ ミガキ 高坏 130 残高 3.4 金 茶褐色 部。 \bigcirc 石·長(1~2) 黒黄色 底径(21.2) 高坏 ミガキ マメツ ゆるやかに開く裾部。 金 131 黄茶色 残高 1.8 \bigcirc 密 乳黄色 底径(17.7) ナデ ナデ ゆるやかに開く裾部。 金 132 高坏 乳黄色 残高 2.5 石·長(1~2) ゆるやかに開く裾部。円孔 茶褐色 底径(13.8) ハケ→ミガキ ナデ 高坏 余 133 (\$ 1.2cm) 1ヶ以上。 茶褐色 残高 1.7 0

(3)

表 9 SD2出土遺物観察表 土製品

_				高周	整	色調 (外面) 色調 (内面)	胎土	/++ +·	EST UE
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	色調 (内面)	焼成	備考	図版
134	甕	口径 (30.0) 残高 6.4	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端部は面をなす。	ハケ→ヨコナ デ	ハケ→ヨコナ デ	乳黄茶色 乳黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
135	甕	口径(26.6) 残高 5.5	あいまいな稜をもって外反す る口縁部。口縁端部は面をな す。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~4) 金 ◎		
136	甕	口径(20.6) 残高 23.1	胴上半部に張りをもつ。上外 方にたちあがる口縁部。	□ハケ→ナデ 動ハケ	□ハケ⑩ハケ→ケズリ	灰黄褐色 灰黄褐色	石·長(1~4) ◎	黒斑	
137	甕	口径(16.5) 残高 5.5	あいまいな稜をもって外反す る口縁部。口縁端部は面をな す。	ハケ→ナデ	□ハケ→ナデ⑩ハケ	黄茶褐色 乳黄褐色	石・長(1~4) ◎		
138	甕	口径(21.0) 残高 7.0	ゆるやかに外反する□縁部。 □縁端部は面をなす。	ハケ	ハケ	茶褐色 褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
139	甕	口径 15.8 器高 27.6 底径 4.9	胴上半部に弱い張りをもつ。 稜をもって外反する口縁部。 口縁端部は面をなす。平底。	□ヨコナデ ⑩ハケ	回ヨコナデ	灰黄褐色 灰黄色	石·長(1~5) ◎	煤	13
140	甕	口径(18.3) 残高 4.8	稜をもって上外方にたちあが る口縁部。□縁端部は面をな す。	ハケ	ハケ	灰黄褐色 乳灰黄色	石·長(1~4) ◎		
141	甕	口径(17.3) 残高 5.3	上外方にたちあがる口縁部。	ハケ	ハケ	乳灰黄色 乳黄褐色	石・長(1~3) ◎		
142	甕	口径(17.0) 残高 7.5	稜をもって外反する口縁部。	□ハケ→ナデ飼ハケ	□ナデ ⑩ハケ	黄茶褐色 乳黄褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
143	甕	口径(16.2) 残高 4.8	稜をもって外反する口縁部。 □縁端部はあいまいな面をな す。	□ハケ→ヨコ ナデ⑩ハケ	^⑪ ハケ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	灰黄褐色 灰黄褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
144	甕	残高 10.7	胴上半部が張る。口縁部は稜 をもって外反。	ハケ	ハケ	茶色灰色	石・長(1~3) ◎	煤	
145	雍	残高 11.3	胴上半部に弱い張りをもつ。 稜をもって外反する口縁部。	ハケ	ハケ	淡黄色 黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
146	甕	口径 17.0 残高 12.8	胴上半部が張る。稜をもって 外反する口縁部。口縁端部は あいまいな面をなす。	ハケ	ハケ	淡灰黄色 灰黄色	石·長(1~2) 金 ◎		
147	甕	口径 17.4 残高 14.1	胴上半部に張りをもつ。ゆる やかに外反する口縁部。口縁 端部はあいまいな面をなす。	□ハケ→ヨコ ナデ酮ハケ	回ヨコナデ⑩シナデ⑩・カンケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~4) 金 ◎	黒斑	
148	甕	口径(16.8) 器高 22.9 底径 4.3	胴上半部に張りをもつ。ゆるや かに外反する口縁部。口縁端部 はあいまいな面をなす。	ハケ	ハケ (一部ナ デ)	暗黄褐色 黄褐色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑煤	13
149	壅	口径 17.7 残高 17.0	肩部に張りをもつ。稜をもっ て外反する口縁部。口縁端部 はあいまいな面をなす。	ハケ(板ナデ 状)	ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4)◎	煤	
150	甕	口径(16.3) 残高 6.7	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端部は丸みをもつ。	□ハケ→ナデ⑩ハケ	ナデ	灰黄褐色 灰黄色	石·長(1~4) 金 ◎		
151	蹇	口径(15.6) 残高 13.1	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端部はあいまいな面をも つ。	ハケ	ハケ	灰黄色 灰黄色	石·長(1~4) 金 ◎		
152	甕	口径(16.6) 残高 15.3		□ハケ→ナデ⑩ハケ	ハケ	灰黄茶色 黄茶色	石・長(1~5)◎		
153	獲	口径 15.2 器高 16.2 底径 3.4	肩部に張りをもつ。稜をもっ て外反する口縁部。平底。	回ハケ 順Dハケ 順Dナデ	ハケ	灰黄色 灰褐色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	13

(1)

亚口	RP 135	注量 ()	11.65. 托 克	調	整	色調 (外面)	胎土	備考	図版
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	巴調 (内面)	焼成	1佣 专	凶加
154	甕	口径(14.5) 残高 9.2	肩部に張りをもつ。ゆるやか に外反する口縁部。	ハケ	回ハケ→ナデ 卿ナデ	茶褐色 褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
155	甕	残高 12.0	肩部に張りをもつ。稜をもっ て外反する口縁部。	ハケ(マメツ)	□ヨコナデ ⑩ナデ	茶褐色 黄茶色	石·長(1~2) 金 ◎		
156	甕	残高 11.3	肩部に張りをもつ。	ハケ	ハケ→ナデ	暗黄色 灰黄色	石·長(1~3) ◎	煤	
157	甕	口径(22.6) 残高 9.6	肩部が張り、木口押圧の「ノ」 の字状文。ゆるやかに外反する 口縁部、端部はナデくほむ。	□ヨコナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ヨコナデ 蟵ケズリ	灰茶褐色 黒灰色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	13
158	甕	口径(22.9) 残高 3.4	口縁端部は拡張し、端面に沈 線2条。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄色 灰黄色	石·長(1~2) 金 ◎		
159	蹇	口径(20.0) 残高 4.9	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端部に沈線2条。	回ヨコナデ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ロマメツ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) ◎		
160	甕	底径 5.1 残高 5.3	たちあがりをもつ上げ底。	ハケ	ハケ	淡褐色 黒灰色	石·長(1~2) 金 ◎		
161	甕	底径 3.2 残高 3.4	たちあがりをもつ平底。	マメツ	マメツ	黒灰色 黒灰色	石·長(1~4) 金 ◎		
162	変	底径 4.0 残高 10.5	あいまいなたちあがりをもつ 平底。	ハケ	ハケ	乳黄茶色 乳黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
163	甕	底径 4.0 残高 8.0	あいまいなたちあがりをもつ 平底。	ハケ	ハケ	茶褐色 褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
164	甕	底径 4.0 残高 7.3	あいまいなたちあがりをもつ 平底。	ハケ	ナデ	淡褐色 淡褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
165	甕	底径 4.1 残高 10.3	平底。	ナデ	ハケ→ナデ	暗灰褐色 暗灰褐色	石·長(1~5) 金 ◎		
166	甕	底径 4.5 残高 10.8	平底。	ハケ	ハケ	褐色 褐色	石·長(1~2) 金 ◎	黒斑	
167	蹇	底径 4.3 残高 5.7	平底。	ハケ	ナデ	明褐色 黄褐色	石·長(1~5) 金 ◎		
168	甕	底径(4.8) 残高 3.4	くびれる上げ底。	ナデ	ハケ→ナデ	灰黄褐色 黄茶色	石·長(1~7) 金 ◎		
169	壺	口径 14.4 残高 19.6	胴上半部が張る。頸部は短く たちあがる。口縁部は無文。	□ヨコナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	回ハケ→ヨコナデ⑨ハケ→ナデ⑩ハケ	黄茶色 灰黄茶色	石·長(1~7) ◎	黒斑	13
170	壺	口径(13.5) 残高 5.3	複合口縁壺。口縁部は無文。 短く外反する頸部。	□マメツ 働ハケ	□マメツ園ハケ	茶褐色 褐色	石・長(1~4)		
171	壺	口径(15.2) 残高 13.1	複合口縁壺。外反する頸部。 肩部は張る。口縁部は無文。	ハケ→ミガキ	回ヨコナデ動ハケ動ナデ	茶褐色 暗茶褐色	石·長(1~4) ◎		13
172	壺	口径(16.5) 残高 9.3	複合口縁壺。外反する口頸部。 口縁部は無文。頸部に斜格子 目の刻目突帯。	ハケ→ヨコナ デ	ハケ	黄茶褐色 黄茶褐色	石·長(1~7) 金 ◎		
173	壺	口径(16.1) 残高 9.0	複合口縁壺。外反する口頸部。 口縁部は無文。	マメツ	マメツ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~6)		

(2)

調 色調 (外面) 色調 (内面) 束女 胎土 備考 図版 番号 器種 法量(cm) 形態・施文 焼成 外面 内面 複合口縁壺。外反する長い頸 回ヨコナデ 石・長(1~6) 口径 14.8 □ヨコナデ 淡茶色 働ナデ (工具 13 部。口縁端部は面をなす。口 壺 174 ・ サデ 暗褐色 残高 9.4 痕) 縁部は無文。 口径(15.4) 複合口縁壺。外傾してたちあ 回ヨコナデ 淡黄茶色 石·長(1~3) 黒斑 ナデ 175 毒 (例マメツ 灰黄色 残高 7.4 がる頸部。口縁部は無文。 複合口縁壺。外反する口頸部。 回マメツ 乳黄褐色 口径 18.9 回マメツ 石·長(1~5) 176 口縁部は無文。頸部に刻目突 14 壺 働ハケ 鲺ハケ 残高 9.3 乳灰黄色 @ヨコナデ 石・長(1~2) 複合口縁壺。外傾外反する口 回ヨコナデ 茶褐色 口径(19.4) 頭ハケ 14 金 177 壺 頸部。口縁部はクシ描波状文。 頭ハケ 茶褐色 残高 14.1 ⑩ナデ 0 複合口縁壺。外傾外反する口頸部。 乳黄色 口径 18.0 石・長(1~4) 14 ハケ 178 壺 口縁部にはクシ描波状文(6条1 ハケ 乳黄色 残高 12.6 組) 2段。頸部に刻目突帯。 石・長(1~5) 複合口縁壺。外傾外反する口 ₪ヨコナデ 黄茶色 口径 21.2 ロナデ 179 頸部。口縁部にはクシ描波状 壺 働ハケ 頭ハケ 黄茶色 残高 9.2 文(5条1組)2段。 石·長(1~3) 複合口縁壺。肩部が張り、内傾する 乳茶褐色 口径(15.0) ハケ 頸部。口縁部にクシ描沈線8条、波 ハケ 14 180 売 乳茶褐色 残高 20.1 状文8条。頸部にクシ描沈線8条。 複合口縁壺。内傾する頸部。 橙褐色 石・長(1~5) 口径 13.8 マメツ マメツ 14 181 売 口縁部は無文。 橙褐色 残高 8.5 石・長(1~2) 複合口縁壺。内傾する頸部。 回ヨコナデ 茶褐色 口径(10.1) ナデ 壺 余 182 残高 6.8 働ハケ 茶褐色 口縁部は無文。 石・長(1~2) 褐色 複合口縁壺。口縁部に太い沈 ヨコナデ ハケ 183 壺 残高 3.4 暗褐色 線5条以上。 複合口縁壺。口縁部にクシ描 黄茶色 石·長(1~4) マメツ マメツ 壺 残高 5.7 184 茶褐色 波状文6条。 石·長(1~3) 黄褐色 複合口縁壺。直立外反する口 ハケ→ナデ ナデ 壺 残高 5.3 185 茶褐色 頸部。口縁部は無文。 石·長(1~3) 黄褐色 複合口縁壺。直立外反する口 マメツ マメツ 186 毒 残高 4.9 金 乳黄褐色 頸部。 複合口縁壺。口縁部には斜格 黄茶褐色 石·長(1~3) 子目文とクシ描波状文6~7 ナデ ナデ 残高 2.7 187 毒 黒灰色 条。 石・長(1~4) 茶褐色 口径(18.7) マメツ 188 壺 複合口縁壺。口縁部は無文。 マメツ 茶褐色 残高 4.7 橙褐色 石·長(1~3) 口径(16.6) ヨコナデ 複合口縁壺。口縁部は無文。 マメツ 189 壺 淡灰色 残高 6.8 口径(16.4) 黄褐色 石・長(1~2) ハケ→ナデ ハケ 190 複合口縁壺。口縁部は無文。 唜 褐色 残高 6.2 石・長(1~3) 黄褐色 口径(11.2) 複合口縁壺。口縁部は無文。 ハケ ハケ 191 壺 金 乳灰黄色 残高 3.9 \bigcirc 茶褐色 石・長(1~3) 口径(15.0) 上外方にたちあがる口縁部。 マメツ マメツ 192 壺 茶褐色 残高 4.7 口縁端部は面をなす。 0 胴中位に張りをもつ。ゆるや 石·長(1~3) 茶褐色 回マメツ ◎マメツ 口径(15.2) 14 かに上外方にたちあがる口縁 193 壺 卵ナデ 胴ハケ 黄茶褐色 残高 14.8

(3)

調 色調 (外面) 色調 (内面) 整 胎土 図版 法量(cm) 備考 悉是 器種 形態・施文 焼成 内面 外面 _ □径 17.7 球形の胴部。短く外反する口 □ハケ→ヨコ ⊕ヨコナデ 黄茶色 石・長(1~5) 縁部。たちあがりをもつ平底。 壺 黒斑 194 器高 33.9 ナデ 14 胴ハケ 黄茶色 胴ハケ 底径 (7.6) 口縁端部は面をなす。 ゆるやかに上外方にたちあが 口径(11.4) 灰茶褐色 石·長(1~4) ハケ 195 壽 ハケ 黄茶褐色 残高 6.3 る口頸部。 口径 8.2 黄褐色 石·長(1~4) ナデ 直立する口頸部。 ハケ 壺 196 茶褐色 残高 5.1 直立する口頸部。口縁端部は 茶褐色 口径(10.8) 石・長(1~2) ミガキ 197 壺 ハケ 面をなす。 茶褐色 残高 5.2 石・長(1~3) 外傾してたちあがる口頸部。 口径(12.7) 黄茶色 マメツ ナデ 198 壺 金 残高 4.8 口縁端部は面をなす。 黄茶色 石・長(1~3) 乳灰黄色 口径(11.0) 外傾してたちあがる口頸部。 ハケ 199 壺 ハケ 余 残高 6.1 灰黄褐色 石·長(1~4) 乳黄褐色 口径(13.9) 外傾外反する口頸部。頸部下 200 ハケ ハケ 壺 端に断面三角形の突帯。 乳黄褐色 残高 12.6 石・長(1~4) 直立外反する口頸部。肩部に ⑨マメツ 黄褐色 ハケ 残高 11.6 201 唜 ____ 木口押圧の「ノ」字状文。 卵ナデ 黄褐色 黄茶色 石・長(1~3) ハケ ナデ 202 残高 7.7 外傾してたちあがる頸部。 茶褐色 石·長(1~4) 扁平球の胴部。202 の胴部に 淡黄茶色 203 ハケ ナデ 壺 残高 7.1 金 なるものか。 茶褐色 石·長(1~3) 灰黄色 口径(10.2) 204 細長頸壺。クシ描波状文7条。 ヨコナデ ハケ 15 壺 金 残高 1.6 茶褐色 茶褐色 細長頸壺。沈線4条以上と7 ミガキ ハケ 205 壺 残高 3.6 15 金 乳黄褐色 条。 0 密 細長頸壺。半截竹菅文、細沈 乳黄茶色 ハケ→ミガキ ハケ 206 壺 残高 5.6 金 15 線14条、同14条。 灰黄色 石・長(1~2) 灰茶褐色 207 残高 3.4 肩部に「丿」の字状の押圧文。 ハケ ハケ 金 15 灰茶褐色 石・長(1~4) 苗茶色 肩部に「ノ」の字状文。 ハケ→ナデ ナデ 208 壺 残高 7.8 15 余 乳灰色 石・長(1~3) 暗褐色 残高 4.5 肩部に刺突文。 ハケ ハケ 209 壺 暗茶褐色 肩部に沈線文と木口押圧の 暗茶褐色 石·長(1~3) ナデ ナデ 210 壺 残高 2.3 15 「ノ」の字状文。 乳黄茶色 褐色 石・長(1~4) 外傾してたちあがる頸部。 ハケ ハケ 211 壺 残高 9.7 褐色 石·長(1~4) 黄茶褐色 212 頸胴部境に断面三角突帯。 マメツ マメツ 残高 4.7 金 乳茶色 0 茶褐色 石・長(1~5) 213 残高 6.5 頸胴部境に刻目突帯。 ハケ ハケ→ナデ 壺 黄茶色

(4)

	号器種	'	形態・施文	詞	整	色調(外面)	胎土	/++ +/	図版
番号		法量(cm)	形態・施乂	外面	内面	色調 (内面)	焼成	備考	凶版
214	壺	残高 10.2	直立してたちあがる頸部。頸 胴部境に斜格子目の刻目突 帯。	ハケ→ミガキ		暗褐色 暗褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
215	壺	残高 2.6	頸胴部境に斜格子目の刻目突 帯。	ハケ	ハケ	黄茶色 黄茶色	砂 金 ◎	_	
216	壺	残高 4.4	頸胴部境に斜格子目の刻目突 帯。	ハケ	ハケ	乳黄茶色 黄茶褐色	石・長(1~4)◎		
217	壺	残高 4.5	頸胴部境に斜格子目の刻目突 帯。	マメツ	マメツ	灰茶色 灰茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
218	壺	残高 5.2	頸部にクシ描直線文5条。頸 胴部境に断面三角形の突帯。 肩部にクシ描波状文6条。	マメツ	マメツ	乳白色 灰茶色	石·長(1~3) ◎		15
219	壺	底径 8.0 残高 14.2	たちあがりをもつ平底。	ハケ	ナデ	茶褐色 灰色	石・長(1~3) ◎		
220	壺	底径 5.6 残高 14.5	たちあがりをもつ厚い平底。	ミガキ	ナデ	乳黄茶色 乳褐色	石·長(1~4) 金 ◎		
221	壺	底径 7.1 残高 12.6	たちあがりをもつ平底。	ハケ	ハケ	淡褐色 淡褐色	石・長・安(1~3)	黒斑	
222	壺	底径 7.9 残高 7.3	平底。	ハケ	ハケ	乳褐色 灰黄茶色	石・長(1~6)◎		
223	壺	底径 7.7 残高 6.6	たちあがりをもつ厚い平底。	ハケ	ハケ	茶褐色 淡褐色	石・長(1~2) ◎		
224	壺	底径 7.2 残高 20.1	あいまいなたちあがりをもつ 平底。	ミガキ	ハケ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) ◎		
225	壺	底径 5.6 残高 28.8	胴中位が最も張る。たちあが りをもつ平底。	ハケ	ハケ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~4) 金 ◎		
226	壺	底径 6.4 残高 9.6	平底。	ハケ	ハケ	乳黄褐色 乳黄褐色	石·長(1~4) 金 ◎		
227	壺	底径 6.0 残高 9.7	胴下半部がふくらむ。底部は 丸みをもつ平底。	ハケ→ミガキ	ナデ	茶褐色 黒灰色	石·長(1~3) 金 ◎		
228	壺	底径 8.1 残高 17.4	胴下半部がふくらむ。底部は 丸みをもつ平底。	ハケ	ナデ	茶褐色 灰色	石·長(1~5) 金 ◎		
229	壺	底径 6.1 残高 3.0	あいまいなたちあがりをもつ 平底。	ナデ	ナデ	暗褐色 乳黄茶色	石・長(1~4)◎		
230	壺	底径 (6.2) 残高 2.3	たちあがりをもつ上げ底。	ナデ	マメツ	暗茶褐色 暗茶褐色	石·長(1~4) 金 ◎		
231	壺	底径 4.6 残高 1.5	たちあがりをもつくぼみ底。	ハケ	ナデ	褐色 褐色	石·長(1~3) ◎		
232	壺	底径 3.4 残高 5.3	たちあがりをもつ平底。	ハケ	マメツ	暗黄褐色 暗黄褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
233	壺	底径 2.5 残高 6.7	あいまいなたちあがりをもつ 平底。	ハケ	ハケ	乳黄褐色 乳茶色	石·長(1~3) 金 ◎		

- 59 -

(5)

番号	00	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土	供业	्रिम ध⊏
	器種			外面	内面	色調 (内面)	焼成	備考	図版
234	壺	底径 3.8 残高 7.2	平底。	ミガキ	ナデ	茶褐色 淡褐色	石·長(1~2) ◎		
235	壺	底径(4.2) 残高 2.5	上げ底。	マメツ	マメツ	黒褐色 褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
236	鉢	口径(23.4) 残高 10.2	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端部は面をなす。	□マメツ ⑩ハケ	□ナデ⑩ハケ	茶褐色 乳黄色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	
237	鉢	口径(21.0) 残高 7.0	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端部は面をなす。	ハケ	回ヨコナデ卵ハケ→ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	砂 金 ◎		
238	鉢	口径(22.3) 残高 5.0	ゆるやかに外反する口縁部。	回ヨコナデ	□ヨコナデ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	乳茶色 黄茶色	石·長(1~2) 金 ◎		
239	鉢	口径(18.3) 残高 7.2	ゆるやかに外反する口縁部。	ハケ	ハケ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
240	鉢	口径(15.1) 残高 8.3	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端部は面をなす。	工具痕	ハケ	灰黄色 灰褐色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	
241	鉢	口径 11.6 器高 13.3 底径 2.9	肩部に張りをもつ。稜をもっ て外反する口縁部。小さい平 底。	ハケ	ハケ	褐色 褐色	石·長(1~2) 金 ◎	黒斑	15
242	鉢	残高 2.3	肩部に張りをもつ。平底。	ハケ	ハケ	黄褐色 黄褐色	石·長(1~4) 金 ◎		
243	鉢	底径 2.2 残高 8.5	肩部に張りをもつ。わずかに くぼむ底部。	マメツ	ハケ	明茶褐色 明茶褐色	石·長(1~4) ◎		
244	鉢	口径 21.5 残高 6.1	大きく外反する長い口縁部。	ハケ	□ナデ⑩ハケ	茶褐色 乳黄褐色	石・長(1~2) ◎		
245	鉢	口径(16.0) 残高 3.6	外傾してたちあがる口縁部。 口縁端部は面をなす。	ハケ	ハケ	茶褐色 乳灰黄色	石・長(1~3) ◎		
246	鉢	口径(10.0) 器高 9.1 底径 2.8	内湾ぎみにたちあがる口縁 部。くびれの上げ底。	ハケ	ハケ	黄褐色 褐色	石·長(1~2) 金 ◎		15
247	鉢	口径(12.1) 残高 2.5	内湾してたちあがる口縁部。 口縁端部は丸みをもつ。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
248	鉢	口径 (9.5) 残高 2.6	内湾してたちあがる口縁部。 口縁端部は尖る。	ナデ	ナデ	黄茶色 灰黄色	砂 〇		
249	鉢	残高 9.3	台付鉢。ふくらみをもつ胴下 半部。	ハケ	ハケ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~5) 金 ◎		
250	鉢	底径 (4.8) 残高 7.7	胴下半部はふくらむ。あいま いなたちあがりをもつ平底。	ハケ→ミガキ	ハケ	茶褐色 灰黄茶色	石・長(1~3)		
251	鉢	底径 3.7 残高 5.9	たちあがりをもつ平底。	ナデ	ハケ	暗褐色暗褐色	砂 金 ◎		
252	鉢	底径 3.7 残高 4.0	たちあがりをもつ上げ底。	ハケ	ハケ	灰黄色 淡黄色	石·長(1~2) 金 ◎		
253	鉢	底径 3.8 残高 4.6	たちあがりをもつくぼみ底。	ハケ→ミガキ	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	砂全		

(7)

SD2出土遺物観察表 土製品

			形態・施文	調整		← 無 (外面)	胎土		
番号	器種	法量(cm)		外面	 内面	色調(内面)	焼成	備考	図版
254	鉢	底径 3.7 残高 5.0	たちあがりをもつ平底。	タタキ	ミガキ	黒灰色 黒灰色	密◎	黒斑	
255	鉢	底径 3.3 残高 2.5	たちあがりをもつ平底。	ナデ	ハケ	黒灰色 乳黄褐色	石·長(1~2) 金 ◎	黒斑	
256	鉢	底径 2.3 残高 2.8	たちあがりをもつくぼみ底。	ハケ	ハケ→ナデ	暗黄茶色 乳黄褐色	石·長(1~2) 金 ◎	黒斑	
257	鉢	底径 4.6 残高 6.4	胴下半部はふくらみをもつ。 たちあがりをもつ上げ底。	ナデ	ハケ	茶褐色 黄褐色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	
258	鉢	底径 4.4 残高 2.3	たちあがりをもつ上げ底。	ナデ	ナデ	黄褐色 黒色	石・長(1~3)◎		
259	鉢	底径 2.1 残高 3.4	胴下半部はふくらみをもつ。 たちあがりをもつ上げ底。	ミガキ	ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎	黒斑	
260	鉢	底径 3.0 残高 3.1	胴下半部はふくらみをもつ。 たちあがりをもつ平底。	ハケ	ハケ	茶褐色 乳茶白	石・長(1~2)		
261	鉢	底径 2.6 残高 1.4	たちあがりをもつ平底。	ナデ	ナデ	暗褐色 暗褐色	密 金 ©		
262	鉢	底径 2.8 残高 5.6	厚い平底。	ナデ	ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
263	鉢	底径 1.2 残高 6.6	丸みをもった平底。	マメツ	ナデ	暗褐色 灰黄色	石·長(1~3) 金 ◎		
264	高坏	口径(27.4) 残高 3.4	口縁端部は外方に拡張される。沈線が1条施される。	マメツ	ナデ	乳黄色 乳黄色	石・長(1~3)		
265	高坏	口径(26.6) 残高 3.4	口縁端は外方に拡張される。	マメツ	マメツ	灰黄色 淡黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
266	高坏	口径(28.8) 残高 8.8	稜をもって大きく外反する口 縁部。口縁端部は面をなす。	ミガキ	ミガキ	乳黄色 黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
267	高坏	口径(29.0) 残高 6.7	稜をもって大きく外反する口 縁部。	マメツ	マメツ	橙褐色 橙褐色	石·長(1~4) 金 ◎		
268	高坏	口径(28.0) 残高 4.2	稜をもって大きく外反する口 縁部。口縁端部は丸い。	ミガキ	ミガキ	乳黄色 乳黄色	石·長(1~3) 金 ◎		
269	高坏	口径(30.0) 残高 4.0	稜をもって大きく外反する口 縁部。口縁端部は丸い。	ハケ→ミガキ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
270	高坏	口径(28.3) 残高 4.9	稜をもって大きく外反する口 縁部。口縁端部は丸い。	マメツ	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3)◎		
271	高坏	残高 4.8	底部の充塡が欠落。	ハケ	ハケ→ナデ	黄茶褐色 黄茶褐色	石·長(1~5) 金 ◎		
272	高坏	口径(19.4) 残高 1.5	口縁端部は拡張し、面をなす。	ミガキ	ミガキ	乳茶色 乳茶色	石·長(1~4) 金 ◎		
273	高坏	残高 9.8	円孔 (φ 1.6cm) 2 ケ以上。	ミガキ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~6) 金 ◎		

- 61 -

調 整 色調 (外面) 色調 (内面) 胎土 備考 図版 番号 器種 法量(cm) 形態・施文 焼成 外面 内面 石・長(1~5) 底部は充塡。円孔 (¢ 1.7cm) 黄茶色 高坏 残高 13.3 ミガキ ナデ 274 黄茶色 2段。 石・長(1~2) 乳黄茶色 底部は充塡。円孔(¢ 1.7cm) ハケ→ミガキ ナデ 高坏 残高 9.1 乳黄茶色 350 底部は充塡で、小円孔(þ 石・長(1~4) 茶褐色 276 高坏 残高 5.1 0.2cm) をもつ。柱上部に細 ミガキ シボリ痕 茶褐色 沈線7条。 茶褐色 石・長(1~3) 277 高坏 残高 4.5 円孔2段。 ミガキ ナデ 茶褐色 石・長(1~4) 邱ナデ 暗褐色 ハケ 278 高坏 残高 9.2 底部の充塡が欠落。 働ハケ→ナデ 灰黄茶色 口縁端部は拡張。端面に充塡 石・長(1~4) 淡茶褐色 口径(20.8) 器台 マメツ ヨコナデ 15 山形文、半截竹管文。刻目入 279 淡茶色 残高 2.2 り円形浮文。 石·長(1~2) 黄褐色 口径(19.4) ヨコナデ ヨコナデ 器台 口縁端部は垂下する。 280 暗灰色 残高 1.2 石·長(1~2) 口縁端部は拡張し、ナデくぼ 黄褐色 口径(16.4) ナデ ナデ 281 器台 暗灰色 残高 1.0 石・長(1~4) 黄茶褐色 ハケ→ミガキ ハケ→ナデ 15 残高 13.3 3段4ヶの円孔(ø 1.5cm)。 282 器台 黄茶褐色 石・長(1~2) 黄褐色 ハケ→ミガキ ハケ→ナデ 283 器台 残高 19.1 2段4ヶの円孔(\$1.5cm)。 金 黄褐色 石·長(1~4) 乳灰黄色 底径(17.0) ハケ→ナデ 器台 楕円形状の大きい孔をもつ。 ハケ 284 黄茶褐色 残高 8.6 受ハケ 石・長(1~2) 受部径 (13.2) [U] の字状に大きく傾斜す 住Dナデ 暗褐色 種型ナデ 支脚 器高 15.5 285 余 茶褐色 る受部。 阔ハケ ھハケ 底径(12.5) 受ハケ 受部径(12.8) 「U」の字状に大きく傾斜す 黄茶褐色 石·長(1~3) 支脚 器高 15.3 ハケ 健康ナデ 15 286 黄茶褐色 る受部。 傷ハケ 底径 12.8 石・長(1~4) 受ナデ 淡茶褐色 受部径 (8.2) ナデ 短く外反する受部。 15 287 支脚 倒ハケ 淡茶褐色 残高 10.1 石・長(1~4) 淡黄茶色 底径(11.4) マメツ ナデ 288 支脚 ゆるやかに聞く裾部。 金 淡黄茶色 残高 7.6 石・長(1~3) 黄茶褐色 ゆるやかに開く裾部。脚部は 底径(17.6) 黑斑 ヨコナデ ケズリ 289 支脚 黄茶褐色 面をなす。 残高 2.9 上面はわずかにくぼむ。底部 茶褐色 受部径 12.6 石・長(1~3) ミガキ ハケ 16 不明品 290 暗灰褐色 残高 3.2 の可能性もある。 0 器種、器形は不明。手づくね 茶褐色 石·長(1~2) ナデ 16 291 不明品 残高 3.3 石・長(1~2) 淡褐色 ハケ→ミガキ ミガキ 16 292 ジョッキ形 残高 把手部は欠落する。 4.7 金 淡褐色 あいまいなたちあがりをもつ 暗茶色 底径 6.7 石·長(1~3) ナデ ハケ→ナデ 16 293 ジョッキ形 6.5 平底。把手部は欠落する。 暗茶色 残高

(8)

表10 SD2出土遺物観察表 石製品

TV.	号 器 種 残 る		残存	材質		法	量		備考	図版
台		66 作里	7文 1于	材質	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	IIII 5	
	94	石庖丁	完形品	緑色片岩	4.0	9.3	0.6		両側部に抉り	16

表11 SD3・5・6出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	詞	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
笛勺	石合作里	広里(UII)	//···································	外面	内面	口間(内面)	焼成	畑ち	
295	壺	口径(16.0) 残高 3.5	複合口縁壺。口縁部は無文。	ミガキ	ハケ→ヨコナ デ	茶褐色 淡茶褐色	石·長(1~3) 金 ◎	SD3	
296	壺	底径(7.0) 残高 5.7	中型品の底部。平底。	ハケ	ハケ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~4) ◎	SD5	
297	支脚	底径(13.8) 残高 8.6	「ハ」の字状の柱部に、ゆるやかに開く裾部。端部は細る。	ハケ	ナデ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~2)◎	SD5 黒斑	
298	甕	口径(15.8) 残高 3.5	外反する口縁部。口縁端部は 丸い。	ハケ→ナデ	ハケ→ヨコナ デ	灰黄色 灰黄茶色	石·長(1~2) 金 ◎	SD6	
299	壺	口径(15.8) 残高 3.2	複合口縁壺。口縁部は無文。	ハケ→ミガキ	ハケ	黄茶褐色 黄茶褐色	砂 金 ◎	SD6	
300	壺	口径(15.2) 残高 1.5	口縁端部は面をなす。	ヨコナデ	ナデ	灰黄色 乳黄色	砂 〇	SD6	
301	壺	底径(4.1) 残高 2.4	平底。	タタキ→ハケ	ナデ	淡褐色 淡褐色	石·長(1~2) 金 ◎	SD6	
302	高坏	残高 3.0	稜をもってたちあがる口縁 部。	ミガキ	ミガキ	乳黄色 黄茶色	密◎	SD6	
303	高坏	残高 2.9	13条以上のクシ描直線文。	不明	マメツ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) ◎	SD6	16

表12 SP·SX出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
) 番写	45/建	広里(CM)	形態・旭又	外面	内面	巴酮(内面)	焼成	佣石	IZINX
304	甕	口径(29.6) 残高 2.9	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をなす。	ヨコナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ◎	SP7	
305	椀	口径(12.7) 残高 2.7	わずかに内湾してたちあがる 口縁部。口縁端部は厚みをも つ。	マメツ	マメツ	乳黄色 乳褐色	石·長(1~3) ◎	SP1	
306	Ш	口径(11.1) 器高 1.1	短くたちあがる口縁部。口縁 端部は丸い。	ナデ	ナデ	乳黄色 乳黄色	密◎	SP5	
307	Ш	口径(8.3) 残高 1.0	短くたちあがる口縁部。口縁 端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	乳黄色 乳黄色	密◎	SP6	
308	甕	口径(14.4) 残高 3.0	稜をもって外反する口縁部。 口縁端部は面をなす。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~2) ◎	SX8	
309	甕	底径(3.6) 残高 2.3	厚みをもつ上げ底。	ナデ	ナデ	暗褐色 暗茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎	SX8	
310	藿	残高 4.1	クシ描波状文(4条)2段以 上。	ハケ→ナデ	ケズリ	暗褐色 黄茶色	石・長(1~3)◎	SX8	
311	壺	底径(6.4) 残高 3.2	大型品の底部。小さく突する 厚い平底。	ハケ	ハケ→ナデ	黒灰色 乳黄褐色	砂 金 ◎	SX8	

表13 第 V 層出土遺物観察表 土製品

			T/AR. IL-L	詞	整	色調(外面)	胎土	/# ±	loy π⊏
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	色調 (内面)	焼成	備考	図版
312	壺	口径(22.8) 残高 4.9	複合口縁壺。口縁部は無文。	ミガキ	ヨコナデ	乳褐色 淡茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
313	壺	口径(17.1) 残高 4.2	複合口縁壺。口縁部は無文。	マメツ	ヨコナデ	茶褐色 乳灰茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
314	壺	口径(25.8) 残高 8.2	複合口縁壺。口縁部は無文。	回ミガキ	□ハケ→ヨコナデ動ハケ	暗茶色 暗茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
315	壺	口径(19.0) 残高 3.0	口縁端部は上方に拡張。端部 に山形文。口縁部内面には刻 目の浮文。豊後糸土器。	マメツ	マメツ	乳黄褐色 乳黄褐色	石・長(1~2)		16
316	壺	口径 (25.0) 残高 2.1	口縁端部は上方に拡張。端面 には半截竹管文3段。	ハケ	マメツ	乳黄色 乳灰黄色	石·長(1~3) 金 ◎		16
317	壺	口径 (27.2) 残高 2.2	口縁端部は上方に拡張。端面 には半截竹管文3段。316 と 同一体か。	マメツ	マメツ	乳黄色 乳灰色	石・長(1~2)		16
318	壺	口径(22.2) 残高 5.0	大きく開く口縁部。口縁端部はナデくぼむ。	ハケ→ミガキ	ハケ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~2)		
319	壺	口径(17.6) 残高 4.1	大きく開く口縁部。口縁端部 は面をなす。	マメツ	マメツ	黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3)		
320	鉢	口径(23.1) 残高 7.2	稜をもって外反する口縁部。 口縁端部は面をなす。	ハケ→ミガキ	①ハケ ⑩ハケ→ミガ キ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
321	鉢	口径(13.3) 残高 7.0	直口口縁。口縁端部は面をなす。	ハケ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
322	鉢	底径 0.8 残高 3.5	丸みをもった底部。小さくあ いまいな面をもつ。	タタキ	ハケ	灰茶色 灰茶色	石·長(1~2) 金 ◎		
323	高坏	残高 11.8	柱部に円孔(φ1.4cm)3段2 組以上。	ハケ	使Dナデ 使Dハケ	淡茶色 淡茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
324	支脚	残高 5.9	受部は2ヶの突起からなる。 背部の突出部分は欠落する。	ナデ		褐色	石・長(1~3)		
325	支脚	底径 (9.5) 残高 5.7	「ハ」の字状に開く裾部。	タタキ	ナデ	灰黄茶色 暗褐色	石・長(1~2) ◎		
326	支脚	底径(11.0) 残高 5.0	ゆるやかに開く裾部。端部に は刻目。	ナデ	ナデ	黄褐色黄褐色	石·長(1~5) 金 ◎		16
327	支脚	受部径 5.0 器高 3.0	平坦な受部。柱部は中実。	ナデ		黄褐色	石·長(1~2) 金 ◎	黒斑	16
328	支脚	受部径 4.8 器高 4.2	平坦な受部。短く開く裾部。 底部はわずかに上がる。	ナデ		黄褐色	石·長(1~3) 金 ◎		16
329	支脚	受部径 (4.0) 器高 4.2	ゆるやかに開く裾部。柱部は 中空。	ナデ	ナデ	淡茶色 茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
330	支脚	受部径 (7.6) 器高 6.3	受部は傾斜をもってくぼむ。 底部は大きくくぼむ。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石·長(1~5) ◎		16
331	不明品	底径 5.0 残高 3.8	平底。器種・器形は不明。	ナデ	マメツ	乳褐色 乳灰色	石·長(1~3) 金 ◎		16
332	不明品	底径 4.4 残高 4.5	平底。器種・器形は不明。	ハケ→ミガキ	ミガキ	乳褐色 乳褐色	石·長(1~4) 金 ◎	黒斑	16

第3章

 すか 付 松 田 遺 跡

 イ 3 次調査地ー



第3章 中村松田遺跡3次調査地

1. 調査の経過

(1)調査に至る経緯(第37図)

1997(平成9)年9月、株式会社青木本店(代表取締役青木信雄氏)より、松山市中村1丁目100番1における宅地開発にあたり、当該地の埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課(以下、文化教育課)に提出された。申請地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『108 中村町遺跡』内にあり、さらに申請地一帯は中村松田遺跡と呼称され、弥生時代から古代までの集落が展開している。

よって、当該地における埋蔵文化財の有無と、さらには、遺跡の範囲や性格を確認する必要があるため、1997(平成9)年10月1日に文化教育課は試掘調査を実施した。

試掘調査では、第4層上面で竪穴住居址1棟、土坑4基、柱穴1基、倒木痕跡1基を検出した。

この結果を受け、文化教育課と申請者の両者は遺跡の取り扱いについての協議を重ね、宅地開発に伴って消失する遺跡に対し、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、弥生時代集落の構造解明を主目的とし、文化教育課の指導のもと、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが主体となり、1998(平成10)年2月2日より本格調査を実施した。



第37図 調査地位置図(S=1:2,000)

(2)調査の経緯

調査は、2月2日から3月18日までは野外調査、3月19日から3月31日までは室内調査を行った。 以下、調査経緯を略記する。

1998 (平成10) 年2月2日~2月3日、調査区を設定し、重機で第V層上面までを掘削する。2月17日、高所作業車を用いて、遺構の検出写真を撮る。2月18日~2月24日、遺構の掘り下げを行う。2月25日~3月2日、遺構の測量。3月3日、高所作業車を用いて、遺構完掘状況の写真を撮る。また、拡張区を設定して、重機で第V層上面までの掘削を行う。3月5日、遺構の検出写真を撮る。3月6日、遺構の掘り下げを開始し、3月10日に遺構完掘状況の写真を撮る。3月11日~3月16日、遺構の測量を行う。3月17日、重機で埋め戻す。3月18日に道具を撤去して野外調査を完了する。3月19日~31日、松山市埋蔵文化財センターにて測量図や出土物の整理作業を行う。

(3)調査組織

遺跡名 中村松田遺跡3次調査地

調査場所 松山市中村1丁目100番1

調査期間 1998 (平成10) 年2月2日~同年3月31日

調査面積 1261.54 m²

調查委託 株式会社青木本店 代表取締役青木信雄

調査担当梅木謙一・水本完児

2. 層 位 (第38図)

調査地は、松山平野北東部、石手川扇状地の端部にあり、標高28.6~28.8 mに立地する。 基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層明茶色土、第Ⅴ層暗茶色粘質土、

第VI層礫層、第VI層砂層である。

第 I 層は造成土で、厚さ5~65cmを測る。調査区全域で検出した。

第Ⅱ層は耕作土で、厚さ5~30cmを測る。調査区の西側にあり、B2~E2区で検出した。

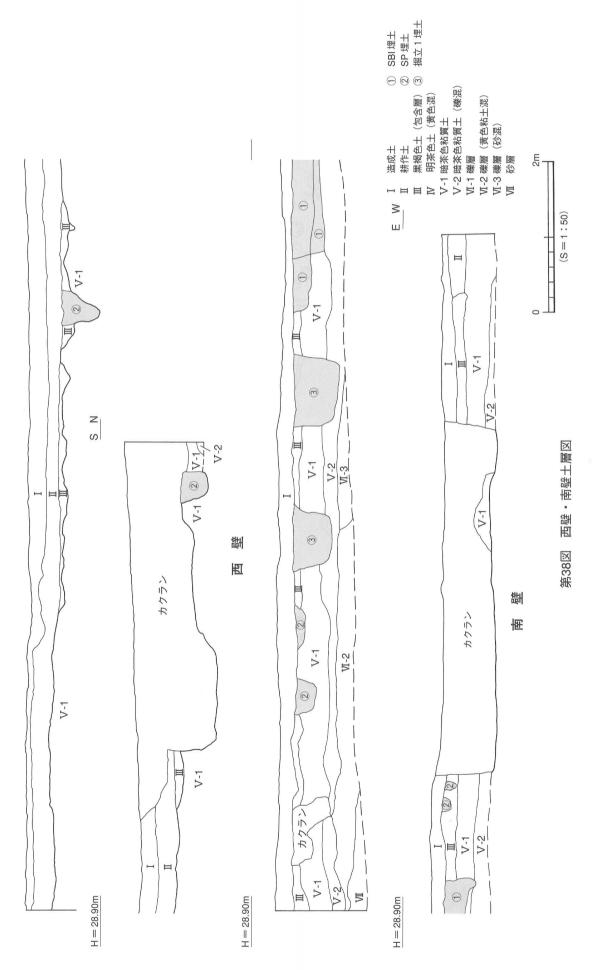
第Ⅲ層は黒褐色土で、厚さ5~35cmを測る。調査区全域で検出した。弥生土器、須恵器、土師器を含む遺物包含層で、古墳時代後期の遺構埋土と同じ土壌である。

第IV層は明茶色土(黄色土混じり)で、厚さ $5\sim15$ cmを測る。調査区の北西部~中央部にあり、A $2\sim A$ 4 区で検出した。無遺物層である。

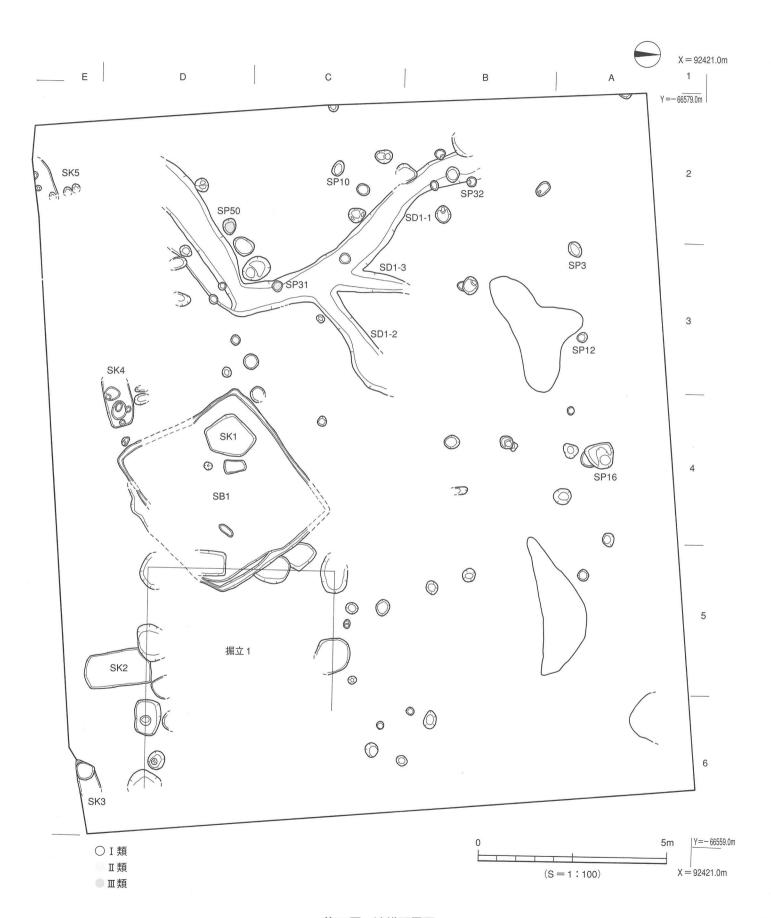
第 V 層は礫の有無によって 2 つに分層される。第 V-1 層は暗茶色粘質土で、厚さ $2\sim50$ cm を測る。調査区全域で検出した。なお、第 V 層上面では弥生時代から古墳時代までの遺構を検出する。第 V-2 層は礫混じりの暗茶色粘質土で、厚さ $2\sim30$ cm を測る。調査区の北西部から北側中央部 A $2\sim A$ 5 区、南東側 C $6\sim C$ 6 区、南側 C 6 区、南側 C 6 区で検出した。無遺物層である。

第VI 層は礫層で、混入土壌の差によって3つに分層される。第VI-1 層は礫層で、厚さ $5\sim45$ cmを測る。調査区北東から東A5 \sim A6 \subset 0 \subset 0 区で検出し、無遺物層である。第VI-2 層は黄色粘土混じりの礫層で、厚さ $5\sim35$ cmを測る。調査区南東側D6 \subset 0 区で検出し、無遺物層である。第VI-3 層は砂混じりの礫層で、厚さ $5\sim20$ cmを測る。調査区南側中央部E5 \subset 0 で検出し、無遺物層である。

第Ⅲ層は砂層で、厚さ3~30cmを測る。調査区南東側D6~E6区で検出した。無遺物層である。



H = 28.90m



第39図 遺構配置図

3. 遺構と遺物 (第39図)

本調査では、弥生時代~中世の遺構と遺物を確認した。遺構は、竪穴住居址(SB) 1 棟、掘立柱建物址(掘立) 1 棟、溝(SD) 1 条、土坑(SK) 5 基、柱穴77基、倒木痕 3 基を検出している。(1) 古墳時代

古墳時代の遺構は、竪穴住居址1棟、掘立柱建物址1棟、溝1条、土坑5基を検出した。

1) 竪穴住居址(SB)…竪穴住居址は1棟を検出した。

SB1 (第40図、図版19)

SB1は、調査区中央南側、С4~D5区に位置し、掘立1、SK1、柱穴に切られている。また、住居の北側は近現代坑に、住居南西側と南東側はトレンチによって切られている。平面形態は方形を呈し、規模は北西-南東4.30m、北東-南西4.70m、深さ15~40cmを測る。埋土は2層に分層され、1層は黒褐色土で深さ10~18cm、2層は黒褐色土(茶色土混じり)で深さ2~20cmを測る。遺物は、弥生土器、須恵器、土師器が出土し、このうち須恵器は上層の黒褐色土から出土している。

施設は、壁体溝を検出したが、主柱穴や炉は確認できなかった。壁体溝の規模は、幅15~50cm、深さ20~25cmを測る。壁体溝の埋土は住居址埋土下層と同じ黒褐色土で、遺物は出土しなかった。

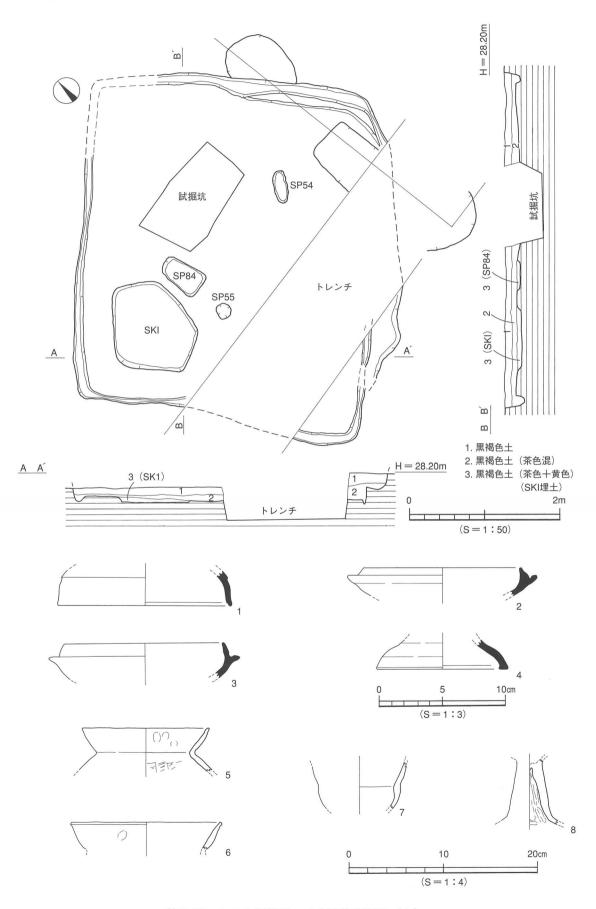
出土遺物 (第40·41図、図版20)

遺物は、弥生土器18点、須恵器4点、土師器13点が出土している。

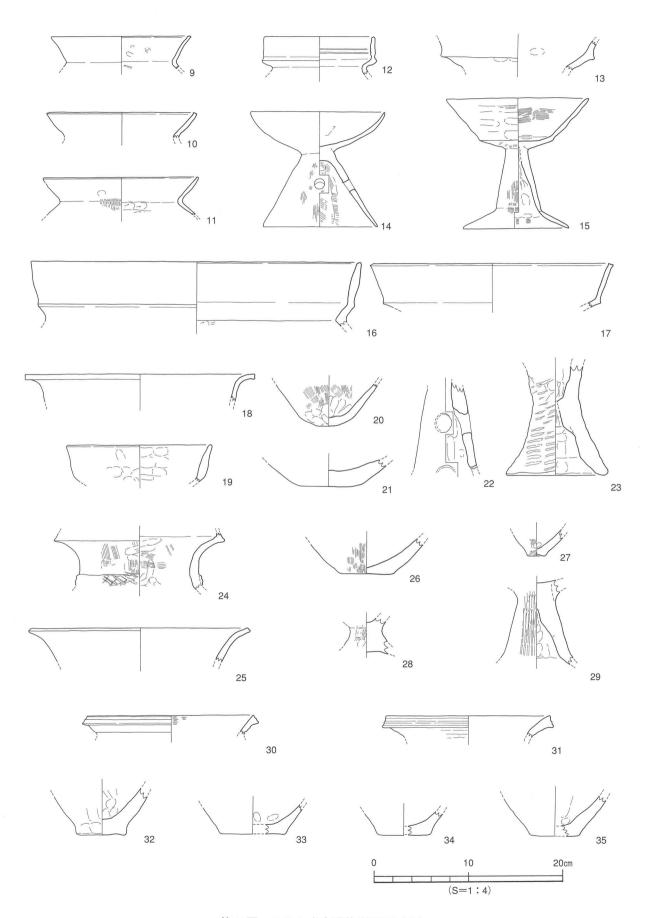
須恵器(1~4)1は坏蓋である。天井部と口縁部の境界に断面三角形の稜をもつ。口縁部は直立 気味に下がり、端部は内傾する。6世紀前半。2・3は坏身で、2の立ち上がりは短く内傾し、端部 は丸い。受部は上外方にのびる。3の立ち上がりは短く内傾し、端部は尖り気味に仕上げる。受部は 厚く水平にのびる。6世紀末。4は脚付壺の脚部片である。脚端部は内湾し平な面をなす。6世紀。

土師器(5~17)5・6は甕の口縁部。5の口縁部は内湾してたちあがり、口縁端部は尖り気味に仕上げる。6の口縁部は内湾してたちあがり、口縁端部付近でやや外反する。5世紀。7は小型丸底壺である。口縁部は欠損している。5世紀。8は高坏の脚部片で、器壁が厚い。5世紀後半~6世紀前半。9~11は甕の口縁部である。9~11の口縁部は内湾する。9の口縁端部はわずかに面をなす。10の口縁端部は内側に小さく突出部をもつ。11の口縁端部は丸い。4世紀。12・13は壺の二重口縁の小片である。12の口縁部は直立する。3世紀後半~4世紀。13は4世紀。14・15は高坏である。14の口縁部は内湾してたちあがり、端部は丸く仕上げる。脚部は「ハ」の字状に広がり、脚部の中央に円孔を施す。3世紀後半。15は外傾してたちあがり、柱裾部は「ハ」の字状に開き、脚端部は丸い。4世紀。16・17は二重口縁で3世紀後半~4世紀である。16の口縁部は外傾してたちあがり、口縁端部は丸い。17の口縁端部は面をもつ。

弥生土器(18~35)18は鉢形土器で、逆「L」字状の口縁部をもつ。19は鉢形土器で、口縁部は外傾してたちあがり、端部は丸い。20は鉢形土器で、底部は丸みをもつ平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。21は壺形土器の底部で、厚く丸みをもつ平底である。22は高坏形土器の脚部である。柱下部から裾部に円孔を2段施している。23は支脚形土器である。ゆるやかに広がる裾部をもち、器壁は厚い。受部は欠損している。18~23は弥生時代終末期のものである。24~26は壺形土器で、24は複合口縁壺である。25は長頸広口壺で、口縁部は大きく外反し、口縁端部は面をもつ。26は底部で、平底となる。底部からやや内湾気味に立ち上がる。27・28は鉢形土器である。27は小形品の底部で、わず



第40図 SB1測量図・出土遺物実測図(1)



第41図 SB1出土遺物実測図(2)

かに上げ底となる。28は台付鉢の脚部片である。29は高坏形土器の脚部で、三角錘の柱部に、大きくひらく裾部をもつ。24~29は弥生時代後期後半のものである。30は甕形土器の口縁部である。口縁部はゆるやかに外反し、口縁端部は面をなす。31~35は壺形土器である。31は口縁部で、口縁端面には2条の沈線をもつ。32~35は底部で、底部はやや厚い平底となる。30~35は弥生時代後期前半。

時期: 弥生土器と須恵器は混入品であり、遺存の良好な土師器の時期をとり、古墳時代前期(4世紀)とする。

2) 掘立柱建物址(掘立)…掘立柱建物址は1棟を検出した。

掘立1 (第42図)

調査区南東部、C5~D6区に位置し、建物東側は調査区外へ続く。掘立1はSB1を切り、SK2に切られる(SP80の下からSB1を検出し、SK2の下から掘立1SP33を検出した)。また、柱穴のうち5基はトレンチと近現代坑に切られている。掘立1は南北3間、東西3間以上となり、規模は南北長4.9m、東西検出長6.0mを測る。柱間は、南北が75~85cm、東西が95~110cmである。各々の柱穴は、南北柱穴は平面形態が楕円形と長方形で、柱穴径は87cm、深さは20~55cmを測る。東西柱穴は、平面形態が楕円形と長方形で、柱穴径は75~85cm、深さは35~65cmを測る。なお、東西列の柱穴は、柱間や規模が南北列のものより大きい傾向をもつ。柱穴掘り方埋土は、黒褐色土である。遺物はSP74・80・81の掘り方埋土から、弥生土器と須恵器が出土した。

出土遺物 (第42図)

36・37はSP81出土品である。36は坏蓋で、口縁部は外傾して下がり、端部は凹み面をなす。7世紀。37は弥生土器の壺の底部である。弥生時代後期。38はSP80出土品の坏蓋で、口縁部はわずかに内湾して下がり、端部は丸く仕上げる。7世紀。39はSP74出土品で、弥生土器の支脚の受部片である。弥生時代終末。

時期: SP80・81出土の須恵器より7世紀に比定する。

3) 溝(SD) …溝は1条を検出した。

SD1 (第39図)

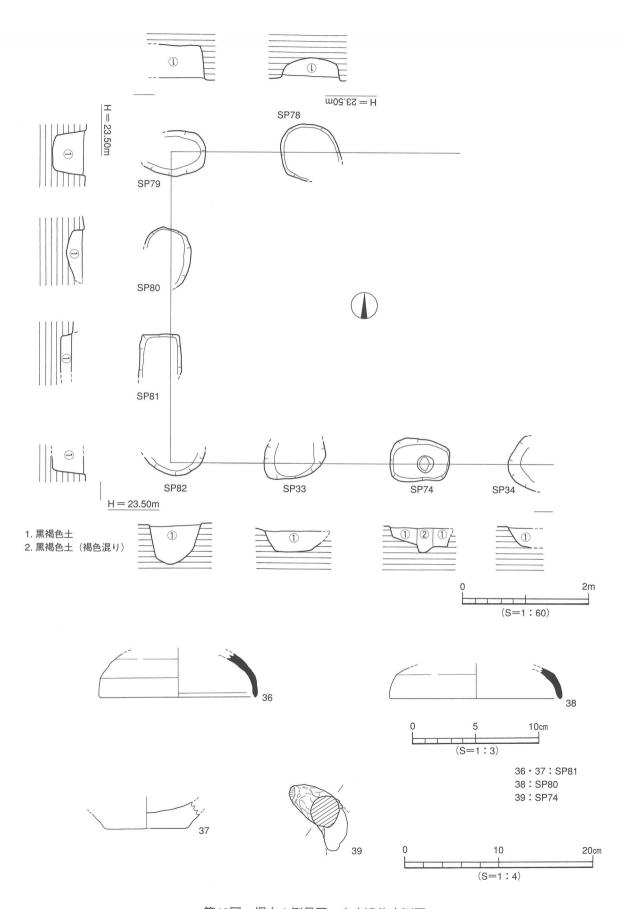
SD1は、溝が3つに枝分かれするもので、主体となる南北溝をSD1-1、枝分かれする東西溝をSD1-2及びSD1-3とした。

SD1-1は、調査区西部、B2~D2区に位置する。SD1-1は西・南のトレンチと柱穴に切られている。規模は全長12m、幅60~130cm、深さ5~25cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は黒褐色土(茶色土混じり)である。出土遺物は弥生土器と須恵器がある。

SD1-2は、調査区中央西側、С3~С4区に位置し、С2区でSD1-1より分かれ、北東側は近現代坑に切られている。規模は全長3m、幅 $50\sim90$ cm、深さ8~12cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は黒褐色土(茶色土混じり)である。出土遺物には弥生土器がある。

SD1-3は、調査区西側、C3区に位置し、C3区でSD1-1より分かれる。規模は全長1.5 m、幅35~60cm、深さ5~10cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は黒褐色土(茶色土混じり)である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

時期:SD1-1とSD1-3から須恵器が出土しているため古墳時代後期に比定する。



第42図 掘立1測量図・出土遺物実測図

4) 土坑 (SK) …土坑は5基を検出した。

SK1 (第39図)

SK1は、調査区中央南、C4~D4区で検出し、SB1を切っている。平面形態は不整形で、規模は長軸115cm、短軸110cm、深さ5~8 cmを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色土 (茶色土混じり) である。遺物は弥生土器が出土した。

時期: 弥生時代の遺物が出土しているが、埋土が古墳時代後期の遺構埋土と同一であることから古墳時代後期に比定する。

SK2 (第39図)

SK2は、調査区南東、D5~E6区で検出し、掘立1を切る。平面形態は長方形で、規模は南北長1.8 m、東西長95cmを測り、深さ10~30cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は2つに分層され、上層には黒褐色土、下層には黒褐色土(茶色土混じり)が堆積する。遺物は弥生土器と須恵器の坏が出土した。

出土遺物(第43回) 40は坏である。口縁部はわずかに外反する。7世紀。

時期:掘立1を切り、須恵器の坏が出土したことから7世紀に比定する。

S K 3 (第39図)

SK3は、調査区南東側、D6~E6区で検出し、柱穴とトレンチに切られている。平面形態は楕円形で、規模は東西検出長90cm、南北検出長55cm、深さ7~12cmを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色土である。遺物は、弥生土器の小片が出土した。

時期:弥生時代の遺物が出土しているが、埋土が古墳時代後期の遺構埋土と同一であることから古墳時代後期に比定する。

SK4 (第39図)

SK4は、調査区南壁中央西、D3・4区で検出し、柱穴に切られている。平面形態は楕円形で、規模は南北長70cm、東西検出長1.3m、深さ7~20cmを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色土(茶色土混じり)である。遺物は、弥生土器の小片が出土した。

出土遺物 (第43図) 41は甕の底部で、平底は叩き痕をもつ。弥生時代終末期。

時期:弥生時代の甕が出土しているが、埋土が古墳時代後期の遺構埋土と同一であることから古墳 時代後期に比定する。

SK5 (第39図)

SK5は、調査区南壁西側外、E2区で検出し、柱穴に切られている。平面形態は楕円形で、規模は南北検出長50cm、東西検出長100cm、深さ3~10cmを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色土(茶色土混じり)である。遺物は、弥生土器と須恵器の坏身が出土した。

出土遺物 (第43図) 42は坏身である。立ち上がりは内傾し、端部は凹み面をなす。受部は比較的太くやや上外方にのびる。5世紀末~6世紀初頭。

時期:須恵器の坏身が出土したため、5世紀末~6世紀に比定する。

(2) 弥生時代~中世(第39図)

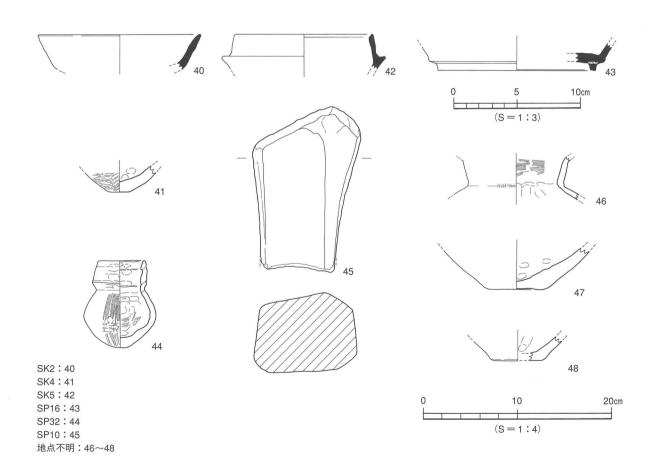
弥生時代~中世の柱穴は77基を検出した。柱穴の平面形態には円形と楕円形があり、埋土には黒褐色土、暗灰色砂、灰色砂の3種類がある。以下、埋土によって分類し、説明する。

I類:黒褐色土の埋土をもつ柱穴は73基ある。調査区ほぼ全域に分布するが、調査区北東部と南西部では検出できなかった。平面形態には円形と楕円形があり、規模は直径20~75cm、深さ 5.5~46 cmとなる。遺物は S P 16から須恵器の坏、 S P 32から弥生土器の壺、 S P 10から砥石が出土した。柱穴 I 類の時期は、弥生時代後期と古墳時代後期のものがある。

出土遺物 (第43図) 43はSP16出土の高台付坏で、体部は直線的に立ち上がる。7世紀。44はSP32出土の壺で、ミニチュア品の複合口縁壺である。弥生時代終末期。45はSP10出土の砥石である。

Ⅱ類:暗灰色砂の埋土をもつ柱穴は2基あり、調査区北側中央A3区で検出された。平面形態には円形と楕円形があり、規模は直径20~35cm、深さ20~25cmとなる。遺物は出土しなかった。これ等の柱穴の時期は、遺物が出土していないが、埋土から古墳時代以降と考えられる。

Ⅲ類:灰色砂の埋土をもつ柱穴は2基あり、調査区中央C3・D2区で検出された。平面形態は円形で、規模は直径28~35cm、深さ10~10.5 cmとなる。遺物は出土しなかった。これ等の柱穴の時期は、中村松田遺跡2次調査地の中世遺構の埋土と同一であるため、中世と考えられる。



第43図 SK・SP・地点不明出土遺物実測図

(3) 地点不明と近現代坑から出土した遺物

地点不明の遺物には、弥生土器 2 点、近現代坑から出土した遺物は弥生土器 1 点がある。

出土遺物 (第43図) 46は壺の口縁部で、頸部は外傾してたちあがる。口縁部は外反する。弥生時 代終末期。47・48は壺の底部で、やや厚い平底である。47は弥生時代後期後半、48は弥生時代後期。

4. 小 結

調査の結果、弥生時代から中世までの遺構や遺物を多数検出することになった。

弥生時代の遺構にはSP32があり、柱穴内からは完形のミニチュア壺が出土し、祭祀色が強い遺構であった。

また、当地一帯に展開する弥生時代後期の住居址が検出されなかったことより、当地点は、中村松田遺跡に展開する弥生後期集落の北限を規定する可能性がある。

古墳時代の遺構には、竪穴住居址 1 棟(SB1)、掘立柱建物址 1 棟(掘立 1)、溝 1 条(SD1)、土坑 5 基($SK1\sim5$)があり、当地一帯が古墳時代後期には居住地となっていたことが判明した。

このうち注目されるのは、6世紀末~7世紀前半の掘立柱建物址である。調査地東200mの素鵞小学校構内遺跡検出の建物群の時期が判明すれば、古墳時代集落の構造が詳細になることであろう。

今回の調査では、中村松田遺跡が古墳時代6世紀に居住地として機能していたことが新しく確認された。今後の一帯の調査では、弥生時代にくわえ、古墳時代集落の範囲についても注意しなければならない。

[対献]

高尾和長編 1997 『釜ノ口遺跡 II 第6~8次調査』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振 興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一編 1997 『中村松田遺跡』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化 財センター

松 山 市 1987 「釜ノ口遺跡 第4~5次」「素鵞小学校遺跡」 『松山市史料集』

森 光晴 1986 「小坂釜ノ口遺跡 第2~5次」『愛媛県史資料編考古』愛媛県

森 光晴・長井数秋 ほか 1973 『釜ノ口遺跡調査報告書』松山市教育委員会

遺構・遺物一覧 一凡例一

- (1)以下の表は本調査検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。 遺構は水本完児、遺物は水本・水口あをいが作成した。
- (2) 遺物観察表の各記載について。

法 量 欄 ():復元推定値

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。

例)□→□縁部、胴中→胴部中位、柱→柱部、胴底→胴部~底部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例)長→長石、石→石英、密→精製土。()の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例)石・長($1 \sim 4$)多 \rightarrow 「 $1 \sim 4 \text{ mm}$ 大の石英・長石を多く含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表14 竪穴住居址一覧

竪穴	時期	平面形	規 模 (m)	埋土	床面積	主柱穴		内部	施設		周壁溝	備す	考
(SB)	11.1701	ТЩЛЭ	長さ(長径)×幅(短径)×深さ	<u> </u>	(m²)	(本)	高床	土坑	炉	カマド	河望/再	川用っ	5
1	古墳時代 前期	方形	$4.7 \times 4.3 \times 0.15 \sim 0.4$	1層 黒褐色土 2層 黒褐色土 (茶色土混じり)	20.21		_	_			0	掘立1·S に切られ	

表15 掘立柱建物址一覧

掘立	規模	方向	桁	行	梁	行	+4-	床面積	n+ #0	/# +/
1/81 -7.	(間)	\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	実長(m)	柱間寸法(m)	実長(m)	柱間寸法(m)	方位	(m³)	時期	備考
1	3×3	東西棟	6.0	0.95~1.1	4.9	0.75~0.85	N-2°-W	29.4	7世紀	SB1を切りSK2 に切られる。

表16 溝一覧

溝 (SD)	地区	断面形	規 模(m) 長さ×幅×深さ	方 向	埋土	出土遺物	時期	備考
1-1	B2~D2⊠	逆台形状	$12.0 \times 0.6 \sim 1.3 \times 0.05 \sim 0.25$	北一南	黒褐色土 (茶色土混じり)	弥生土器 須恵器	古墳時代後期	S P31・32に 切られる。
1-2	C3~C4⊠	逆台形状	$3.0 \times 0.5 \sim 0.9 \times 0.08 \sim 0.12$	北東-南西	黒褐色土 (茶色土混じり)	弥生土器	古墳時代	
1-3	C3区	逆台形状	$1.5 \times 0.35 \sim 0.6 \times 0.05 \sim 0.1$	北-南	黒褐色土 (茶色土混じり)	弥生土器 須恵器	古墳時代後期	ŧ

表17 土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規 模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積 (㎡)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	C4~D4⊠	不整形	逆台形状	$1.15 \times 1.1 \times 0.05 \sim 0.08$	1.27	黒褐色土 (茶色土混じり)	弥生土器	古墳時代後期	SB1を切る。
2	D5~E6⊠	長方形	逆台形状	$1.8 \times 0.95 \times 0.1 \sim 0.3$	1.71	上層 黒褐色土 下層 黒褐色土 (茶色土混じり)	弥生土器 須恵器	7世紀	掘立1を切る。
3	D6~E6⊠	楕円形	逆台形状	$0.9 \times 0.55 \times 0.07 \sim 0.12$	0.50	黒褐色土	弥生土器	古墳時代後期	
4	D3 · 4⊠	楕円形	逆台形状	$1.3 \times 0.7 \times 0.07 \sim 0.2$	0.91	黒褐色土 (茶色土混じり)	弥生土器	古墳時代後期	
5	E2区	楕円形	逆台形状	$1.0 \times 0.5 \times 0.03 \sim 0.1$	0.5	黒褐色土 (茶色土混じり)	弥生土器 須恵器	5世紀末~6世紀	

表18 SB1出土遺物観察表 十製品

20

鉢

残高

4 55

色調 (外面) 色調 (内面) 調 整 胎土 備考 図版 番号 器種 法量(cm) 形態・施文 焼成 外面 内面 天井部と口縁部の境界に断面三角 灰色 密(石·長(1)) 口径(13.6) 回転ナデ 回転ナデ 形の稜をもつ。口縁部は直立気味 1 坏蓋 残高 2.8 灰色 に下がり口縁端部は内傾する。 たちあがりは長く内傾し、端部 淡灰色 密 口径(12.6) は丸い。受部は上外方にのび、 回転ナデ 回転ナデ 2 坏身 淡灰色 0 残高 2.8 受端部に沈線状の凹みあり。 たちあがりは短く内傾し、端 灰色 密(石·長(1)) 口径(12.4) 回転ナデ 部は尖り気味に仕上げる。受 回転ナデ 3 坏身 灰色 残高 2.3 部は太く水平にのびる。 脚付壺の脚部片。内湾し、脚 灰色 底径(10.3) 回転ナデ 回転ナデ 壺 淡灰色 (0) 端部は平らな面をなす。 残高 2.35 石(1)・長(1~2) 「く」の字状口縁。口縁部はや ⊕ナデ 茶黄色 口径(13.5) や内湾する。口縁端部は尖り ヨコナデ 5 甕 丽ケズリ 茶黄色 残高 4.65 気味に仕上げる。土師器小片。 内湾する口縁部。口縁端部付 灰黄褐色 石·長(1) 口径(16.5) ヨコナデ ヨコナデ 6 甕 残高 2.7 近でやや外反する。 黄褐色 褐色 長 $(1\sim2)$ 小型丸底壺である。口縁部は マメツ ヨコナデ 7 残高 壺 5.0 褐色 欠損。 ●Dシボリ痕 橙茶褐色 脚部片。器壁が厚い。内面に 石·長(1) ハケ (脚中)ナデアゲ (5米)割 高坏 残高 6.85 橙茶褐色 しぼり痕あり。 0 MP ヨコナデ 石(1~2)・長(1) やや内湾する口縁部。端部は □ヨコナデ 灰黄色 口径(14.8) ナデ 9 壅 働ハケ 黄褐色 残高 3.5 わずかに面をなす。 0 口縁部はゆるやかに内湾す 乳褐色 口径(15.2) 石・長(1) スス付着 る。端部は内側に小さく突出 ヨコナデ ヨコナデ 10 甕 乳褐色 0 残高 2.7 部をもつ。 石·長(1~2) 乳黄白色 回ヨコナデ 口径(16.6) 20 ケズリ 内湾する口縁部。端部は丸い。 11 甕 残高 4.0 厠ハケ 乳黄白色 石·長(1) 灰褐色 二重口縁壺である。口縁部は 口径(11.8) 20 ヨコナデ ヨコナデ 安(1) 12 壺 残高 4.1 灰褐色 直立する。土師器小片。 石·長(1~3.5) 黄茶色 ヨコナデ ナデ 13 残高 3.1 二重口縁壺である。小片。 金 壼 黄灰色 0 口縁部は外反し、口縁端部は丸く 卵ヨコナデ (年曜) ヨコナデ 石(1~2.4)・長(1~2) 口径 14.1 乳黄白色 団働ハケ→ナデ 20 14 高坏 器高 12.3 仕上げる。脚部は「ハ」の字状に 金 乳黄白色 広がり、脚部の中央に円孔を施す。 (厠下)ハケ→ナデ消し 卿ハケ 底径 12.2 (五端ナデ(五分ナデ→ハケ(8/m)(乗りシボリ痕(乗りハケ 体端ナデ 椀形の坏部。坏部下位にて不明 口径 15.0 が ヨコナデ 四 ロハケ 乳黄白色 石・長(1~3) 里班 瞭な稜をもつ。柱裾部は「ハ」 20 高坏 器高 13.9 15 乳黄白色 0 の字状に開き、脚端部は丸い。 ஹナデ 底径 11.7 二重口縁の鉢である。口縁部 石・長(1~2) 灰黄白色 口径(34.0) は外傾し直立する。端部は丸 ヨコナデ ヨコナデ 余 16 絉 乳黄白色 残高 6.8 い。山陰系か。 淡灰褐色 | 石·長(1~3) (回輸ナデ 二重口縁の鉢である。突出部 口径(24.8) マメツ 17 鉢 淡褐色 をもつ口縁部。山陰系である。 □マメッ 残高 4.7 石·長(1) 口径(24.1) 「く」の字状の口縁部で、ゆ 淡黄褐色 マメツ マメツ 余 18 鉢 淡黄褐色 残高 2.9 るやかに外反する。 石・長(1~2) 口縁部はゆるやかに直立す 暗茶褐色 口径(18.2) 黒斑 ナデ ヨコナデ 19 纮 金 暗灰褐色 る。端部は丸い。 残高 4.2 石(1~4)·長(1~5) 鉢の底部である。平底。体部 体Dハケ (6本/1cm) 像ハケ 乳黄茶色 底径 1.8

(1)

ΦDナデ

は内湾気味に立ちあがる。

慮ナデアゲ

金

乳黄茶色

黒斑

SB1出土遺物観察表 土製品

(2)	

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	/± +/	EW II-
田力	カロイ王	/A里(III)	///··································	外面	内面	巴嗣(内面)	焼成	備考	図版
21	壺	底径 7.4 残高 2.5	ある平底。	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	ナデ	乳黄褐色 茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
22	高坏	残高 9.3	脚部である。柱下部から裾部 に円孔を 2 ヶ所施している。 (§ 1.8cm)	マメツ	マメツ	橙茶褐色 橙茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
23	支脚	底径(10.4) 残高 12.4	壁は厚い。受部は欠損。	₩D タタキ	側Dナデ 側Dシボリ痕 側Dナデ	黄茶褐色 黄茶褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
24	壺	残高 5.6	複合口縁壺である。口縁部は 外反する。頸部に凸帯を貼付 け、凸帯上に斜格子文を施す。	□ナデ働ハケ→ナデ	□ナデ	黄褐色 黄褐色	石·長(1~5) 金 ◎		
25	壺	口径(22.9) 残高 3.6	外反し、端部は面を持つ。	□ ヨコナデ □ マメツ	マメツ	乳灰黄色 乳灰黄色	石·長(1~4) 金 ◎		
26	壺	底径(5.7) 残高 3.9	壺の底部である。平底。平底 の底部からやや内湾気味に立 ち上がる。	ハケ	マメツ	黄茶色 灰茶黄色	石·長(1~4) 金 ◎		
27	鉢	底径 1.8 残高 2.85	小型の鉢の底部である。わず かに平底。	ハケ	ナデ	乳黄茶色 茶褐色	石(1~3)·長(1~2) 金 〇		
28	鉢	残高 3.8	台付鉢の脚部片である。	ハケ→ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
29	高坏	残高 9.0	脚部である。三角錐の柱部。 大きくひらく裾部。柱部外面 にミガキを施す。	脚Dミガキ 脚Dハケ後ミガキ	®ミガキ ®シボリ痕	灰黄褐色 茶褐色	石·長(1~4) 金 ◎		
30	蓰	口径(17.5) 残高 2.0	ゆるやかに外反する口縁部。 口縁端面に凹線を2条施す。	①動ヨコナデ 働ヨコナデ	ヨコハケ(?)	暗茶褐色 茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
31	壺	口径(17.3) 残高 2.4	外反する口縁部。口縁端面に 凹線を2条施す。	□動ヨコナデ □ヨコナデ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石·長(1~3) 金 ◎		
32	壺	底径 4.9 残高 5.1	底部はやや厚い上底。	働マメツ ⑯ナデ	ナデ	暗灰褐色 灰黄色	石(1~4)·長(1~5) 金	黒斑	
33	壺	底径(7.0) 残高 3.2	底部はやや厚い平底。	マメツ	ナデ	茶褐色 黄褐色	石·長(1~1.5) 金 ◎	スス付着	
34	壺	底径(5.6) 残高 2.55	底部はやや厚い平底。	働マメツ <u>慮</u> ナデ	ナデ	乳黄褐色 乳黄色	石(1~2)·長(1) 金 ◎		
35	壺	底径(5.2) 残高 4.3	底部はやや厚い平底。	倒マメツ ⑥ナデ	ナデアゲ	暗褐色 暗褐色	石(1~5)·長(1~3) 金 ◎		

表19 掘立1出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	∠無(外面)	胎土	/# + /	
田力	コロ小王	/A里(III)	/// 思 / /// // // // // // // // // // /	外面	内面	色調 (内面)	焼成	備考	図版
36	坏蓋	口径(12.3) 残高 3.45	天井部と口縁部の境界は不明 瞭。口縁部は外傾して下がり、 口縁端部は丸く仕上げる。	回転ナデ	回転ナデ	赤灰色 赤灰色	密 長1)	S P81	
37	壺	底径 (8.2) 残高 2.8	壺の底部である。底部は平底 である。	ミガキ	ナデ	淡灰褐色 灰色	石·長(1~3) ◎	S P81	

掘立1出土遺物観察表 土製品

- T	番号 器種 法量		形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
番与	田马田里四里(011)	// // // // // // // // // // // // //	外面	内面	巴酮 (内面)	焼成	川方	凶版	
38	蓋	口径(13.4) 残高 2.45	天井部から段をなして口縁部に 下がる。口縁部はわずかに内湾 し、端部は丸く仕上げる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1)	S P80	
39	支脚	残長 8.0	支脚の受部片である。	ナデ (一部タタキ)		淡黄褐色	石・長(1~3)	S P 74	

(2)

表20 SK出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土 焼成	備考	図版
		広里(CIII)		外面	内面	巴酮 (内面)			凶加
40	坏	口径(12.6) 残高 2.8	□縁部はわずかに外反する。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	石·長(1) ◎	S K 2	
41	甕	底径(2.2) 残高 2.8	甕の底部である。底部は平底 である。	タタキ	ナデ	黒灰色 黄褐色	石(1~2)·長(1~3) 金 ◎	S K 4 黒斑	
42	坏身	口径(10.8) 残高 2.8	たちあがりは内傾し、端部は 丸く仕上げる。受部は比較的 太くやや上外方にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石·長(1) ◎	S K 5	

表21 SP出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調 (外面)	胎土	備考	図版
	石矿里	広里(CIII)	が態・旭又	外面	内面	四神(内面)	焼成	川川石	凶版
43	高台坏	底径(12.5) 残高 2.1	高台坏。体部は直線的に立ち 上がる。高台は直立して付く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石·長(1~4) 金 ◎	S P 16	
44	ミニチュア	口径 4.8 器高 9.3 底径 1.5	壺のミニチュア品。完形品で ある。平底である。短く外反 する口縁部。	@ ユニ がり、た	・ ヨコナデ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	灰褐色 淡茶褐色	石·長(1~2) 金 ◎	SP32 黒斑	20

表22 S P 10出土遺物観察表 石製品

番号	型 活	残存	材質		法	法 量 #=	供土	図版	
	器種	9友1子		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	凶加
45	砥石	約2/3		17.7	10.9	8.5	2350.0	鉄が付着する。 全面に研磨使 用痕。	20

表23 その他出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調 (外面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	内面)			IZI/IX
46	壺	残高 4.6	壺の口縁部である。口縁部は 外反する。	①動ナデ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	©砂ハケ (13本/cm) ⑨ナデ	乳黄色 乳黄色	石·長(1~1.5) 金 ◎	不明	
47	壺	底径 (6.8) 残高 4.95	壺の底部である。底部はやや 厚い平底。	マメツ	ナデ	橙褐色 黄褐色	石(1~3)·長(1~2.5) 金 ◎	近現代址 黒斑	
48	壺	底径 5.6 残高 2.2	壺の底部である。底部はやや 厚い平底。	ナデ	ナデ	黄褐色黄褐色	石(1~2.5)·長(1~4)	地点不明	

-82-

第4章

 小 坂
 なな の プ 運
 少 運
 遺 跡

 - 2 次調査地ー



第4章 小坂七ノ坪遺跡2次調査地

1. 調査の経過

(1)調査に至る経過(第44図)

本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No110釜ノ口遺跡』内における宅地造成工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は、石手川左岸扇状地の扇端部にあり、標高29.30m(地表面)に立地する。小坂七ノ坪遺跡は、既に平成元年に調査をし、7世紀末~8世紀代の遺構と遺物が確認されている。

また、周辺地域における調査は増加傾向にあり、当地における弥生時代から古代までの集落構造が明らかになりつつある。西方300mには弥生時代後期と奈良時代の集落跡が検出された「中村松田遺跡」、北方200mには5~6世紀を主体とする「素鵞小学校遺跡」がある。その他、弥生時代中・後期の「中村遺跡」、弥生時代後期の「釜ノ口遺跡」などがあり、各々が集落を形成している。

従って、当該地の埋蔵文化財の有無と、遺跡の範囲や性格を確認するため、松山市教育委員会文化教育課は平成10年6月18日に試掘調査を実施した。試掘調査では、柱穴や土坑を検出し、土師器片・須恵器片・弥生土器片などの遺物も確認した。そこで、松山市教育委員会文化教育課と申請者は試掘調査の結果を受け、遺跡の取り扱いについて協議を行った。協議では、宅地造成によって失われる遺構と遺物を記録保存するために、発掘調査を実施することにした。

発掘調査は、調査地及び小坂から中村町一帯に存在する弥生時代~古代の集落構造解明を主目的に、 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが主体となり、申請者及びちぐさ技研工業株式 会社の協力のもと、平成10年9月1日に発掘調査を開始した。



第44図 調査地位置図 (S=1:800)

(2)調査の経緯

調査の準備行為として、1998(平成10)年8月31日、調査地の現況を確認し、地権者代理人の立ち会いのもと調査区域を決定する。調査地内はコンクリートで覆われており、立会人にコンクリートの搬出用トラックを依頼し、除去作業を開始する(10月3日に終了)。同時に調査機材を搬入する。

9月1日には人員を配して発掘作業を開始する。まず、調査地の土層確認のため、調査対象地の西端に南北トレンチを設定し、地山面(第区層上面)まで掘り下げる。トレンチ南半部では東西に走る溝一条を確認したが、北半部では後世の開発によって広く遺構が消失していた。そこで、調査方法を検討し、調査地の南半部は全面調査、北半部はトレンチ調査にとどめることにした。9月4日には遺構の検出作業を開始し、9月8日には柱穴、溝、土坑を検出する。9月9日、遺構検出状況の写真撮影をする。9月10日、遺構の掘り下げ作業を開始する。9月14日、調査区内に国土座標系第Ⅳ系から国土座標X=92,289.00m、Y=-66,387.00mを設置し、同時に4m四方のグリットを設定する。9月24日、遺構の測量を開始する(第45図)。

10月14日にはSK13内の土器を検出し、10月22日にはSK13内の遺物の取り上げを開始する。10月28日、調査区内の清掃をし、午後より各遺構の完掘状況写真を撮影する。10月30日、遺構の完掘状況 (調査区全景)を撮影する。同日には、出土遺物と発掘機材を搬出し、野外調査を終了する。

(3)調査組織

調 查 地 松山市小坂二丁目472-6

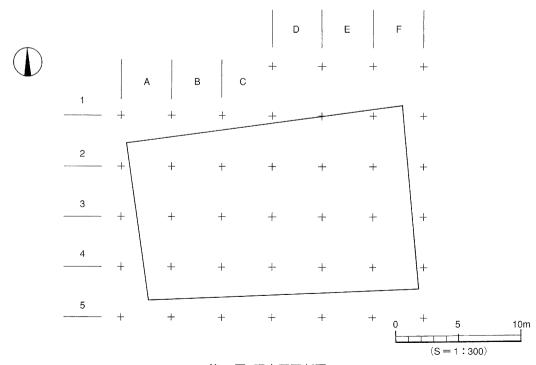
遺跡 名 小坂七ノ坪遺跡2次調査地

調査期間 1998 (平成10) 年9月1日~1998 (平成10) 年10月31日

調査面積 781.29 m²

調査委託 ちぐさ技研工業株式会社 千種 英男

調査担当 小笠原善治・河野史知



第45図 調査区区割図

2. 層 位 (第46図)

調査地は、松山平野北東部、石手川扇状地の扇端部に位置し、地形は調査地の北東部から南西部に 緩傾斜する。調査地は工場跡地であったため、地表より厚さ15cm程度の造成土(真砂土)がある。

第 I 層:現代の造成土で、厚さ15cmを測る。

第Ⅱ層:近現代の耕作土で、厚さ12cm~16cmを測る。

第Ⅲ層:近現代の耕作土の床土で、厚さ3cm~5cmを測る。

第Ⅳ層:近世の耕作土で、厚さ10cmを測る。

第V層:近世耕作土の床土で、厚さ2cm~4cmを測る。

第Ⅵ層:調査区全域で見られ、厚さ11cm~22cmを測る。須恵器・土師器片を包含する。

第四層:調査区西部の一部を除き、調査区内ほぼ全域に見られる。本層上面では、洪水堆積物(粗砂)が部分的に見られる(第46図スミアミ部分)。厚さは4cm~26cmを測り、弥生土器片が出土する。

第Ⅷ層:調査区南西部に分布し、厚さ4cm~11cmを測る。

第IX層:調査区の基盤層で、本層上面が最終の遺構検出面になる。地形測量の結果、第IX層上面は 調査区北東部から南西部に向かって緩傾斜し、南西部北半では一部に砂礫層を検出した。

3. 遺構と遺物 (第47図)

本調査では、弥生時代~古代の遺構と遺物を検出した(第47図)。遺構は溝6条、土坑4基、柱穴28基、性格不明遺構4基がある。遺物は主に遺構からの出土品であり、弥生土器(弥生時代後期)、須恵器(古墳時代~古代)、土師器(古代)等が出土している。

[1] 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構には溝3条と土坑2基があり、第IX層上面で検出した。

(1) 溝

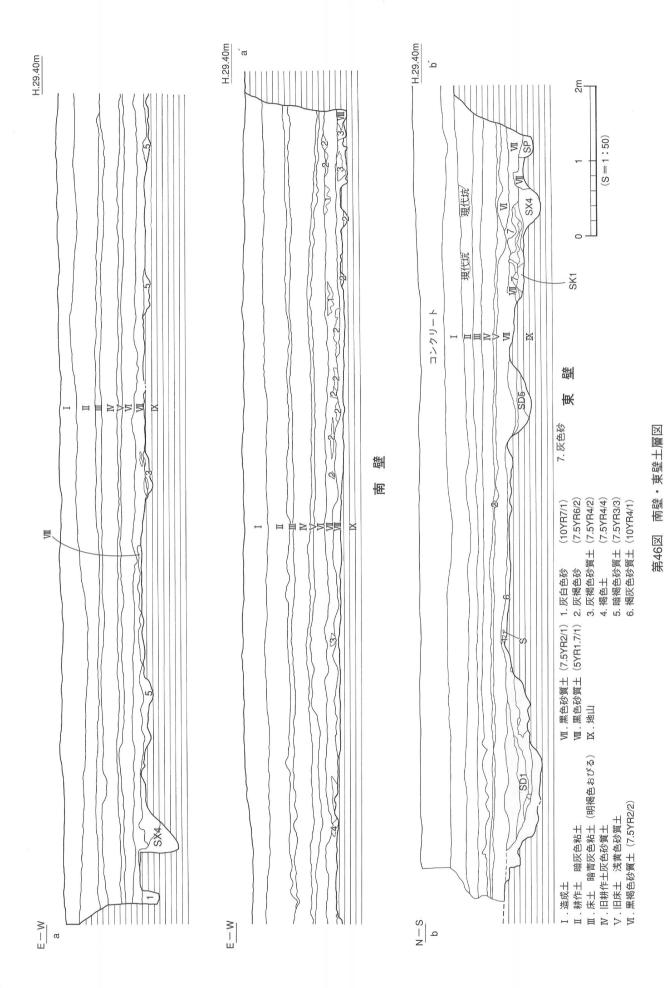
SD2 (第49図、図版21)

調査区西部、C1~A3区を北東から南西に走る溝である。SD2はSK13、SD1、SD3に切られ、北東部分は調査区外に延びる。規模は幅1.3m~2.6m、深さ40cm~120cm、検出長13.2mを測る。断面形態は逆台形状~レンズ状を呈し、埋土は上層から黒褐色砂質土、灰褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土である。遺物は、弥生時代中期末~後期初頭の土器が数点出土している。

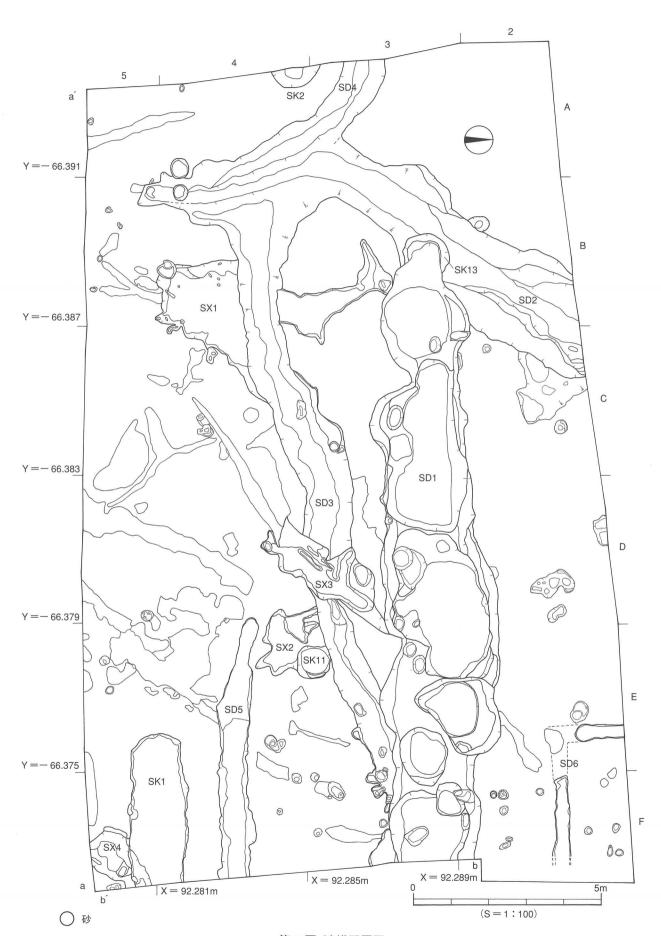
出土遺物(1~4)(第48図)

1は甕形土器の口縁部で、口縁端部はやや肥厚する。2は甕形土器の底部。3は壺の口縁部片で、口縁端部は欠損する。外面には斜沈線と凹線が4条施される。4は壺形土器の底部片である。

時期:遺構の時期は、出土遺物から弥生時代中期末~後期初頭とする。



— 88 —



第47図 遺構配置図

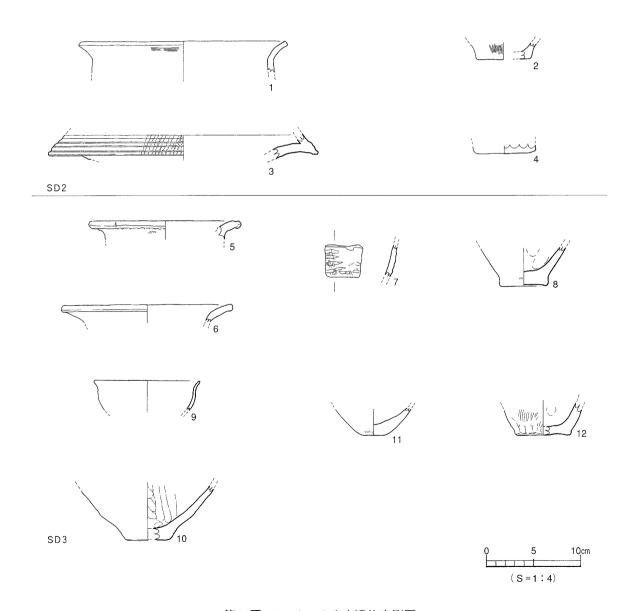
SD3 (第49図、図版23)

調査区中央、 $A \cdot D \cdot 4 \sim C \cdot F \cdot 3$ 区を東西に走る溝である。 $SD \cdot 3$ はSK11、 $SX \cdot 2$ 、 $SD \cdot 1$ に切られ、調査区外に延びる。規模は幅 $1.1m \sim 1.6m$ 、深さ $20cm \sim 60cm$ 、検出長19mを測る。断面形態は船底形状~レンズ状を呈し、埋土は上層から黒褐色砂質土(黄色粒含む)、黒褐色粘質土、灰褐色粘質土(黄色ブロック含む)である。遺物は、弥生時代後期の土器片が数点出土している。

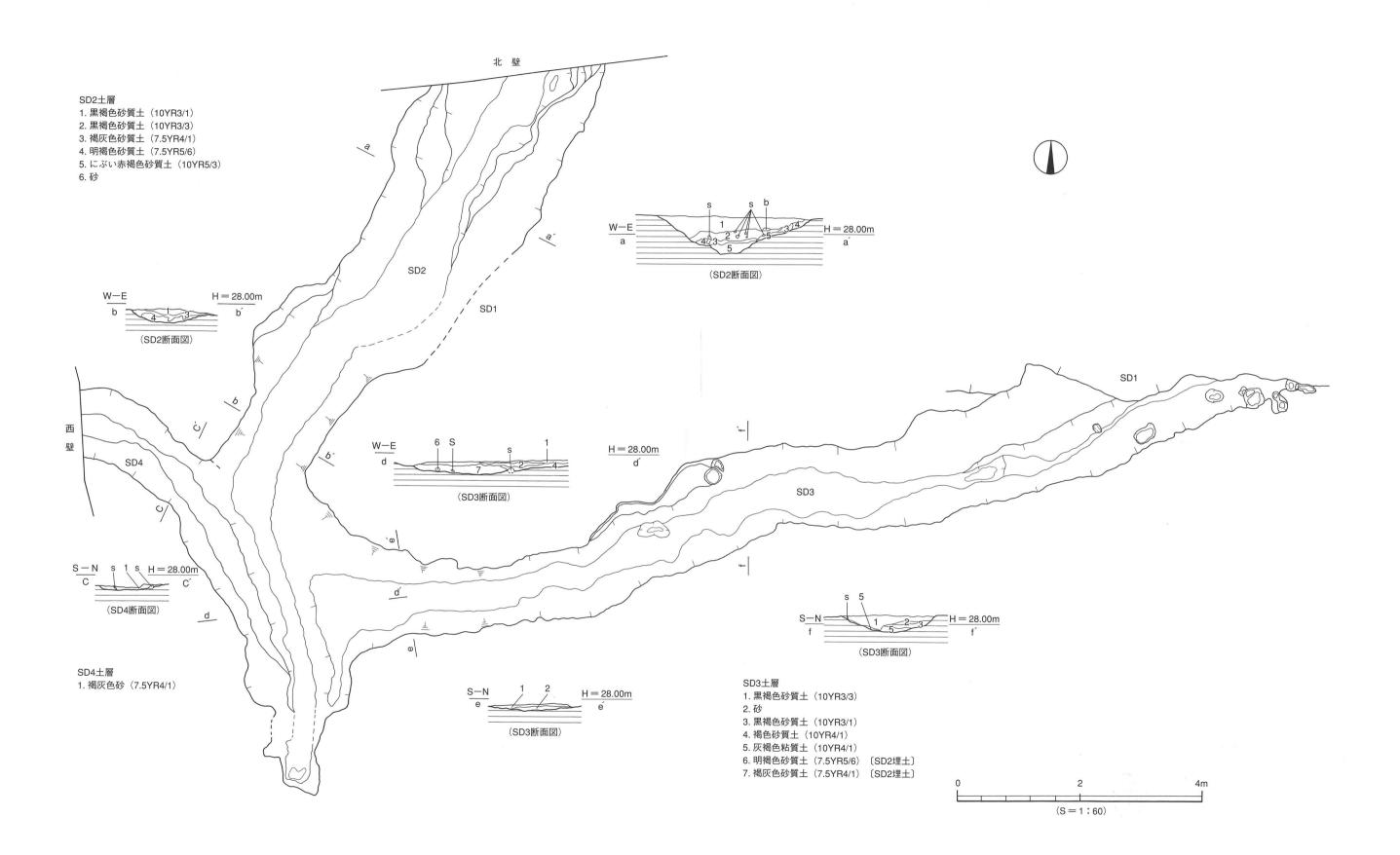
出土遺物 (第48図)

5・6は甕形土器の口縁部である。5の口縁部は外反し、内面が緩やかにナデくぼむ。6は緩やかに外反する口縁部を持ち、端部は丸く仕上げる。7は甕形土器の胴部片で外面にタタキ痕を残す。8は甕形土器の底部。9は鉢形土器で、内湾気味に立ち上がり、外反する口縁部を持ち、端部は先細る。10~12は壺形土器の底部片である。10は突出する底部を持つ。11は突出しくびれ気味の底部を持つ。12はわずかに突出する底部を持つ。

時期:遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期後半とする。



第48図 SD2・3出土遺物実測図



第49図 SD2・3・4測量図

SD4 (第49図)

調査区東部、A3~A4区を東西に走り、SD2を切り、遺構の西部は調査区外に延びる。規模は幅1m、深さ8cm~40cm、検出長2.2mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は上層から黒褐色砂質土、灰褐色砂質土、明褐色土である。なお、埋土の構成、断面形状及び方位がSD3に類似する。遺物は、弥生土器の小片が数点出土している。

時期:遺構の時期は、埋土と出土遺物から弥生時代後期とする。

2) 土 坑

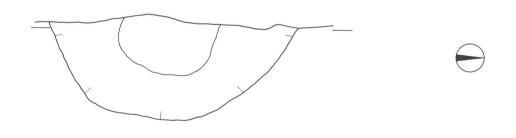
SK2 (第50図)

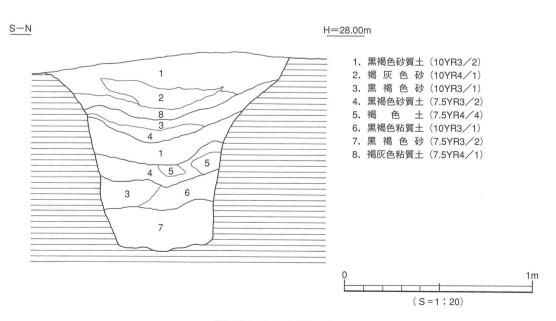
調査区西部、A3~A4区に位置し、遺構の西半は西壁にかかる。平面形態は円形で、規模は直径 1.4m、深さ90cm~100cmを測る。断面形態は壁体上位が逆台形、中位から下位にかけては筒状となる。床面は凹凸を少しもつ。埋土は、上層から黒褐色砂質土、灰褐色砂質土、暗褐色粘質土である。遺物は、弥生土器の小片が少量出土している。

出土遺物 (第51図)

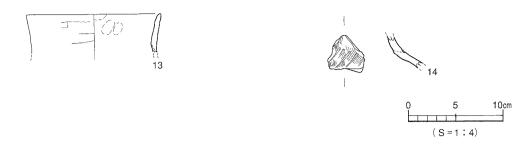
13・14は壺形土器である。13は長頸壺の口縁部である。14は頸部片で、外面に左斜下方に向かって刺突文が施される。

時期:遺構の時期は、遺物から弥生時代後期とする。





第50図 SK2測量図



第51図 SK2出土遺物実測図

S K13 (第52図、図版22)

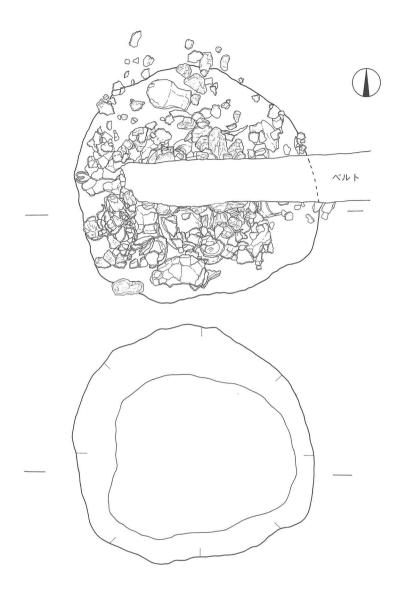
調査区北西部、B3区に位置し、SD2を切り、SD1に上部を削平される。平面形態は円形で、規模は直径1.3m、深さ70cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、床面は平坦である。埋土は上下2層にわかれ、上層は黒褐色土、下層は黒褐色砂質土で、両層ともに10cm~20cm大の礫を含む。遺物の出土状況は、土坑の上からまず上層中位に礫があり、その下から上層下位に完形に近い土器が出土し、つづいて下層上位に礫が多くあった。下層中位以下からの遺物の出土は少ない。出土品は土器に限られ、甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、器台形土器がある。

出土遺物 (第53~61図、図版24~28)

①上層下部出土遺物 (15~96) (第53~60図)

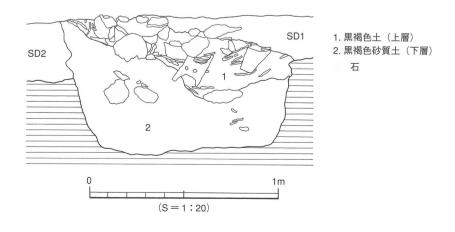
甕形土器 (15~43·86·87)

15~43・86・87は甕形土器である。15は胴部の器壁がやや厚く、口縁部は外反し、端部は先細る。 16は緩やかに外反する口縁部に、胴部はやや下ぶくれを呈する。底部は突出し、わずかに上げ底を呈 する。外面にはススが付着する。壺形土器かも知れない。17はやや肩の張る胴部より、緩やかに外反 する口縁部をもつ。18は緩やかに外反する口縁部をもち、口縁端部は「コ」の字状を呈する。底部は わずかに上げ底を呈する。19の口縁部は緩やかに外反し、端部は「コ」の字状を呈する。胴部は丸く 張りを持つ。20は張りの弱い胴部から緩やかに外反する口縁部を持ち、端部は丸みを持つ。21は短く 外反する口縁部で、口縁端部は粗く、面を持つ。胴部の張りは弱い。22は「く」の字状の口縁を持ち、 端部は丸みのある「コ」の字状を呈する。23は「く」の字状の口縁部を持ち、端部は「コ」の字状を 呈する。24は外反する口縁部に、端部は面をなす。頸部には刻み目凸帯が巡る。25の胴部は球状を呈 し、口縁部は外傾して立ち上がる。26は大きく外反する口縁部を持ち、端部は「コ」の字状を呈する。 27は外反する口縁部をもち、端部は丸みをおびる。28の口縁部は「く」の字状を呈し、端部付近はや や内湾し面をなす。29の口縁部は「く」の字状を呈し、端部は「コ」の字状になる。頸部外面はやや くびれる。なお、28と29は同一個体の可能性がある。30は外反する口縁部を持ち、端部は丸みをおび た「コ」の字状を呈する。31は外反する口縁部を持ち、端部は面をなす。32は短く外反する口縁部を 持つ。33の口縁部は、緩やかに折れ曲がる。端部は丸くおさめる。34は強く屈曲する口縁部に、端部 はやや下方に肥厚し面をなす。35は外反する口縁部を持ち、端部はやや肥厚し、端面は凹面をなす。 36~43は底部片である。36·37は突出した平底、38·39は平底、40~43はやや上げ底を呈し、くびれる。 40はわずかに突出し、やや上げ底気味の底部を持つ。胴部は内外ともにハケ目を施し、底部外面は縦 方向に削り痕を残す。第59図86は平底で、やや器壁が厚い。87は突出する平底をもつ。

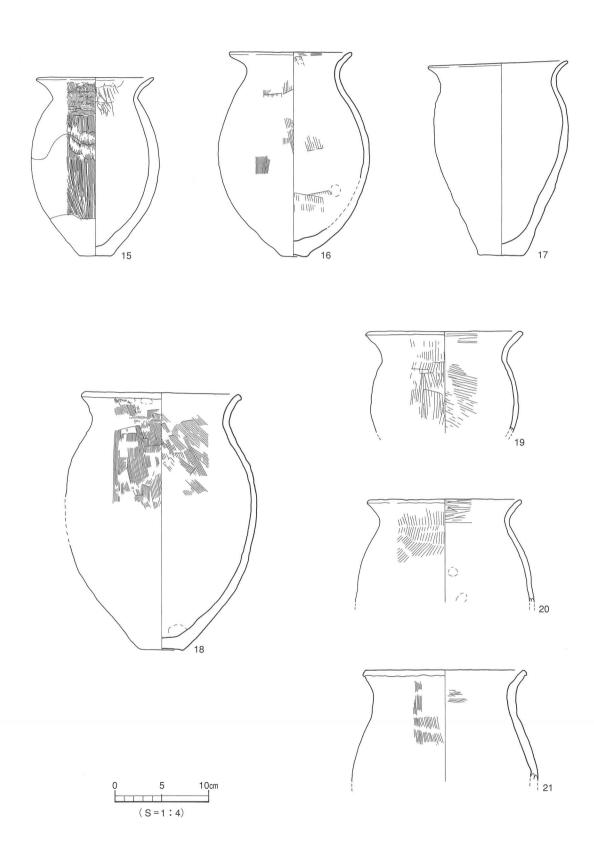


W - E

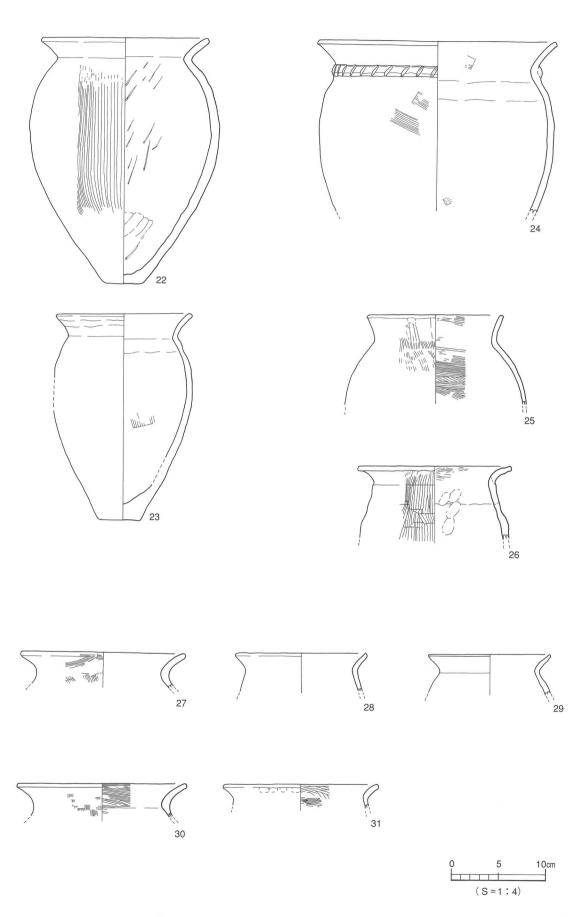
H = 28.40 m



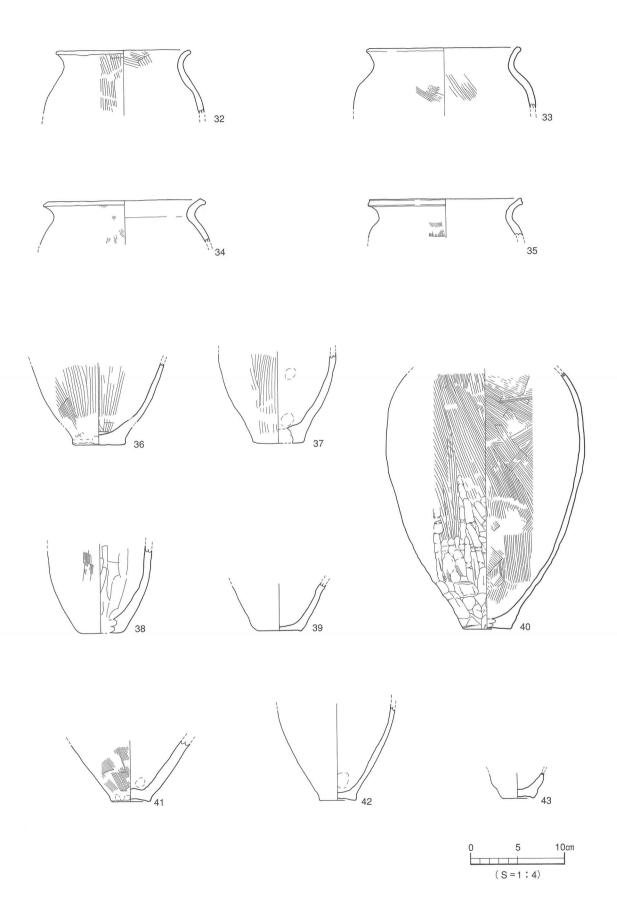
第52図 S K 13測量図



第53図 SK13出土遺物実測図(上層下部)(1)



第54図 SK13出土遺物実測図(上層下部)(2)



第55図 SK13出土遺物実測図(上層下部)(3)

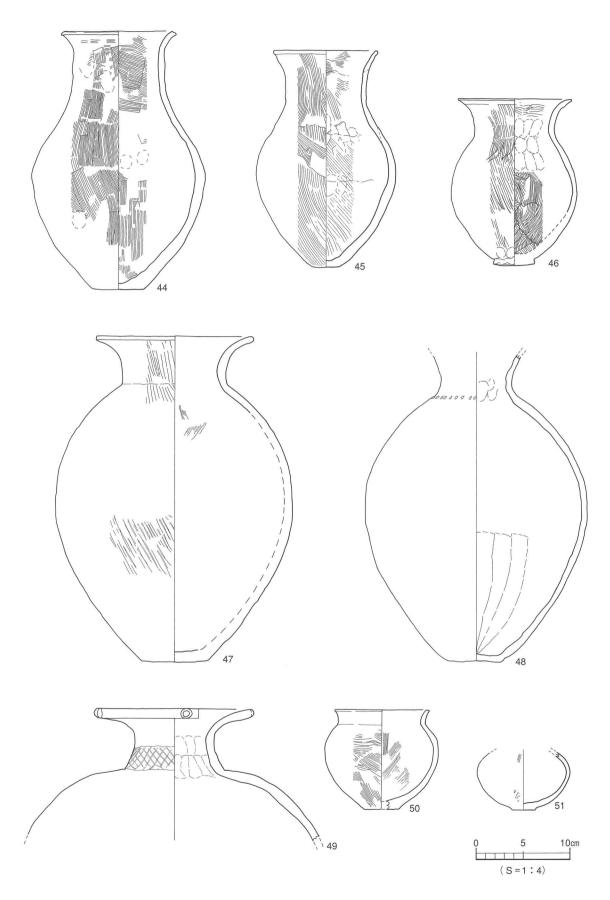
壺形土器 (44~75)

44~75は壺形土器である。44は長球形の胴部からなだらかに直立気味に立ち上がる頸部と、外反する口縁部をともなう。口縁端部は「コ」の字状を呈する。45はやや厚い体部に、なだらかに外反して立ち上がる口縁部をもつ。46は口縁部が大きく外反し、端部は先細りで丸くおさめる。線刻が2ヶ所にある。47は緩やかに外反する口縁部を持ち、端部は丸みを持つ。48は口縁部が欠失する。頸部直下には列点文が巡る。49はやや内傾した頸部から大きく外反する口縁部を持ち、口縁端部外面には円形浮文が貼り付けられる。頸部には斜格子刻みの突帯が巡る。50はやや張りのある胴部から、外反して立ち上がる口縁部をもつ。口縁端部には沈線状の凹みが見られる。51はやや扁平球状の胴部をもつ。底部は突出した平底である。

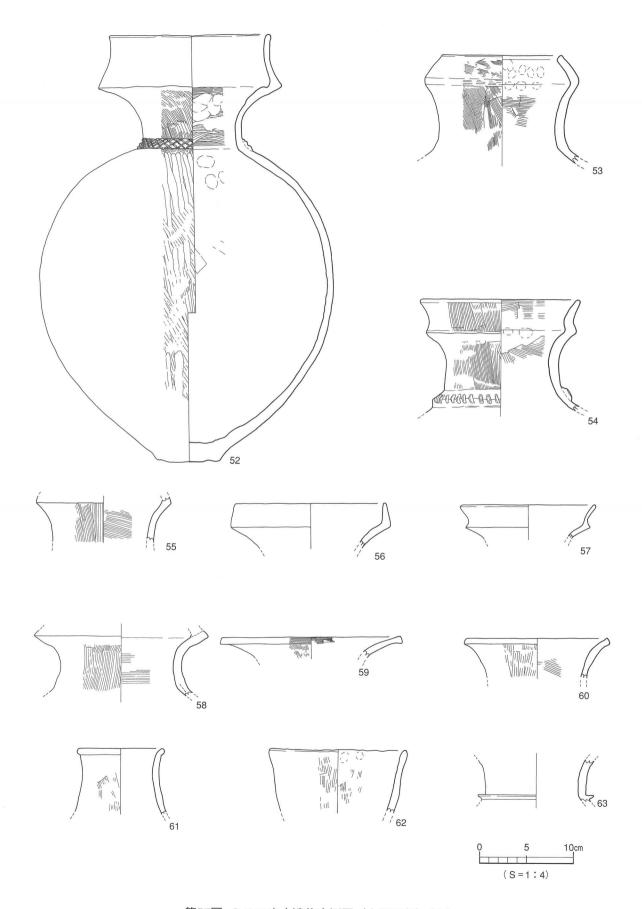
52~58は複合口縁壺である。口縁部と拡張口縁との接合部は「く」の字状を呈する。52の口縁拡張部は外反気味に内傾して立ち上がる。頸部には、斜格子文を施す突帯が巡る。口縁部外面は無文。53の口縁部は袋状を呈する。拡張部は短く内湾し、端部は丸みを持った「コ」の字状を呈する。頸部は直立気味に外反する。54の口縁部は、外傾して立ち上がる頸部に、屈曲して大きく外反する口縁部を持つ。外面は縦ハケ目を施す。器壁は厚い。頸部には、刻み目を施す断面台形状の突帯が巡る。55は複合口縁壺の口頸部片である。口縁拡張部は欠失している。56の拡張口縁部は直立する。口縁部外面は無文。57は、一次口縁部と二次口縁部との接合部が外側に突出し、稜を持つ。口縁部外面は無文。58は複合口縁壺で、口縁拡張部が欠落したものである。59はゆるやかに外反する口縁部を持つ。60は外反する口縁部をもち、端部は「コ」の字状を呈する。61は外反気味に直口して立ち上がる口縁部をもつ。口縁端部は外方向に丸くおさめる。62は長頸壺の口縁部である。口縁部は外傾し、直線的に立ち上がる。63は頸部に断面三角形の突帯一条が巡る。64は球状の胴部から直立する頸部を持つ。66は張りを持つ肩部を持つ。67の底部は、やや丸みを帯びる平底。68は底部片で平底。69は底部片で小さい平底。70はやや丸みをもつ平底。71は突出する平底の底部片である。外面には工具状の痕跡が見られる。72は突出した平底をもつ。73は底部片で突出した平底をもつ。74は底部片で、上げ底になる。75は底部片で平底である。

鉢形土器 (76~85)

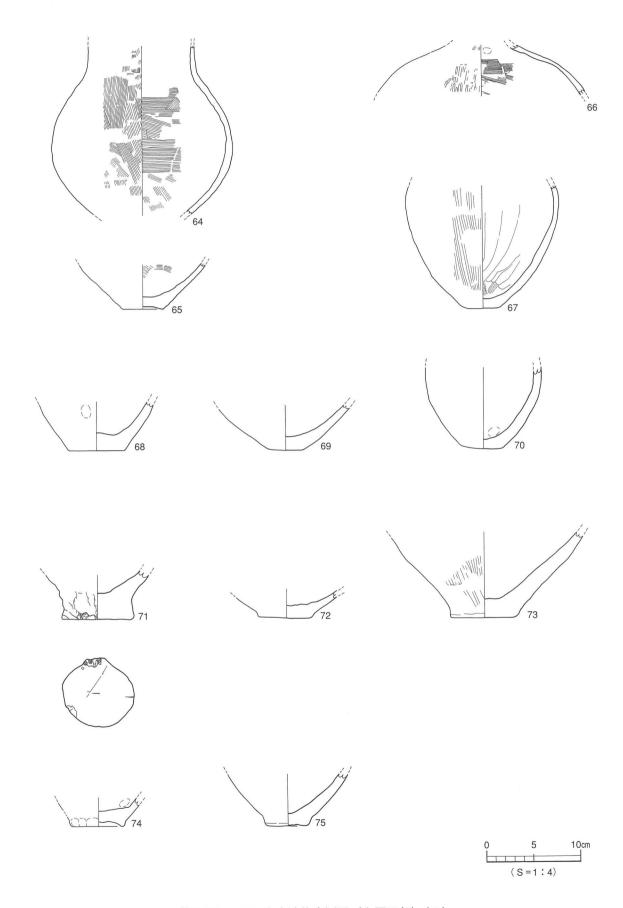
76の口縁部は外反し、端部は先細る。台付の鉢になる。77は口縁部付近で内湾し、端部は丸くおさめる。底部は僅かにくびれ突出する。78は底部より上外方向へ立ち上がる口縁部になり、端部は先細りする。底部は厚く突出する平底。79は台付の鉢。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部はやや外反する。裾部は屈曲気味に外反し、接地面は平坦である。80の口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。口縁端部は先細り、丸みをもつ。底部はわずかにくびれ、突出する平底になる。81はゆるやかに外反する口縁部をもち、端部は丸みを持った「コ」の字状を呈する。82の口縁部は外傾して立ち上がり、端部は丸く仕上げる。83は突出した底部で平底になる。84は小さく上げ底気味の底部をもつ。85は突出し、少しくびれた底部は上げ底になる。



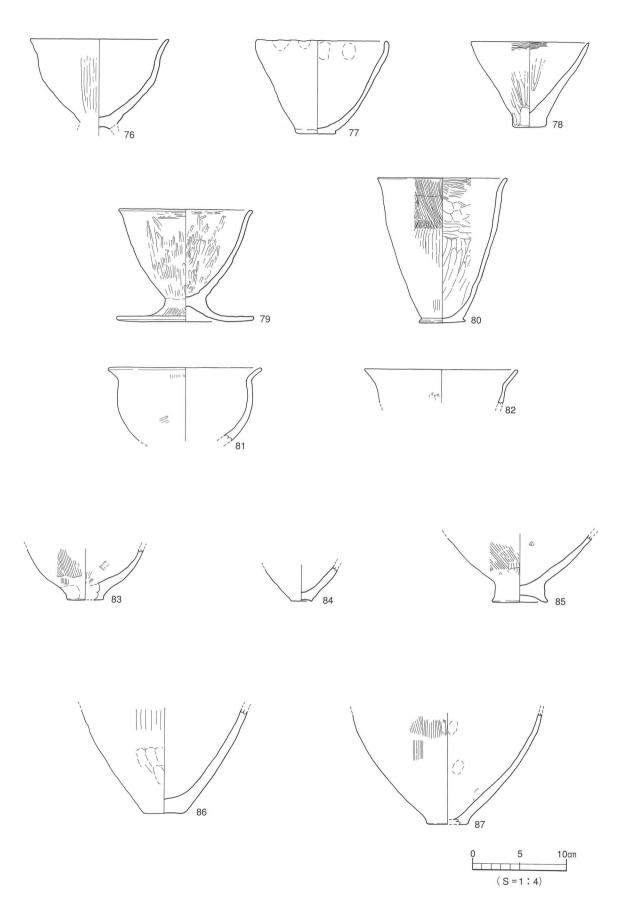
第56図 SK13出土遺物実測図(上層下部)(4)



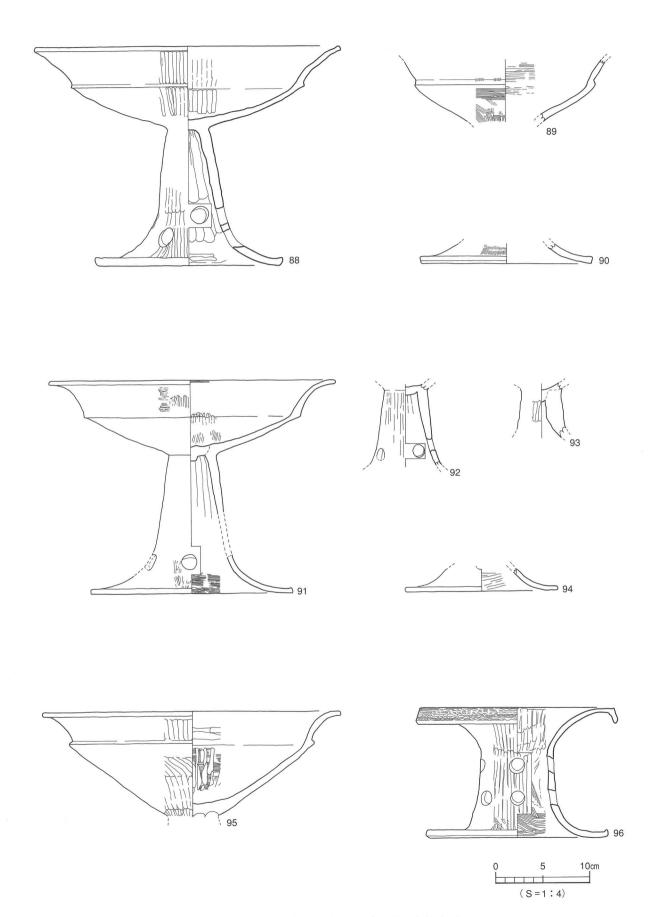
第57図 SK13出土遺物実測図(上層下部)(5)



第58図 SK13出土遺物実測図(上層下部)(6)



第59図 SK13出土遺物実測図(上層下部)(7)



第60図 SK13出土遺物実測図(上層下部)(8)

高坏形土器 (88~95)

88は外反して開く長い口縁部をもち、屈曲部は明瞭な段をもつ。脚部はラッパ状に広がり、脚柱部下方には3方に円孔が2段穿たれる。89・90は同一個体とみられる。89は口縁部が外反し、体部に段を有する。90は緩やかに広がる裾部で、端面に一条の沈線文をもつ。91は口縁部が大きく外反し、端部は丸くおさめる。体部は段を有し、脚柱部下方には円孔が一段4ヶ所穿たれる。92は脚柱部に円孔が一段4ヶ所穿たれる。93は短い脚柱部をもち、厚い器壁になる。94はゆるやかに広がる裾部で、端部は丸くおさめる。95は大きく外反する口縁部をもち、体部外面には明瞭な段を持つ。

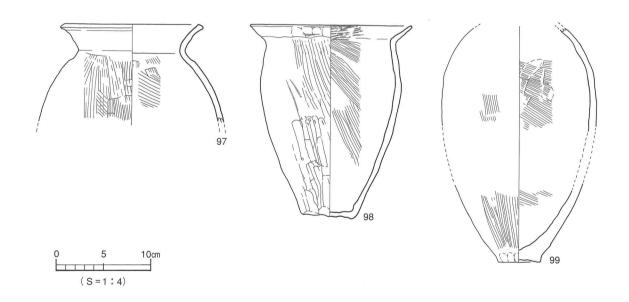
器台形土器 (96)

96は体部が緩やかに開き、口縁部は垂下する。口縁端面には8条の櫛描波状文を施す。脚柱部には 円孔を上下5ヶ所に2段の計10ヶ所穿たれる。裾部には半截竹管文を9個一列で施す。

②下層出土遺物 (97~99) (第61図)

97~99は甕形土器である。97の口縁部は外反し、わずかに肥厚する。頸部下には不明瞭な段を持つ。 98の口縁部は「く」の字状に伸び、わずかに内湾する。胴部はやや張りをもち、底部の成形は荒い。 99は長胴の体部に、底部は浅い上げ底で、わずかにくびれる。

時期:遺構の時期は、遺物から弥生時代後期後葉とする。



第61図 SK13出土遺物実測図(下層)

3) 性格不明遺構

S X 1 (第62図)

調査区南西部、B 3 ・ $4 \sim$ C 4 区に位置し、S D 3 に切られる。平面形態は、南北に長い不定形になる。規模は、長さ6.1m、幅0.35m~3.2m、深さ0.04m~0.12mを測り、断面形態は逆台形状~皿状を呈する。埋土は黒褐色砂質土である。弥生土器の口縁部小片が出土している。

時期:遺構の時期は、出土遺物と遺構の切り合い関係から弥生時代後期とする。

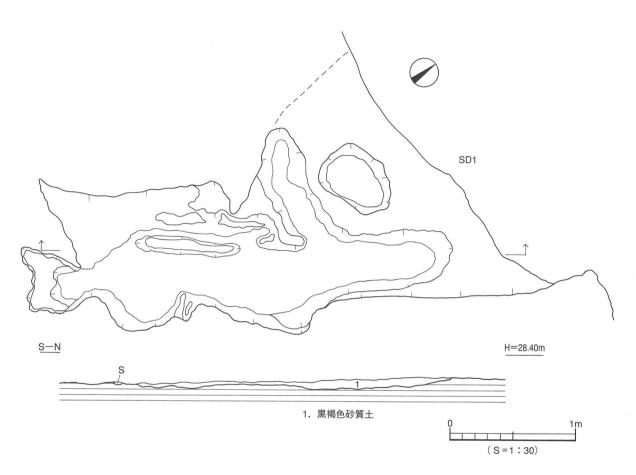


第62図 S X 1 測量図

S X 3 (第63図)

調査区中央、D $3\sim$ D4区に位置し、SD3を覆い、SD1に切られる。平面形態は、南北に長い不定形になる。規模は、長さ3.38m、幅1.6m、深さ0.08mを測る。断面形態は皿状で、埋土は黒褐色砂質土である。遺物は、弥生土器の底部小片が出土している。

時期:遺構埋土と出土遺物から、弥生時代後期とする。



第63図 S X 3 測量図

[2] 古墳時代~古代

古墳時代~古代の遺構には、溝3条と土坑2基があり、第区層上面で検出した。

1) 溝

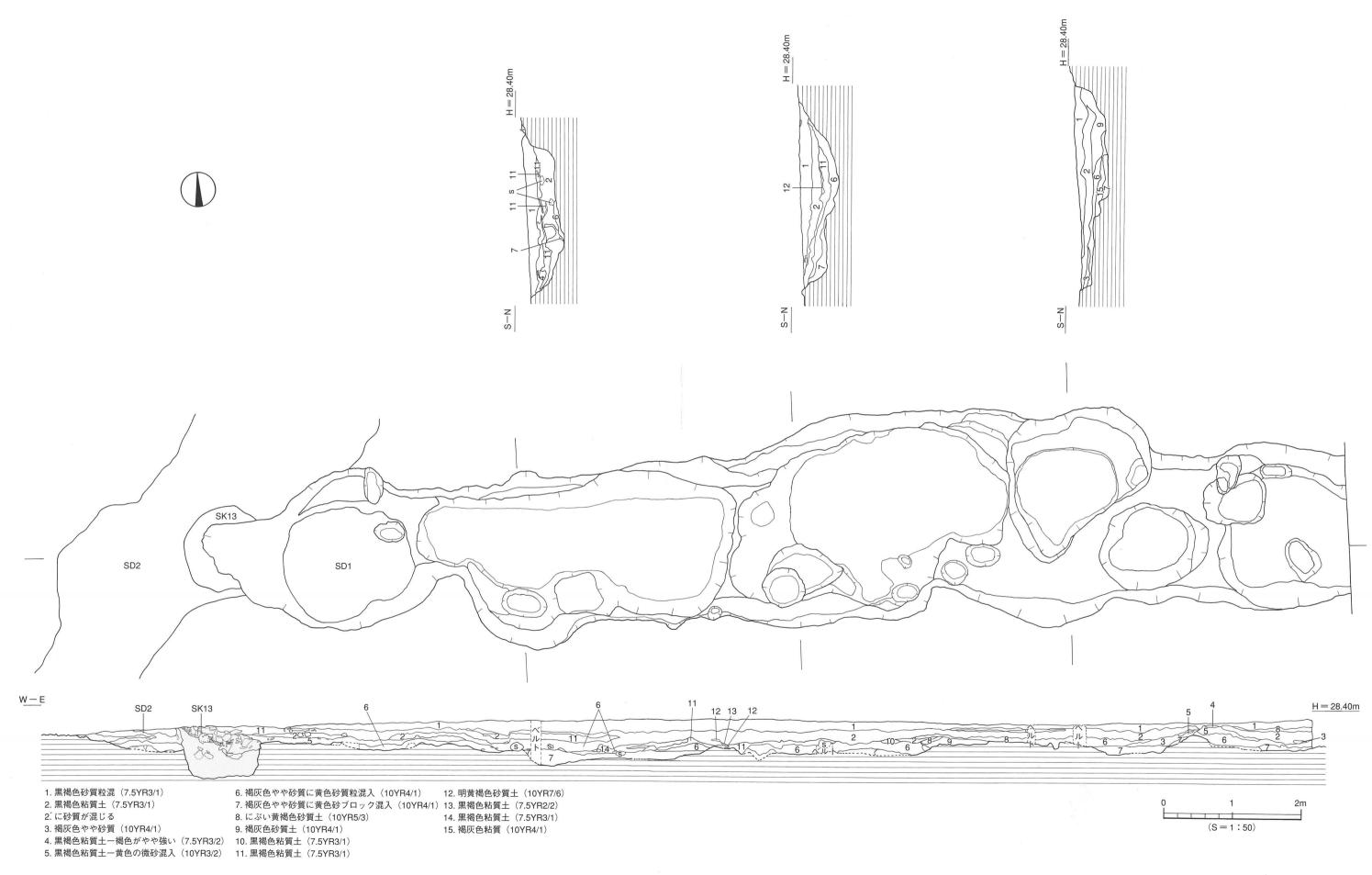
SD1 (第64図、図版23)

調査区中央、B2・3~F2・3区を東西に走る溝でSD2・SD3を切る。東は調査区外に延び、西は調査区内の西部でとぎれる。規模は幅1.25m~3m、深さ50cm~60cm、検出長16.5mを測る。断面形状は逆台形状を呈し、埋土は上層から黒褐色土、黒褐色粘質土、褐灰色砂質土、明黄褐色砂質土、褐灰色砂質土である。溝はほぼ東西方位をとり、SD5やSD6に一致する。溝の東西比高差(溝底部)はほとんどないが、やや西部が低くなる。溝の床面は平坦でなく、土坑状の堀込みが8ヶ所にみられ、その平面形態と規模は様々である。出土遺物は須恵器、土師器、弥生土器である。

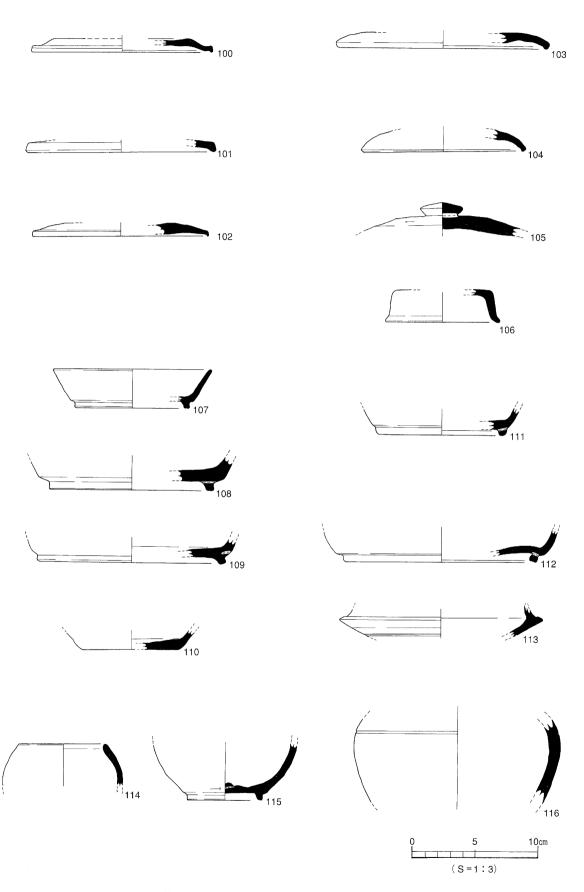
出土遺物 (100~166) (第65~69図·図版28)

①上部出土品(100~130)

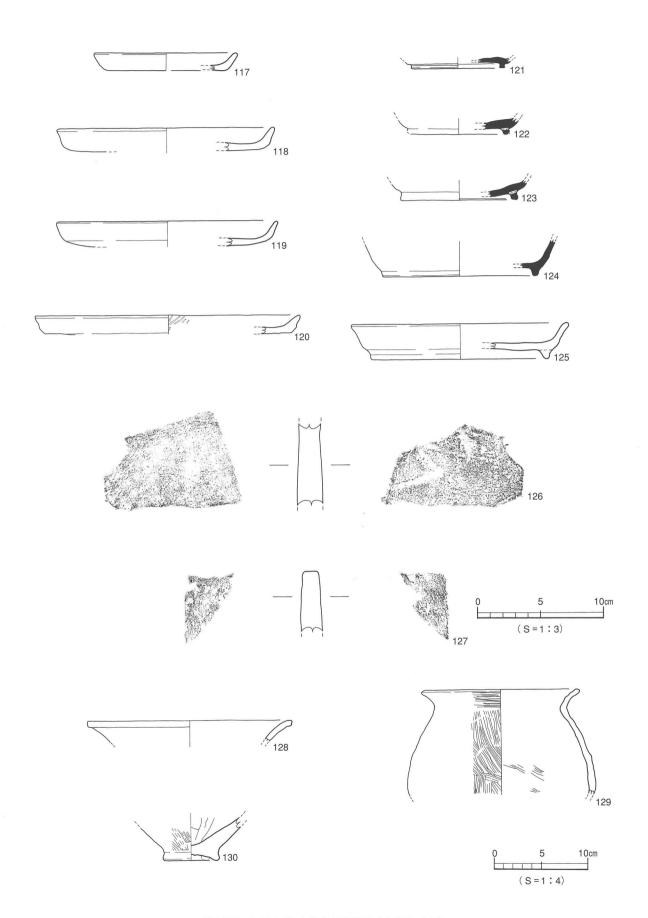
100~105は坏蓋で、100は天井部が扁平で、口縁部は下方へ屈曲する。口縁端部は尖り気味。101は 低い天井で、端部は丸く仕上げる。102の口縁部は下方へ屈曲し、口縁端部は尖り気味になる。103は 扁平な天井から、ゆるやかに下方へ屈曲する。端部は丸い。104は丸みのある天井部から、なだらか に下がる口縁部は内下方へ屈曲する。口縁端部は丸く仕上げる。105はやや低い宝珠状のつまみが付 く。106は短頸壺の蓋で、体部へ直線的に開く。口縁端部は外反し、端部は丸く仕上げる。107~113 は坏で、107は高台が底体部境界付近よりやや内側に付く。108の口縁部は欠損する。高台は「ハ」の 字状に開き、体底部境より内側に付く。109の高台はやや短く、「ハ」の字状に開き、体底部の境は丸 味を帯びる。110は坏の底部片。111は体底部の境には高台が付き、高台接地面は丸く仕上げる。112 の体底部の境は丸味を帯びる。体部は内湾気味に立ち上がる。底部は変形する。113の口縁部は緩や かに立ち上がり、内傾する。端部は欠損している。114~116は壺形土器で、114は体部から口縁部に かけて内湾する。口縁端部は丸く仕上げる。115は高台付きの壺。球形の胴部をもち、高台は体底部 の境よりやや内に付く。116は壺の胴部片で、体部上半には横沈線一条が施される。117~120は土師 器の皿で、117はゆるやかに外反して立ち上がる口縁部で、端部は丸く収める。118は平底の底部が外 傾して立ち上がる。端部は丸く仕上げる。119の体部は直線的に立ち上がり、底部は平底を呈する。 120の体部は短く直線的に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。121~124は須恵器である。121は高台の 付く坏。高台の端部はやや肥厚している。122は「ハ」の字状に開く高台をもつ。高台は体底部の境 付近に付く。123は「ハ」の字状に開く高台をもつ。高台は体底部の境よりやや内側に付く。124は底 部から体部にかけて僅かにふくらむ。端部は丸く仕上げる。125は土師器の坏である。直線的に立ち 上がる体部をもち、高台は体底部の境付近に付く。126・127は瓦で、126はかなり摩耗するが、斜格 子目文が僅かに認められる。127もかなり摩耗するが、縄目文が僅かに認められる。128~130は弥生 土器で、128は外反する口縁部をもち、端部はやや下方に肥厚する。129は屈曲して外反する口縁部を もち、胴部はやや下ぶくれを呈する。130の底部は、突出しくびれる。



第64図 SD1測量図



第65図 SD1出土遺物実測図(上部)(1)



第66図 SD1出土遺物実測図(上部)(2)

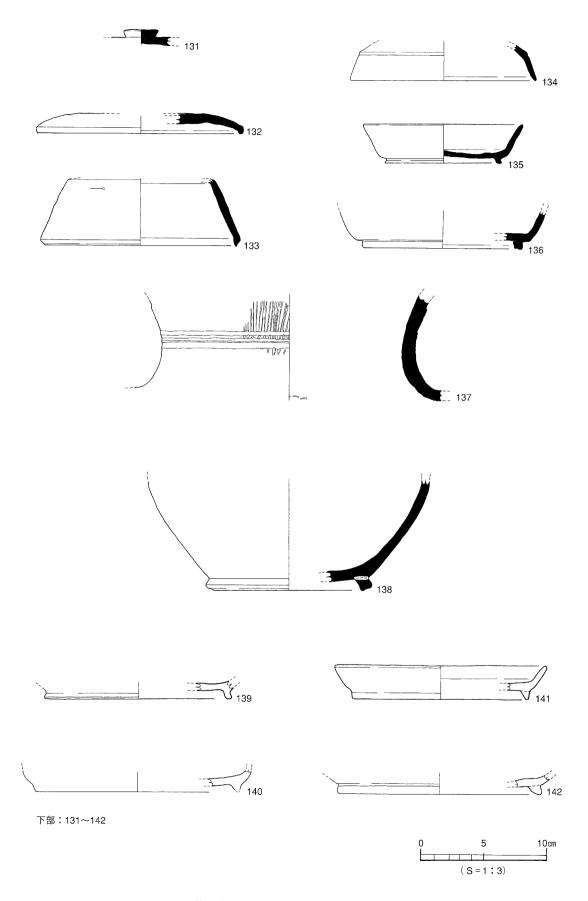
②下部の土坑状の掘込み中から出土した遺物(131~149)

131・132・134は須恵器の坏蓋で、131は坏蓋のつまみである。上部が扁平な逆台形状を呈する。132は丸味のある天井部から、なだらかに下がる口縁部は下方へ屈曲し、端部は丸く仕上げる。133は蓋で、体部は扁平で、天井部から屈曲して下がる。口縁部は内傾し、端部は段を持つ。134は坏蓋で、外傾して立ち上がる口縁部を持つ。135・136は須恵器の坏で、135は高台が低く、体部はやや外反気味に外上方に伸びる。端部は丸く仕上げる。136は高台の付く坏。高台は体部と底部との境界より内側に付く。体部はやや内湾して立ち上がる。137は大型甕の頸部片である。頸部には横沈線三条を施す。138は高台付壺である。「ハ」の字状に開く高台を貼り付ける。139~142は土師器の坏で、139の高台端部は丸く仕上げ、やや外反する。140は「ハ」の字状に開く高台をもつ。141の高台は断面逆三角形である。142は、「ハ」の字状に開く断面三角形の高台をもつ。端部は丸く仕上げ、高台は体底部の境よりやや内側に付く。143・144は土師器の高坏形土器で、143は高坏の脚柱部片である。外面には面取りが見られる。144は高坏脚柱部片で、外面には面取りがみられる。145~149は弥生土器で、145は複合口縁壺の口縁部である。146は器種不明品で、端部は丸い。147は高坏形土器である。やや細めの脚部をもつ。148は高坏の脚部である。149は沓形支脚である。上部は凹部を持ち、体部は台形状を呈する。

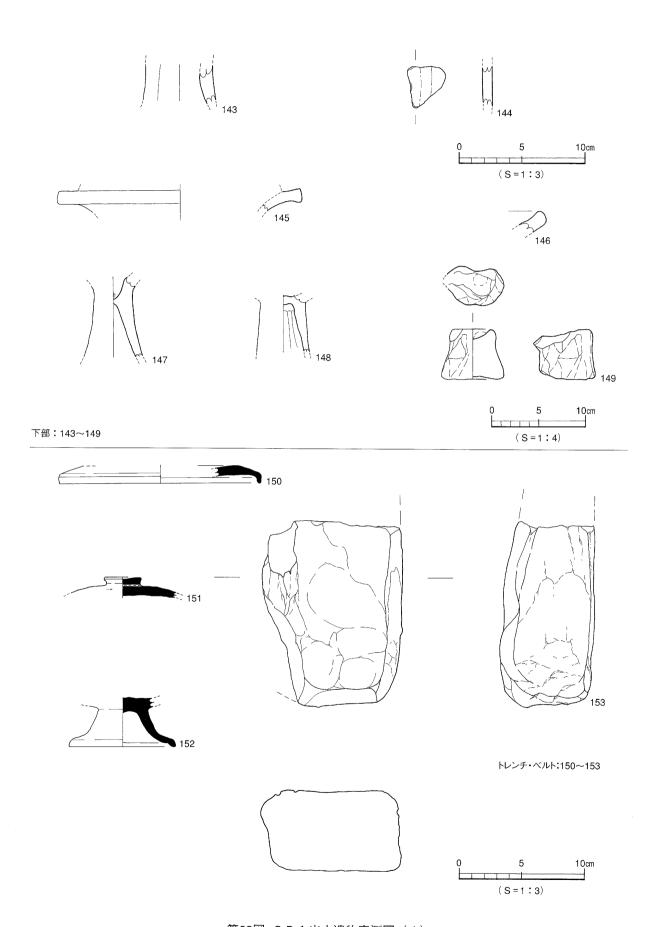
③土層ベルト・トレンチ出土遺物(150~166)

150~152は須恵器で、150は坏蓋で、やや扁平な天井から下方に屈曲する口縁部をもち、端部は丸く仕上げる。151は坏蓋である。扁平なつまみで、上部はややへこむ。152は高坏形土器である。脚部が太く、ラッパ状に外反して端部に至る。153は花崗岩を石材とした砥石である。凹面はやや滑沢になる。154~157は須恵器で154は坏底部である。155は高台付壺の底部である。体部はやや内湾する。「ハ」の字状に開く高台は体底部の境に付く。156は坏底部で口縁部は欠損する。高台は「ハ」の字状に開き、体底部の境より内側に付く。157は坏で高台はやや低く、体底部の境界付近に付く。体部は外上方に直線的に開き、端部は丸く仕上げる。158は土師器の皿で、底部から短く立ち上がる体部をもつ。口縁端部は丸く仕上げる。159は須恵器の甕で、外反する口縁部をもち、端部は緩い凹面を持つ。160~165は弥生土器で、160は甕形土器の口縁部である。外反する口縁部をもつ。161は複合口縁壺の口縁部片で、外面は無文である。162・163は平底の底部で、164は小さい平底になる。165はやや突出する底部をもつ。166は古代の高坏形土器脚柱部片で、外面には面取りが5面みられる。

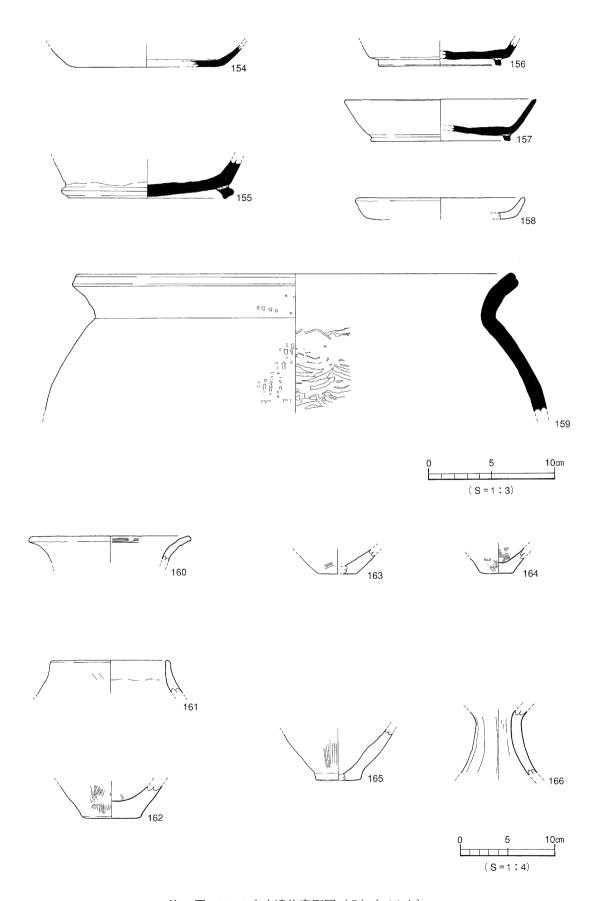
時期:遺構の時期は、出土遺物から7世紀~8世紀とする。



第67図 SD1出土遺物実測図(3)



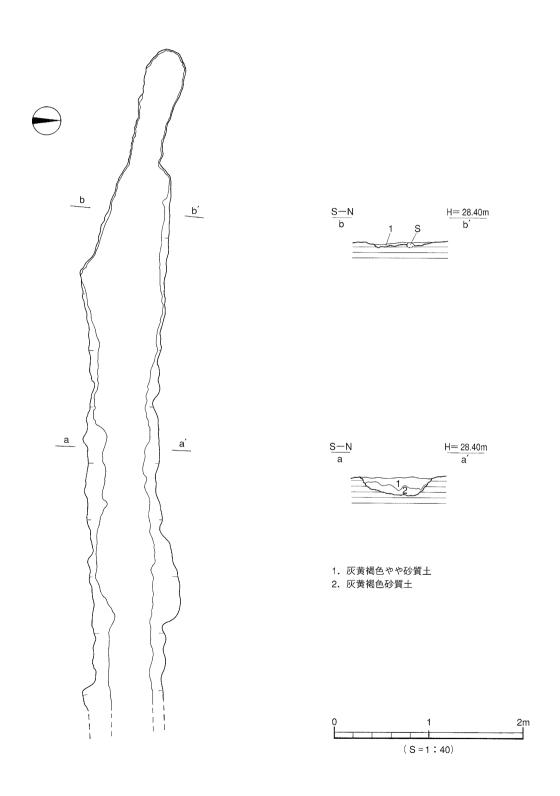
第68図 SD1出土遺物実測図(4)



第69図 SD1出土遺物実測図(5)(ベルト)

SD5 (第70図)

調査区南西部、D 4 ~F 4 区に位置し、東西に走り、調査区中央でとぎれる。規模は幅 $16\text{cm} \sim 46\text{cm}$ 、深さ $2\text{cm} \sim 10\text{cm}$ 、検出長3.5mを測る。断面形態は逆台形状で、埋土は灰黄褐色砂質土である。溝の方位は S D 1 とほぼ一致する。

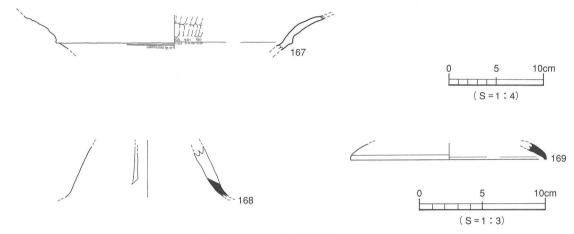


第70図 SD5測量図

出土遺物 (167~169) (第71図)

167は高坏形土器の坏部である。口縁部は大きく外傾し、外面には段を持つ。168は須恵器高坏形土器の脚部片である。脚柱部には方形の透かしをもつ。169は須恵器坏蓋の口縁部である。口縁端部は 尖り気味に仕上げる。

時期:遺構の方位がSD1、SD6に一致することや出土遺物から遺構の埋没時期を8世紀代とする。

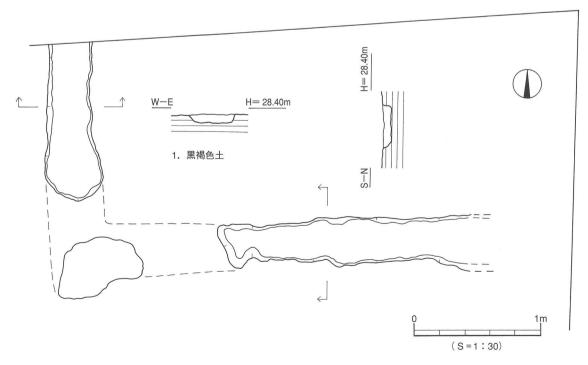


第71図 SD5出土遺物実測図

SD6 (第72図)

調査区北東部、E $1 \cdot 2 \sim$ F 2 区に位置し、L字状に走る溝である。西辺と南辺は南西隅付近でとぎれ、両端ともに調査区外に延びる。南西隅部は不明瞭で、ごく浅い窪みとなる。規模は幅 $35 \, \mathrm{cm} \sim 6 \, \mathrm{cm}$ 、検出長 $5.2 \, \mathrm{m}$ (西辺 $2 \, \mathrm{m}$ 、南辺 $3.2 \, \mathrm{m}$)を測る。断面形状は皿状を呈し、埋土は黒褐色土である。出土遺物は、土師器の細片が僅かに出土した。

時期:時期比定が可能な出土遺物はなく、遺構の時期特定は難しく時期は不明である。



第72図 SD6測量図

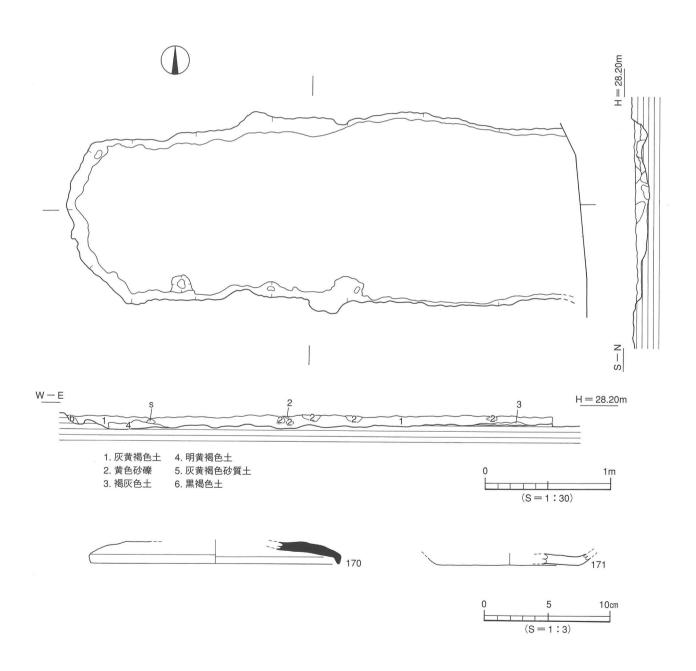
2) 土 坑

SK1 (第73図)

調査区南東部、E 4・5~F 4・5区に位置し、東辺はS X 4を切り、調査区外に延びる。規模は幅1.3m~1.4m、深さ10cm、検出長 4 mを測り、長軸は東西方位をとる。断面形状は逆台形状を呈し、埋土は灰黄褐色土である。埋土上面には、径 5cm~14cmの円球状の砂(黄褐色~白色)が散在していた。遺物は、須恵器と土師器の小片が少量ある。

出土遺物(170・171)(第73図)

170は須恵器坏蓋である。低く平坦な天井部で、口縁端部は尖る。171は土師器坏底部片である。時期:遺物および埋土から7世紀~8世紀とする。



第73図 SK1測量図・出土遺物実測図

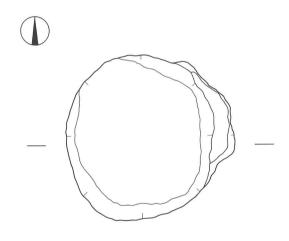
S K11 (第74図)

調査区中央やや東部、E3~E4区に位置し、SD3を切り、SX2の埋土に覆われる。平面形態は円形で、規模は直径85cm、深さ65cmを測る。断面形態は筒状を呈し、堀り方はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦になる。埋土は上層から黒褐色砂質土(砂質含)、黒褐色粘質土、褐灰色砂質土、暗褐色粘質土である。出土遺物は、土師器の小型丸底壺が黒褐色粘質土中から出土している。なお、礫や木質は未検出で、調査期間中には湧水もみられなかった。

出土遺物(172~176)(第75図、図版28)

172は複合口縁壺の口縁部である。外面には斜め直線文3条と櫛描波状文4条とを施す。173は弥生 土器で、器種不明品。口縁端部は折れ曲がり、先尖る。この遺物は上層からの流れ込みと考えられる。 174は弥生土器で、高坏形土器の口縁部片である。口縁部は直線的に立ち上がり、外面には段を持つ。 175は丸底で、球形の体部をもつ。口縁部は尖り気味に丸く仕上げる。176は須恵器の坏で、低い高台 をもつ。

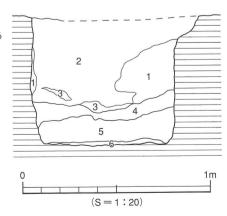
時期:遺構の埋没時期は、出土遺物から5世紀代とする。



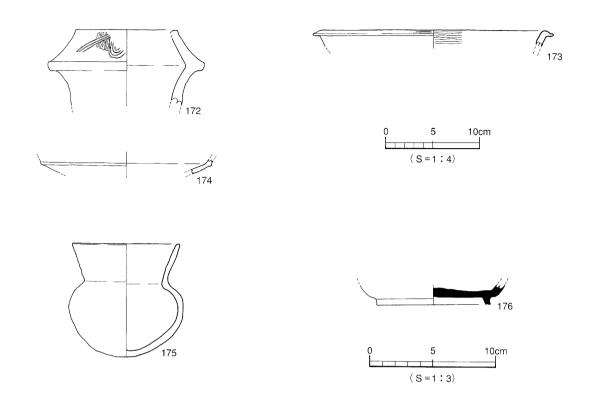
 $\mathsf{W}-\mathsf{E}$

H = 28.40 m

- 1. 黒褐色砂質土(10YR4/1)に 明黄褐色砂質土(10YR6/6)が混じる
- 2. 黒褐色粘質土 (7.5YR3/2)
- 3. 黒褐色砂質土(10YR3/1)
- 4. 黒褐色粘質土(7.5YR2/2)
- 5. 褐灰色砂質土(10YR4/1)
- 6. 暗褐色粘質土(10YR3/3)



第74図 S K 11測量図



第75図 SK11出土遺物実測図

3) 性格不明遺構

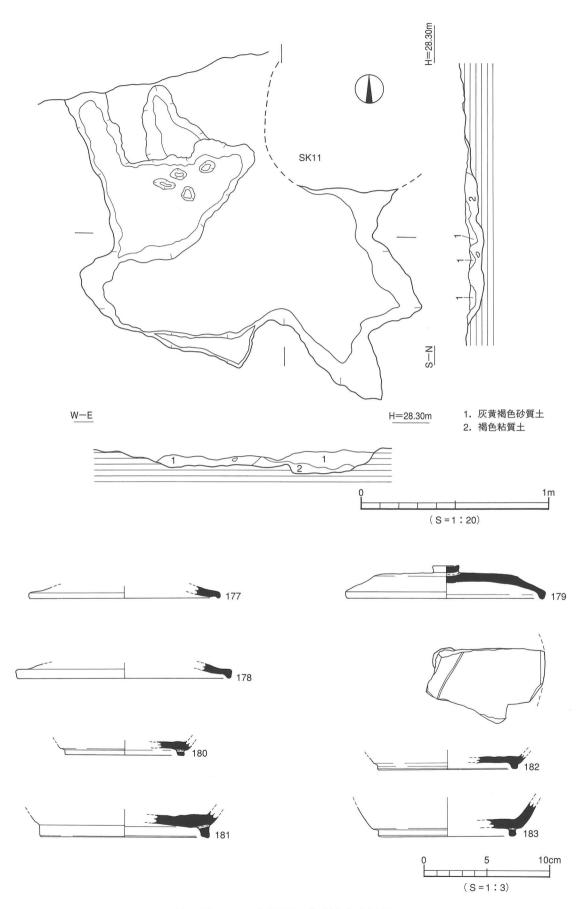
S X 2 (第76図)

調査区中央やや東、D3・4~E3・4区に位置し、SK11を覆い、SD3を切る。平面形態は不定形で、規模は長径3.38m、短径1.60m、深さ0.08mを測る。断面形態は、皿状を呈する。埋土は灰黄褐色砂質土、褐色粘質土である。遺物は、須恵器の坏身と坏蓋片とが出土している。

出土遺物(177~183)(第76図)

177は須恵器の坏蓋である。端部は僅かに折れ曲がり、丸く仕上げる。178の端部は丸く仕上げる。179はやや低い平らな天井部をもち、端部は丸く仕上げる。つまみは断面逆台形状。内面には1条のへう記号がみられる。180~183は須恵器の坏底部である。180は底部片で、高台は底体部境界付近に付く。181の高台は、底体部境界付近に付く。182の高台は、底体部境界より内側に付く。183は高台が底体部境界付近に付く。

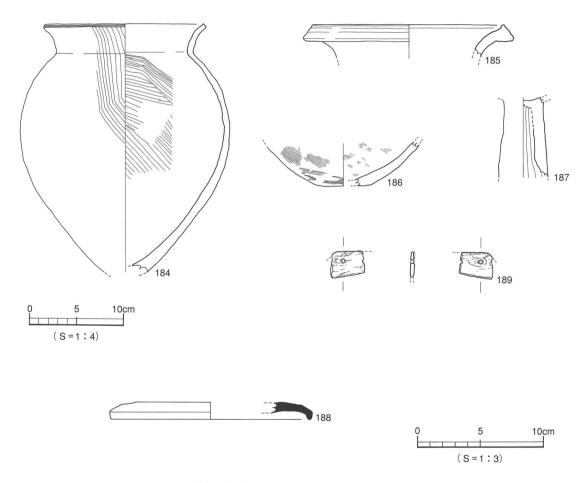
時期:遺構の時期は、出土遺物から7世紀~8世紀とする。



第76図 S X 2 測量図・出土遺物実測図

4) 地点不明遺物(184~189)(第77図)

184~187は弥生土器である。184は甕形土器である。口縁部は稜を持って外反、口縁端部には沈線が巡る。185は壺形土器の口縁部である。外反する口縁の端部を上方につまみ上げる。口縁端部外面には凹線文が巡る。186は壺形土器の底部片である。187は高坏形土器でやや細い脚柱部をもつ。188は須恵器の坏蓋である。体部はやや丸味のある低い天井部から、なだらかに下がる。口縁部は下方へ屈曲し、端部は丸く仕上げる。189は方形の石庖丁である。緑泥片岩を石材とする。



第77図 地点不明遺物実測図

4. 小 結

今回の調査では、弥生時代から古代までの遺構と遺物を検出した。そして、各時代に注目される遺構が認められた。

(1) 弥生時代

弥生時代後期の円形土坑 S K 13は、遺物の出土状況から廃棄土坑と考えられる。出土遺物は完形の 土器が多く、器種が豊富であり、弥生土器の編年的研究の基礎資料になるものである。

器種と出土量(器種構成比率)は、甕形土器31点(37.4%)、壺形土器34点(41%)、鉢形土器10点(12.1%)、高坏形土器 7 点(8.4%)、器台形土器 1 点(1.2%)となる。

(2) 古 代

SD1は、1次調査地の溝SD1と規模・方向・出土遺物が類似するため、同一遺構の可能性が高 い。この場合、溝を復元すると東西31m以上、南北25.7mとなる。ただし、1次調査地SD1の落ち 込みは浅いテラス状であるのに対し、本調査検出の溝SD1には土坑状の落ち込みが8ヶ所検出され、 1次調査地の床面とは全く異なる様相であった。この様相の差は、今後の調査課題になった。

以上の調査結果は、小坂町と中村町に存在する弥生時代後期と古代の集落構造を解明していく資料 としては、重要なものになった。今後の課題は、周辺地の調査資料を加味し、各時代の詳細な集落構 造を検討することにある。

表24 土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模(m) 長さ(長径)× 幅(短径)×深さ	床面積 (㎡)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	E4·5~ F4·5	方形	逆台形状	4.0 ×1.4 ×0.1	5.4	灰黄褐色土	須恵器 土師器	7世紀~ 8世紀	S X 4 を切る。
2	A3~A4	円形	逆台形状 筒状	$1.4 \times 0.5 \times 1.0$	0.51	黒褐色砂質土 灰褐色砂質土 暗褐色粘質土	弥生土器	弥生後期	
11	E3~E4	円形	筒状	$0.8 \times 0.8 \times 0.6$	0.55	黑褐色粘質土(砂質含) 黑褐色粘質土 褐灰色砂質土 暗褐色粘質上	土師器	5世紀代	SD3を切り、S X2に覆われる。
13	В3	円形	逆台形状	$1.3 \times 1.2 \times 0.7$	1.3	黒褐色土 黒褐色砂質土	弥生土器	弥生後期後 半	SD2を切りSD 1に切られる。

表25 溝一覧

溝 (SD)	地区	断面形	規模(m) 長さ×幅×深さ	方向	埋土	出土遺物	時期	備考
1	B2·3~ F2·3	逆台形	$16.5 \times 1.2 \sim 3.0 \times 0.6$	東西	黑褐色土 黑褐色粘質土 褐灰色砂質土 明黄褐色砂質土 褐灰色砂質土	弥生土器 土師器 須恵器	7~ 8世紀代	SD2・3を切る。
2	C1~A3	逆台形~ レンズ状	13.2×1.3 ~2.6 ×1.2	北東~ 南西	黒褐色砂質土 灰褐色砂質土 にぶい黄褐色砂質土	弥生土器	弥生中期末 ~後期初頭	S K 13、S D 1 · 3 に切られる。
3	A · D4 ~ C · F 3	船底形状~ レンズ状	19.0×1.1 ~1.6 ×0.6	東西	黒褐色砂質土 灰褐色粘質土 他	弥生土器	弥生後期後 半	S K 11、S X 2 、S D 1 に切られ、S D 2 を切る。
4	A3~A4	レンズ状	$2.2 \times 1.0 \times 0.4$	東西	褐灰色砂質土	弥生土器	弥生後期	SD2を切る。
5	D4~F4	逆台形	$3.5 \times 0.1 \sim 0.4 \times 0.1$	東西	灰黄褐色砂質土	須恵器	8世紀代	
6	E1 · 2~ F2	皿状	5.2 × 0.3 × 0.06	北~南、 西~東	黒褐色土	土師器	不明	L字状。

表26	SE	2・3出	土遺物観察表 土製品						(1)
₩ D	80 1 1	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
番号	器種		// // // // // // // // // // // // //	外面	内面	一四(内面)	796790	(H) (D)	MIN
1	甕	口径(25.2) 残高 2.1	外反する口縁。口縁端部はや や肥厚する。	□ナデ□ ヨコハケ→ナデ	ナデ	橙色 明赤褐色	石·長 (1~2) 金 ◎	SD2	
2	甕	底径(5.8) 残高 1.6	底部片。平底。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ナデ	黒褐色 橙色	長(1) 金 〇	SD2	
3	壺	残高 2.5	口縁部は欠失。斜沈線に凹線 が4条以上施される。	ロシナデ ロシタテハケ	回ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石·長(1~5) 金 〇	SD2	
4	壺	底径 (6.6) 残高 0.8	底部片。平底。	マメツ	マメツ	赤褐色 にぶい橙色	石·長(1~4) 金 ○	SD2	
5	甕	口径(15.8) 残高 2.0	外反する口縁。内面に緩やか な凹みが巡る。端部に工具痕。	□動ナデ□Dナデ(指頭痕)	ナデ	明赤褐色 褐灰色	石・長(1~3)	SD3	

SD2・3出土遺物観察表 土製品

	SD2	2・3 出土	遺物観察表 土製品						(2)
番号	器種	 法量(cm)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
	HH II	/A = (011)	707LL 71EX	外面	内面	一四(内面)	焼成	川で	I AINX
6	甕	口径(17.8) 残高 1.9	緩やかに外反する口縁。端部 は丸く仕上げる。	マメツ	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~6)	SD3	
7	甕	残高 3.5	胴部片。外面にタタキ痕。	タタキ→ハケ	ハケ	明赤褐色 黒褐色	石・長 (1~3) 金	SD3	
8	甕	底径(4.8) 残高 4.1	平底。	ハケ	マメツ (指頭痕)	橙色 灰黄褐色	石・長(1~5)	SD3	
9	鉢	口径(11.2) 残高 3.2	内湾気味に立ち上がり、外反する口縁。端部は先細り。	マメツ	マメツ	橙色 暗灰黄色	石·長(1~2) 金 △	SD3	
10	壺	底径(4.5) 残高 5.8	突出する底部。平底。	卵 ⑥マメツ 慮ナデ	ナデ上げ (指頭痕)	橙色 橙色	石·長(1~3) 金 ○	SD3	
11	壺	底径(1.9) 残高 2.9	突出し、くびれ気味の底部。 やや上げ底。	ハケ	マメツ	にぶい黄橙色 橙色	石・長(1~4)	SD3	
12	壺	底径(5.5) 残高 3.5	わずかに突出する底部。平底。	・原膨ハケナデ上げ・慮ナデ(指頭痕)	ナデ (指頭痕)	橙色 暗灰色	石・長(1~3) 金	SD3	

表27 SK2出土遺物観察表 土製品

番号器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	会員(外面)	胎土	備考	log lt⊏	
田力	有計作主	A里(III)	/// // // // // // // // // // // // //	外面	内面	色調(内面)	焼成	加考	図版
13	壺	口径(14.2) 残高 4.4	長頸壺の口縁部。	板状工具によ るナデ→ヨコ ナデ	ナデ (指頭痕)	黒褐色 にぶい橙色	石 (1~2)		
14	壺	残高 3.5	頸部片。左斜下方に向って施 される刺突。	タテハケ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~2)		

表28 SK13出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調 (外面)	胎土	備考	図版
	HHIE	万里(011)	7778 7162	外面	内面	一口啊(内面)	焼成	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
15	甕	口径 12.2 器高 19.0 底径 3.3	口縁部外反し、端部は先細り。 器壁はやや厚い。平底の底部。	□ハケ(一部ナデ)⑩ハケ(指頭押え)慮マメツ	ハケ	にぶい橙色 にぶい橙色	石·長 (1~4) 砂 金 ◎		25
16	甕	口径(12.8) 器高 21.8 底径 (2.5)	胴部はやや下ぶくれ。口縁は 外反する。底部は突出し、や や上げ底。	□ヨコナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ヨコナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	にぶい橙色 橙色	石・長(1~4)	黒斑	25
17	甕	口径(14.6) 器高 20.7 底径(4.7)	やや肩の張る胴部より外反す る口縁部。底部は平底。	□ヨコナデ マメツ	□ヨコナデマメツ	明赤褐色 赤褐色	石 (1~5) 多 砂 (1~3) ◎		25
18	獲	口径 16.2 器高 27.4 底径 4.5	ゆるやかに外反する口縁。口 縁端部は「コ」の字状。底部 はわずかに上げ底。	②DMDタテ ハケ MDマメツ	回ヨコナデ 卵Dタテハケ 卵Dマメツ	橙褐色 明赤褐色	石・長(1~6)		25
19	甕	口径(16.0) 残高 10.8	口縁部はゆるやかに外反する。端部は「コ」の字状。胴部は丸く張りを持つ。	ハケ (5~6 本/cm)	ハケ (5~6 本/cm)	橙色・にぶい 褐色 にぶい黄橙色	石·長(1~4) 金 ◎		
20	蹇	口径(16.2) 残高 11.0	張りの弱い胴部からゆるやか に外反する口縁。端部は丸み を持つ。	□タテハケ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ヨコハケ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	にぶい橙色 橙色	石・長(1~2) ◎		
21	蹇	口径(16.8) 残高 11.9	短く外反する口縁。端部は荒 く面を持つ。	回タテハケ © カテハケ→ナデ 胴タテハケ	□ヨコハケ ⑩ハケ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) ◎		

-125 -

	00 121	江 目/ \	T/45. 16-4-	調	整	色調(外面)	胎土	/++ +·/	- II-
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	色調 (内面)	焼成	備考	図版
22	甕	口径 17.4 器高 26.2 底径 3.9	「く」の字状の口縁。端部は 丸みのある「コ」の字状。底 部は平底。	□マメツ ⊪タテハケ ⑥マメツ	□マメツ 哪⋑ケズリ	にぶい橙色 にぶい橙色	石·長(1~4) 砂 ◎		25
23	甕	口径(14.1) 器高 21.9 底径(4.3)	「く」の字状口縁。口縁端部 は「コ」の字状。底部は平底。	マメツ	□マメツ ●の ●の の	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石·長(1~2) ◎		25
24	蹇	口径(25.1) 残高 18.2	口縁部は外反し、端部は面を なす。頸部に刻み目突帯。	マメツ	マメツ	橙色 にぶい橙褐色	石・長(1~2)		25
25	甕	口径(14.0) 残高 9.6	球状の胴部に外傾して立ち上 がる口縁部。	□タテハケ→ナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ヨコハケ→ナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	褐色 黒褐色	石·長(1~5) ◎		
26	雞	口径(16.2) 残高 7.9	外反する口縁。端部は「コ」 の字状。	①濁ナデ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	回ヨコハケ宇宙痕	橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~5)◎		
27	甕	口径(17.2) 残高 3.7	「く」の字状口縁。端部は丸 く収める。	ハケ→ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石·長(1~2) 金 ◎		
28	蓬	口径(13.6) 残高 4.1	「く」の字状口縁。端部は内 湾して面をなす。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~2)		
29	甕	口径(12.8) 残高 4.3	「く」の字状口縁。端部は 「コ」の字状。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~4)		
30	甕	口径(17.7) 残高 3.5	外反する口縁。端部は丸味を おびた「コ」の字状。	タテハケ→ ヨコナデ	ヨコハケ	灰黄褐色 淡黄色	石・長(1~4)		
31	獲	口径(16.0) 残高 2.6	外反する口縁。端部は面をな す。	ナデ (指頭痕)	□ヨコハケ □Dミガキ	黒褐色 明赤褐色	石·長(1~2) 金 ◎		
32	甕	口径(13.8) 残高 6.7	短く外反する口縁。	タテハケ	□ハケ動ナデ	暗灰色 黄灰色	石 (1~3)		
33	蹇	口径(15.8) 残高 10.5	ゆるやかに折れ曲がる口縁 部。端部は丸く収める。	⑪ョコナデ ⑩ナデ→タテ ハケ	回ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石·長(1) 金 ◎		
34	甕	口径(16.2) 残高 4.7	強く屈曲する口縁。端部はや や下方に肥厚し、面をなす。	マメツ	タテハケ	橙色 明褐色	石・長(1~3)		
35	甕	口径(16.0) 残高 4.0	外反する口縁。端部はやや肥厚し、端面は凹面を持つ。	回ヨコナデ 動タテハケ→ ナデ	□ヨコナデ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	橙色 明黄褐色	石·長(1~3) ◎		
36	甕	底径(5.2) 残高 8.7	突出した平底の底部片。	原プタテハケ⑥ケズリ(指 頭痕)	タテハケ	黒褐色・ 黒色 にぶい黄橙色	石·長(1~2) 金 ◎		
37	甕	底径(5.4) 残高 9.6	底部は厚く突出する。	ハケ(4本/cm)	指頭痕	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
38	甕	底径(4.0) 残高 4.3	平底。	・ の	ナデ上げ	にぶい褐色 黒色	石・長(1~2) ◎		
39	甕	底径 4.8 残高 5.1	平底。	マメツ	マメツ	赤褐色灰褐色	石・長(2~5) ◎		
40	甕	底径(5.1) 残高 27.2	肩の張る胴部。底部は突出し たやや上げ底。	・	タテハケ	にぶい褐色 にぶい黄橙色	石・長(1~4) ◎		25
41	蹇	底径(4.0) 残高 6.1	やや上底の底部片。	IPDタテハケ ⑥ナデ	ナデ上げ	褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~5)		

(2)

				調	 整	(从面)	胎土		(3)
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	色調 (外面)	焼成	備考	図版
42	甕	底径 3.8 残高 10.2	底部は突出した上げ底。	マメツ	マメツ	橙色 暗灰色	石・長(1~4)		
43	甕	底径 3.6 残高 2.7	ミニチュア?上げ底。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石·長(1~3) 金 ◎		
44	壺	口径(11.5) 器高 27.4 底径 5.6	長球形の胴部からなだらかに、直 立気味に立ち上がり、外反する口 縁。端部は「コ」の字状。平底。	ハケ	ハケ	褐色 橙色	石・長(1~4)		26
45	壺	口径 11.0 器高 23.0 底径 2.8	口縁部は外反して立ち上が る。胴部はやや厚く、底部は 平底。		回ヨコハケ原身テハケ(指頭痕)	にぶい橙色 橙色	石·長(1~4) 金 ◎		26
46	壺	口径 12.0 器高 17.8 底径 4.3	口縁部は大きく外反し、端部 は丸く収める。底部は厚く突 出する平底。	タテハケ	回ヨコナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	橙色 橙色	石·長(1~3) 金 ◎		26
47	壺	口径 16.6 器高 34.6 底径 7.0	ゆるやかに外反する口縁。口 縁端部は丸みをもつ。底部は 平底。	(I~胴)ハケ (選マメツ	タテハケ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石·長(1~5) 金		26
48	壺	底径 5.4 残高 32.4	頸部に列点文。平底。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石·長(1~5) 金 ○		26
49	壺	口径(16.4) 残高 13.5	内傾した頸部からゆるやかに外 反する口縁。端部外面に円形浮 文。頸部には突帯に斜格子文。	マメツ	動(指頭痕)動ナデ	灰黄色 明赤褐色	長(1~2)	黒斑	26
50	壺	口径(10.0) 器高 10.6 底径(3.6)	やや張りのある胴部から外反 して立ち上がる。端部に沈線 状の凹み。	回マメツ 卿ヨコハケ 慮タテハケ	□マメツ動ハケ	橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎	黒斑	26
51	壺	底径 (2.4) 残高 6.1	やや扁平する球状の胴部。底 部は突出した平底。	ミガキ	マメツ	にぶい橙色 灰黄褐色	石・長(1~5)		
52	壺	口径 17.2 器高 44.7 底径 6.7	無文。口縁拡張部は外反気味 に内傾して立ち上がる。底部 は平底。	[□] ヨコナデ [®] ハケ→ミガキ ⑥マメツ	□ヨコナデ ⑨ヨコハケ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	橙色 橙色	石・長(1~3)		26
53	壺	口径(12.6) 残高 11.5	袋状口縁。拡張部は短く内湾し、 端部は丸味を持つ「コ」の字状。 頸部は直立気味に外反する。	□ヨコナデ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	回ヨコナデ (指頭痕)	橙色 にぶい黄橙色	石·長(1~5) 金 ◎		26
54	壺	口径 16.7 残高 12.1	複合口縁口頸部。口縁部は外反した頸部より、大きく外反する。器 壁は厚い。頸部に刻み目突帯文。	□ハケ (7本/cm)ヨコナデ→ハケ⑨ハケ (9本/cm)	□ハケ (7本/cm)ヨコナデ (指頭痕)⑩ハケ (7~8本/cm)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~5)◎		26
55	壺	残高 4.7	無文。複合口縁頸部片。	働タテハケ	99 ヨコハケ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ◎		
56	壺	口径(16.0) 残高 4.8	無文。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~3)		
57	壺	口径(14.0) 残高 3.7	複合口縁。無文。口縁と拡張 部の接合部外面に突出した稜 を持つ。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	石·長(1~2) 金 ○		
58	壺	残高 6.9	複合口縁壺。口縁部欠落。	ヨコナデ タテハケ	ヨコナデ ヨコハケ	橙色 にぶい黄橙色	石·長(1) ◎		
59	壺	口径(19.0) 残高 2.2	ゆるやかに外反する口縁部。	タテハケ	ヨコハケ	褐色 にぶい褐色	石(1) 金 ©		
60	壺	口径(15.0) 残高 4.2	外反する口縁。端部は「コ」 の字状。	タテハケ	□ヨコナデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	橙色 橙色	石・長(1~5) ◎		
61		口径(8.9) 残高 7.0	外反気味に直口して立ち上が る口縁部。端部は外面に丸味 を持つ。	□マメツ ⑤タテハケ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~5)		

(3)

	JKI	3四工退彻	既祭衣	≒ ⊞	击⁄7	/ El \	-/ ·		(4)
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 外面	整	色調 (外面)	胎土 焼成	備考	図版
62	壺	口径(14.4) 残高 6.5		タテハケ (指頭痕)	内面 タテハケ→ ナデ	にぶい橙色にぶい橙色	石 (1~2)		
63	壺	残高 4.6	頸部に断面三角形の突帯一条 が巡る。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マメツ	赤褐色 明赤褐色	石·長(1~3) ◎		
64	壺	残高 18.0	直立する頸部。球状の胴部。	ヨコハケ	・ 図マメツ・ 回ヨコハケ	にぶい黄褐色 黒褐色	石·長(1~5) ◎	,	
65	壺	底径(4.4) 残高 4.7	やや上げ底。	マメツ	原のハケ ⑥マメツ	赤褐色 黒褐色	石·長(1~4)多 ◎		
66	壺	残高 5.4	やや張りを持つ肩部。	ミガキ	ヨコハケ	にぶい橙色 黒色	石・長(1~2)	黒斑	
67	壺	底径 3.8 残高 13.1	やや丸味をおびる平底の底 部。	タテハケ	®ナデ ⑥ハケ	にぶい黄橙色 橙色	石・長(1~3)		
68	壺	底径 (5.8) 残高 5.2	底部片。平底。	ナデ (指頭痕)	ナデ	浅黄橙色 灰色	石・長(1~2)		
69	壺	底径 3.6 残高 4.8	底部片。小さい平底。	マメツ	マメツ	橙色 黄灰色	石・長(1~5)		
70	壺	底径 3.9 残高 9.0	やや丸味を持つ平底。	ナデ	ナデ (指頭痕)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎		
71	壺	底径 7.4 残高 5.2	突出する平底の底部片。外面 に工具痕。	ナデ	マメツ	にぶい黄橙色 褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
72	壺	底径 5.3 残高 3.0	底部片。突出した平底。	マメツ	マメツ	橙色 灰色	石・長(1~3)		
73	壺	底径 6.4 残高 9.0	底部片。突出した平底。	ハケ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石·長(1~5) ◎	黒斑	
74	壺	底径 (5.5) 残高 3.0	底部片。上げ底。	マメツ (指頭痕)	マメツ (指頭痕)	にぶい黄橙色 黒色	石 (1~3) 〇	黒斑	
75	壺	底径 (4.2) 残高 5.5	底部片。平底。	マメツ <u></u> 國ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙色 暗灰色	石 (1~2) 金 〇		
76	鉢	口径 14.6 残高 9.6	台付鉢。口縁部は外反し、端 部は先細る。底部は突出し、 やや上げ底。	ミガキ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	マメツ	浅黄橙色 橙色	石・長(1~5)		27
77	鉢	口径(13.9) 器高 10.0 底径(4.2)	内湾する口縁部。端部は丸く 収める。わずかにくびれ突出 する平底。	マメツ (指頭痕)	マメツ (指頭痕)	にぶい橙色 橙色	石·長(1~4) ◎	黒斑	27
78	鉢	口径 12.4 器高 9.1 底径 3.4	底部より上外に立ち上がる口 縁部。端部は先細る。底部は 厚く突出する平底。	⑥ナデ(指頭痕)	□ヨコハケ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	にぶい橙色 にぶい橙色	石·長(1~5) ◎		27
79	鉢	口径 13.8 器高 11.9 底径 14.3	台付。口縁は内湾気味に立ち上が り、端部はやや外反する。裾部は 屈曲気味に外反し、接地面は平担。	ハケ(8本/cm) ⑤ハケ(7~8本/cm)	ハケ→ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~4) ◎	黒斑	27
80	鉢	口径 13.6 器高 15.4 底径 4.8	口縁部は外反し、先細り気味 に丸みをもつ。胴は余り張ら ない。底部は突出し平担。	□ハケ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	回ヨコハケ(指頭痕) ・	橙色 橙色	石·長(1~5) ◎		27
81	鉢	口径(16.0) 残高 8.0	ゆるやかに外反する口縁部。 端部は丸みをもった「コ」の 字状。	□タテハケ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マメツ	浅黄橙色にぶい黄橙色	石 (1~2) 金 〇	黒斑	

(4)

™ □	器種	注号/)	T/45 +/- ÷	調	整	色調(外面)	胎土	***	
番写		法量(cm)	形態・施文	外面	内面	色調(内面)	焼成	備考	図版
82	鉢	口径(16.2) 残高 3.6	外傾して立ち上がる口縁。端 部は丸く仕上げる。	タテハケ	ヨコナデ	灰褐色 にぶい橙色	石・長(1~2)		
83	鉢	底径(3.7) 残高 5.4	突出した底部。平底。	・ 関ラタテハケ・ 原房ナデ・ 慮マメツ	ハケ	にぶい橙色 橙色	石・長(1~3) ◎	黒斑	27
84	鉢	底径 2.2 残高 3.9	小さいやや上げ底気味の底 部。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石·長(1~3) ◎		
85	鉢	底径(5.7) 残高 7.2	突出し、ややくびれた上げ底 の底部。	(順) タテハケ (順) ヨコナデ (歯) マメツ	マメツ	橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~5)◎		
86	甕	底径 4.5 残高 10.2	平底。やや器壁が厚い。	ハケ 指頭痕	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~5)		
87	甕	底径(4.0) 残高 11.8	突出する平底。	ハケ	マメツ	橙色 橙色	石·長(1~4) 金		
88	高坏	口径(32.0) 器高 23.3 底径(19.6)	やや外反して、大きく開く口縁部。屈 曲部は明瞭な段を有する。脚部はラッ パ状に広がる。3方の円孔が2段。	ヘラミガキ	⊕ヘラミガキ → カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	橙色 橙色	石·長(1~3) 金 ◎		
89	高坏	残高 6.3	外反する口縁部。体部は段を 持つ。	・ヨコナデ・・ヨコハケ	・ 図ヨコハケハケ→ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石·長(1~4) 金 ◎		
90	高坏	底径(18.0) 残高 2.1	ゆるく外反する口縁。端面は 一条の沈線。	側端ヨコナデ側タテハケ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎		
91	高坏	口径 30.1 器高 22.7 底径 21.4	外反する口縁部。端部は丸く 収める。円孔は一段4ヶ所。	① ヨコナデ	□邸ミガキ 卿ヨコハケ しぼり痕	明赤褐色 明赤褐色	石·長(1~2)	黒斑	27
92	高坏	残高 8.5	円孔は一段4ヶ所。	ミガキ	マメツ しぼり痕	にぶい橙色 にぶい橙色	石·長(1~2) 金 ◎		
93	高坏	残高 5.8	短い脚柱部。	ミガキ	マメツ	浅黄橙色 橙色	石 (3) 〇		
94	高坏	底径 (16.2) 残高 2.4	ゆるやかに広がる裾部。	マメツ	ヨコハケ	橙色 明褐色	石·長(1) 金 ◎		
95	高坏	口径 31.4 残高 11.1	大きく外反する口縁。外面は 突出した段を持つ。	□ナデ厨ミガキ	□ナデ□Dミガキ®ヨコハケ→ナデ	橙色 橙色	石·長(1~5) 金 ◎		27
96	器台	口径 20.6 器高 13.8 底径 18.8	口縁部垂下。口縁端面に8条の波状文。 脚柱部に円孔を上下5ヶ所2段計10ヶ所。 裾部に半截竹管文9個一列。	□ヨコナデ ⊪ミガキ	□ミガキ・サデ・・サデ	浅黄橙色 橙色	石・長(1~3) ◎		28
97	蹇	口径(14.2) 残高 10.4	外反する口縁。わずかに肥厚する。頸部下は不明瞭な段を 持つ。	□ヨコナデ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ヨコナデ 園ハケ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石 (1~4) 金 ◎		
98	甕	口径 17.0 器高 20.6 底径 5.0	口縁は「く」の字状に伸びる。 胴部はやや張りを持つ。底部 の調整は荒いナデ。	□ナデ (指頭痕)⑩♪ヘラケズリ⑫ナデ	ハケ	橙色 橙色	石·長(1~4) ◎	黒斑	25
99	癄	底径(4.5) 残高(24.8)	体部はやや張り、長胴。底部 は浅い上げ底。	ハケ(指頭痕)	ハケ ナデ上げ	橙色 黒色	石·長(1~5) ◎		25

(5)

表29 SD1出土遺物観察表 土製品

誧 慗 色調 (外面) 胎土 番号 器種 法量(cm) 形態・施文 備考 図版 焼成 外面 内面 天井部は扁平で、口縁部は下 会回転ヘラケズリ 密 口径(14.2) 灰色 回転ナデ 坏蓋 方へ屈曲する。口縁端部は尖 上部 100 ◎回転ナデ 灰色 \bigcirc 残高 1.1 り気味。 口径(14.6) 低い天井。端部は丸く仕上げ 灰色 密 回転ナデ 回転ナデ 上部 101 坏蓋 灰色 \bigcirc 残高 0.9 る。 灰白色 密 口径(13.9) 口縁部は下方へ屈曲する。 回転ナデ 回転ナデ 上部 102 坏蓋 口縁端部は尖り気味。 灰白色 残高 1.1 扁平な天井からゆるやかに下 田転ヘラケズリ 灰白色 口径(16.5) 長(0.5) 103 坏蓋 回転ナデ 上部 残高 1.2 方へ屈曲する。端部は丸い。 回回転ナデ 灰色 皿の蓋。丸みのある天井部から、な 灰色 密 口径(12.6) だらかに下がり、口縁部は下内方へ 回転ナデ 回転ナデ 上部 坏蓋 104 灰色 残高 1.7 屈曲する。口縁端部は丸く仕上げる。 会回転ヘラケズリ やや低い、宝珠状のつまみの オリーブ灰色 密 つまみ径 3.4 105 坏蓋 **→**ナデ 回転ナデ 上部 28 残高 2.7 付く坏蓋。 緑灰色 回転ナデ 天井部は扁平で、体部へ直線 長(1) 口径 (9.0) 灰白色 マメツ 上部 106 蓋 的に開く。口縁部は外反し端 マメツ 砂(4) 灰白色 残高 2.6 部は丸く仕上げる。 \triangle 口径(12.3) 高台が底体部境界付近より内 灰白色 密 回転ナデ 回転ナデ 上部 107 器高 3.1 側に付く。 灰白色 底径 (9.0) 口縁部は欠損。高台は「ハ」 灰色 底径(13.0) 長(0.5) 坏 の字状に開き、体底部の境よ マメツ マメツ 上部 108 灰色 残高 2.7 り内側につく。 高台はやや短く「ハ」の字状 灰色 底径(14.8) 石・長(1~2) に開く。体底部の境は丸みを 回転ナデ 回転ナデ 上部 坏 109 灰白色 残高 2.0 \bigcirc 帯びる。 底径 (7.5) 回転ナデ 灰色 長(0.5) 上部 110 坏 坏の底部片。 回転ナデ 残高 1.5 @回転へラ切り 灰色 \bigcirc 底径(10.4) 高台接地面は丸く仕上げる。 灰色 密 回転ナデ 上部 坏 回転ナデ 111 灰色 体底部の境に高台が付く。 残高 2.2 体部底部の境は丸みを帯び 底径(15.4) 灰色 上部 長(1) る。体部は内湾気味に立ち上 回転ナデ 回転ナデ 坏 112 残高 2.1 灰色 自然釉 がる。底部は変形する。 ゆるやかに立ち上がり、内傾 オリーブ灰色 回転ナデ 受部径(16.1) 石 (1~3) 坏身 回転ナデ 上部 113 する。端部は欠損する。 回転ヘラケズリ オリーブ灰色 残高 2.5 体部から口縁部は内湾する。 灰色 口径 (6.8) 石(1) 上部 回転ナデ 回転ナデ 114 壺 残高 3.3 口縁端部は丸く仕上げる。 灰白色 \bigcirc 高台付の壺。球形の胴部。 底径 (6.0) 回転ナデ オリーブ黒色 石(1~2) 上部 壺 体底部の境よりやや内に高台 回転ナデ 115 回転ヘラケズリ 灰白色 残高 4.6 が付く。 灰白色 壺の胴部片。横沈線1条。 回転ナデ 回転ナデ 上部 116 壺 残高 6.6 \bigcirc 灰白色 口径(11.2) ゆるやかに外反して立ち上が 橙色 石・長(1) マメツ 上部 器高 1.4 マメツ 117 Ш る。口縁端部は丸く収める。 にぶい黄橙色 底径 (9.1) 口径(17.0) 平底の底部に外傾して立ち上 ナデ 橙色 石・長(1~2) 上部 回転ナデ \mathbf{III} 器高 1.9 118 回転ナデ 浅黄橙色 赤色塗彩 がる端部は丸い。 \bigcirc 底径(14.0) 口径(17.4) 体部は直線的に立ち上がる。 にぶい橙色 マメツ マメツ 上部 119 \mathbf{III} 器高 2.0 底部は平底。 浅黄橙色 底径(11.2)

(1)

SD1出土遺物観察表 土製品

	S D	出土遺物	観察表 土製品						(2)
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調 (外面)	胎土	/##	WI LE
ш.,	44.13		77765 11世文	外面	内面	巴酮 (内面)	焼成	備考	図版
120	Ш.	口径(21.0) 器高 1.5 底径(19.6)	体部は短く直線的に立ち上が る。端部は丸く仕上げる。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	密〇	上音K 赤色塗彩	
121	坏	底径 (9.8) 残高 1.0	高台の付く坏。高台の端部はやや肥厚している。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 灰白色	石・長(1~3)	上部	
122	坏	底径(8.0) 残高 1.3	「ハ」の字状に開く高台。 体底部の境よりやや内側に高 台が付く。	回転ナデ	ナデ	暗灰色 灰色	石(1)	上部	
123	坏	底径 (9.2) 残高 1.5	「ハ」の字状に開く高台。体 底部の境付近に高台が付く。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 黄灰色	石・長(1~2)	上部	
124	坏	口径(17.2) 器高 2.8 底径(14.1)	底部から体部にかけて僅かに ふくらむ。端部は丸く仕上げ る。	回転ナデ	回転ナデ	橙色 明赤褐色	石 (1~2)	上部	
125	坏	底径(12.4) 残高 2.8	直線的に立ち上がる体部。 高台は体底部の境に付く。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	密〇	上部	
126	瓦	厚さ 2.0	斜格子目文。	タタキ	マメツ	灰白色 暗灰色	石(1)	上部	
127	瓦	厚さ 1.7	縄目文。	ヨコナデ タタキ	マメツ	灰白色 灰白色	石(1)	上部	
128	魙	口径(21.4) 残高 2.2	外反する口縁。 端部はやや下方に肥厚する。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~3)	上部	
129	甕	口径(16.0) 残高 11.2	屈曲して外反する口縁。 やや下ぶくれの胴部。	回ヨコハケ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	□マメツ 働ハケ	にぶい黄橙色 灰白色	石·長(1~5) ◎	上部	
130	甕	底径(5.6) 残高 4.6	突出し、くびれる底部。 上げ底。	⑩ タテハケ ⑥ナデ	ナデ上げ (指頭痕)	橙色 暗褐色	石·長(1~3) 金 ◎	上部	
131	蓋	つま経(2.7) 残高 1.3	上部が平扁な逆台形状のつまみ。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石 (1) △	下部	
132	盖	口径(16.2) 残高 1.6	丸みのある天井部からなだら かに下がる。口縁部は下方へ 屈曲する。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 黄灰色	石 (0.5~5) ◎	下部	
133	蓋	口径(15.2) 残高 5.3	扁平な天井から屈曲して下が る体部。口縁部は内傾し、端 部は段を持つ。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰白色	長 (1) ©	下部 自然釉	
134		口径(14.7) 残高 2.8	外傾して立ち上がる口縁。 体部に段を持つ。	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰色 灰白色	長 (0.5) ©	下部	
135	坏	口径(12.3) 器高 3.1 底径 (9.7)	高台は低く、体部はやや外反 気味に外上方に伸びる。 端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長 (0.5)	下部	28
136		底径(13.8) 残高 3.0	高台の付く坏。高台は体部と底 部の境界より内側に付く。体部 はやや内湾して立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密	下部	
137	壺	残高 8.4	頸部片。頸部に縦沈線の後、 横沈線3条を施す。	回転ナデ	回転ナデ 当て具痕→スリ消し		密 ○	下部 自然釉	
138		底径(12.6) 残高 8.8	高台付壺。 「ハ」の字状に開く高台。	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	灰色	石・長(1~2) ◎	下部	
139		底径 14.5 残高 1.4	高台端部は丸く仕上げ、外反 する。	回転ナデ	回転ナデ	赤橙色 にぶい橙色	石・長(1~2)	下部	

SD1出土遺物観察表 土製品

亚口	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調 (外面)	胎土	備考	図版
番写		法重(CM)	形態・他又	外面	内面	巴納(内面)	焼成	川市で	IZI/IX
140	坏	底径(16.5) 残高 1.7	「ハ」の字状に開く高台。 体底部の境に高台がつく。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石·長(1)	下部	
141	坏	口径(16.0) 器高 2.7 底径(14.0)	高台は断面逆三角形。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 明赤褐色	密〇	下部 赤色塗彩	
142	坏	底径(16.0) 残高 1.5	「ハ」の字状に開く断面三角形の高 台。端部は丸く仕上げる。体底部 の境よりやや内側に高台が付く。	ナデ	マメツ	橙色 灰白色	密〇	下部	
143	高坏	残高 2.7	高坏の脚柱部片。 外面に面取り。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 灰白色	密	下部	28
144	高坏	残高 3.2	高坏脚柱部片。 外面に面取り。	ナデ	マメツ	橙色 橙色	密〇	下部	28
145	壺	残高 2.3	複合口縁壺。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 灰白色	石·長(1~5) 金 ◎	下部	
146	不明	残高 2.2	器種不明品。 端部は丸く仕上げる。	ヨコナデ	マメツ	淡黄色 淡黄色	石·長(1~2) ◎	下部	
147	高坏	残高 8.5	細い脚部。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 にぶい橙色	石・長(1~2)	下部	
148	高坏	残高 5.4	高坏の脚部片。	マメツ	マメツ しぼり痕	明赤褐色にぶい橙色	石・長(1~4)	下部	
149	支脚	受部径 (4.0) 器高 5.3 底径 (5.4)	沓形。上部は凹部を持ち、体 部は台形状。	マメツ	マメツ	橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3)	下部	
150	蓋	口径(16.0) 残高 1.4	やや扁平な天井から下方に屈 曲する口縁部。 端部は丸く仕上げる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密〇	トレンチ	
151	蓋	つまみ径3.0 残高 1.6	平扁なつまみの付く坏蓋。 つまみ上部はややへこむ。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1)	トレンチ	
152	高坏	底径 (8.3) 残高 3.9	脚部は太く、ラッパ状に外反 して端部に至る。	ナデ 回転ナデ	ナデ	灰色 灰色	密〇	トレンチ	

表30 SD1出土遺物観察表 石製品

7E 🗆	9年 母左	材質		法	備考	図版			
番号	器種	残存	例貝	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	湘 传	
153	砥石		金雲母花崗岩	14.7	11.2	6.4	1840	トレンチ	

SD1出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量(cm)	m) 形態・施文	詞	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
金万	吞性	広里(CIII)	/// // // // // // // // // // // // //	外面	内面	口刷(内面)	焼成	/HI *5	四加
154	坏	底径(11.4) 残高 1.7	坏底部。	マメツ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石(1)	ベルト	
155	壺	底径(12.9) 残高 30.5	高台付壺。体部はやや内湾する。「ハ」の字状に開く高台 は体底部の境に付く。	回転ナデナデ	回転ナデ 不定方向ナデ	灰色 灰色	長 (1~2) ◎	ベルト	
156	坏	底径(9.7) 残高 1.9	口縁部は欠損。高台は「ハ」 の字状に開き、体底部境より 内側に付く。	回転ナデ 回転ヘラ切り	回転ナデ	灰色 灰白色	石 (1~2) △	上部	

SD1出土遺物観察表 土製品

	S D 1	出土遺物	観察表 土製品						(5)
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	/# #/	1201 ME
田力	有け生	広里(IIII)	/// // // // // // // // // // // // //	外面	内面	巴酮(内面)	焼成	備考	図版
157	坏	口径(15.0) 器高 3.4	高台は低く、高台は体部と底部 の境付近に付く。体部は外上方 に直線的に開く。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1) 〇	ベルト	28
158	Ш	口径(13.2) 器高 1.7	底部から短く立ち上がる体 部。端部は丸く仕上げる。	ナデ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	密△	ベルト赤色塗彩	
159	甕	口径(34.2) 残高 11.0	外反する口縁部。 端部は緩い凹面を持つ。	タタキ→ナデ	□ナデ⑩タタキ→ナデ	灰白色 灰白色	長(0.5) △	ベルト	
160	甕	口径(16.8) 残高 2.8	外反する口縁。	マメツ	ヨコハケ	にぶい橙色 にぶい橙色	石·長(1~3) 金 ◎	ベルト	
161	壺	口径(12.3) 残高 3.5	複合口縁壺口縁部片。無文。	●⑥ハケ ⑥マメツ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎	ベルト	
162	壺	底径(5.4) 残高 3.5	平底。	⑩ タテハケ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ハケ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石·長(1~4) ◎	ベルト	
163	甕	底径 (3.8) 残高 2.6	底部片。	⑩ ハケ ⑥ マメツ	マメツ	明赤褐色 にぶい褐色	石·長(1~3) 金 ◎	ベルト	
164	甕	底径 (3.0) 残高 2.7	小さい平底。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	タテハケ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3)◎	ベルト	
165	壺	底径(4.8) 残高 5.0	突出する底部。 平底。	⑩® タテハケ ®マメツ	マメツ	橙色 灰白色	石・長(1~3) ◎	ベルト	
166	高坏	残高 7.0	脚柱部片。 面取りが5面みられる。	ヨコナデ	マメツ しぼり痕	橙色 にぶい橙色	密〇	ベルト	28

表31 SD5出土遺物観察表 土製品

番号	哭繙	器種 法量(cm) 形態・施文		詞	調整		胎土	/## + / /	ESS ALC
番っ	有价工生	ム里(III)	/// // // // // // // // // // // // //	外面	内面	色調(内面)	焼成	備考	図版
167	高坏	残高 3.5	大きく外傾し、緩やかに外反 する。外面に段を持つ。	邸ナデ、ハケ	ชラジャ・ナデタテハケ	橙色 明赤褐色	石·長(1~3) 金 ◎		
168	高坏	残高 4.0	脚部長方形の透し。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密◎		
169	蓋	口径(15.5) 残高 1.3	口縁端部は尖り気味。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰黄色	密		

表32 SK1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm) 形態・施文 調整		整	∠≕(外面)	胎土	/# +/	57111	
雷力	田つ和祖	A里(III)	777级 77世文	外面	内面	色調(内面)	焼成	備考	図版
170	蓋	口径(19.6) 残高 1.7	低く平担な天井部。 口縁端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密◎	5.00	
171	坏	底径(11.0) 残高 0.9	底部片。	ナデ	ナデ	明赤褐色 橙色	密		

表33 SK11出土遺物観察表 土製品

(1) 色調 (外面) 色調 (内面) 胎土 番号 器種 法量(cm) 形態・施文 図版 備考 焼成 外面 内面 口径(10.8) 残高 7.8 複合口縁壺口縁部。斜め直線 ◎ハケ 石·長(1~4) ◎ 橙色 172 壺 マメツ ③マメツ 文3条。櫛描波状文4条。 浅黄橙色 石·長(1~3) 口径(23.6) 器種不明品。口縁端部は折れ ◎ヨコハケ にぶい黄橙色 173 不明 ヨコハケ 金 曲がり、先尖る。 残高 1.8 ⊕ナデ 橙色

-133 -

	S K 1	1出土	遺物	観察表 土製品						(2)
番号	器種	法量	(am)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
番与	40年	広里	(CIII)	/// 原文	外面	内面	「内面)	焼成	I/H *5	LAINIX .
174	高坏	残高	1.5	直線的に立ち上がる口縁部。 外面に段を持つ。	マメツ	マメツ	明赤褐色 明赤褐色	石 (1) ◎		
175	壺	口径器高	8.4 9.0	丸底で球形の体部。 口縁部は尖り気味に丸い。	①到ヨコナデ 柳底マメツ	マメツ	橙色 橙色	石·長(1) 金 〇		28
176	坏	底径残高	(9.0) 1.6	低い高台。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密		

表34 SX2出土遺物観察表 土製品

₩ 🗆	BB 1=€	注 見()	12.65 大大	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	外面	内面	巴調 (内面)	焼成	1佣-15	凶加
177	蓋	口径(15.1) 残高 0.9	端部は僅かに折れまげ、丸く 仕上げる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(0.5) 〇		
178	蓋	口径(16.7) 残高 1.2	端部は丸く仕上げる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(0.5) ©		
179	蓋	口径(15.4) 器高 2.6	低い天井部。端部は丸く仕上 げる。つまみは断面逆台形状。 内面に1条のヘラ記号。	⊗回転へラケズリ □回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密〇		
180	坏	底径 (9.4) 残高 1.1	高台が底体部境界付近に付く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	長(0.5) △		
181	坏	底径(13.4) 残高 2.1	高台が底体部境界付近に付く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(0.5) ©	自然釉	
182	坏	底径(11.1) 残高 1.2	高台が底体部境界付近に付く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1)		
183	坏	底径(10.9) 残高 2.6	高台が底体部境界内側に付く。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	長(0.5) △		

表35 地点不明遺物観察表 土製品

番号	9P 1#	法量(cm)	形態・施文	調	整	色調(外面)	胎土	備考	図版
(金万	器種	広里(CM)	が思・旭又	外面	内面	円面 (内面)	焼成	IM 75	
184	甕	口径(16.8) 残高 26.4	稜を持って外反する口縁部。 端面は沈線が巡る。	□⊪ハケ ⑩島マメツ	□マメツ 働ハケ ⑩©マメツ	橙色 橙色	石·長(1~5) ◎	SKB	25
185	壺	口径(20.0) 残高 3.5	外反する口縁の端部上方につ まみ上げる。外面に凹線文が 巡る。	ヨコナデ	□ヨコナデ □Dマメツ	明赤褐色 明赤褐色	石·長(1~4) ◎	トレンチ	
186	壺	底径 (5.9) 残高 4.6	底部片。	・タタキ ®タタキ	ハケ	橙色 にぶい橙色	石·長(1~3) 金		
187	高坏	残高 8.5	やや細めの柱部。	マメツ	マメツ しぼり痕	橙色 明赤褐色	石・長(1~3)		
188	蓋	口径(15.7) 残高 1.4	低い天井部。端部は丸く仕上 がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密〇		

表36 地点不明遺物観察表 石製品

亚口	器種	残存	1+ <i>F</i> F		 法	備考	図版		
番号	谷性	9友1子	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	I用 写	
189	石庖丁	一普阝	緑泥片岩	3.6	2.85	0.45	7.965	不明	

第5章 おわりに

松山平野北東部、松山市中村・小坂地区内にある中村松田遺跡 2・3次調査地、小坂七ノ坪遺跡 2 次調査地の調査報告をおこなった。調査の結果、主に弥生時代から古代までの遺構・遺物を検出し、加えて中世の遺構・遺物をも検出するに至った。以下、時代ごとにまとめをおこなう。(第78図)

1. 弥生時代

- (1) 中 期:小坂七ノ坪遺跡2次調査地では、溝1条を検出した。SD2は北東-南西方向の溝で、溝内からは弥生時代中期後半~後期初頭に時期比定される土器が出土した。小坂地区における該期の遺構・遺物の検出はこれまでに少ない。周辺地に中期集落を想定する資料が得られたものと言える。
- (2)後期:中村松田遺跡2次調査地と小坂七ノ坪遺跡2次調査地では、弥生時代後期後葉の遺構・遺物を確認した。中村松田遺跡2次調査地では、竪穴式住居址4棟を検出した。このなかには、切り合い関係のある2棟の住居址が含まれるが、出土遺物からは、短期間での推移が認められた。また、平面形態や規模、内部施設には、注目される事象がある。平面形態では円形(2棟、SB2・3)と長方形(2棟、SB4・5)の2種類があり、規模は円形住居が径5.2~6.8m、床面積29~44㎡であるのに対して、長方形住居は長さ3.3~3.4m、幅2.3~2.6m、床面積7.5~8.8㎡となり、円形住居は方形住居より規模が大きい。さらには、内部施設をみると、円形住居の主柱穴は5本または6本であるのに対して、長方形住居では2本である。明らかに機能の違う二種類の竪穴式建物があることが分かる。

このほか、同遺跡内からは、溝が2条検出されている。SD1・2からは、大型破片が地点ごとに集中して大量に出土した。出土状況からは、溝内に土器を廃棄した可能性が高いものと推測される。なお、溝の規模や方向、遺物の出土状況は、同1次調査地検出の溝SD1と酷似しており、両者は同一の溝と考えられる。

小坂七ノ坪遺跡 2 次調査地検出の土坑 S K 13は、径1.3m、深さ70cmの円形土坑で、土坑中位付近からは、完形品の土器と礫が大量に出土し、廃棄土坑と考えられた。前述の溝 S D 1 ・ 2 や土坑 S K 13からは、弥生時代後期後葉における土器廃棄の様子がうかがえる。

一方、今回報告した遺跡のうち、最も北側に位置する中村松田遺跡3次調査地からは、弥生時代の 集落関連遺構がほとんど検出されていない。このことは、同調査地が中村松田遺跡内に展開する弥生 時代集落の北限域を示す可能性があり、同遺跡内における弥生時代集落の範囲を知る上での重要な手 がかりとなる。

2. 古墳時代

- (1)前 期:中村松田遺跡 3 次調査地では、前期の竪穴式住居址を 1 棟検出した。 S B 1 は一辺4.3~4.7mの方形住居址で、住居内からは畿内系の甕形土器や壺形土器、高坏形土器、小型器台等が出土している。松山平野内における前期集落や住居址の検出は少なく、 S B 1 の検出は中村地区のみならず、松山平野全域の前期集落を考える上で貴重な資料となるものである。
- (2) 中・後期:小坂七ノ坪遺跡2次調査地では、中期の土坑を1基検出した。SK11は径85cm、深さ65cmの円形土坑で、断面形態は筒状を呈し、土坑内からは、5世紀に時期比定される土器片が出土した。後期では、中村松田遺跡3次調査地で数基の土坑を検出した。これまで、中村地区における

古墳時代中・後期の遺構の検出は少なく、今回の調査結果からは、古墳時代中・後期に中村松田遺跡 及び近隣地域が居住域として利用されていたことが明らかとなった。

3. 古代

小坂七ノ坪遺跡 2 次調査地では、溝と土坑を検出した。このうち、SD1は東西方向の溝で、溝内からは7世紀~8世紀の土師器、須恵器、瓦が出土した。溝の規模や方向、出土遺物などからは、本調査地溝SD1と同1次調査地(文献参照)溝SD1は同一の溝と判断される。小坂地区における古代集落の存在とその構造を考える上での基本資料になろう。

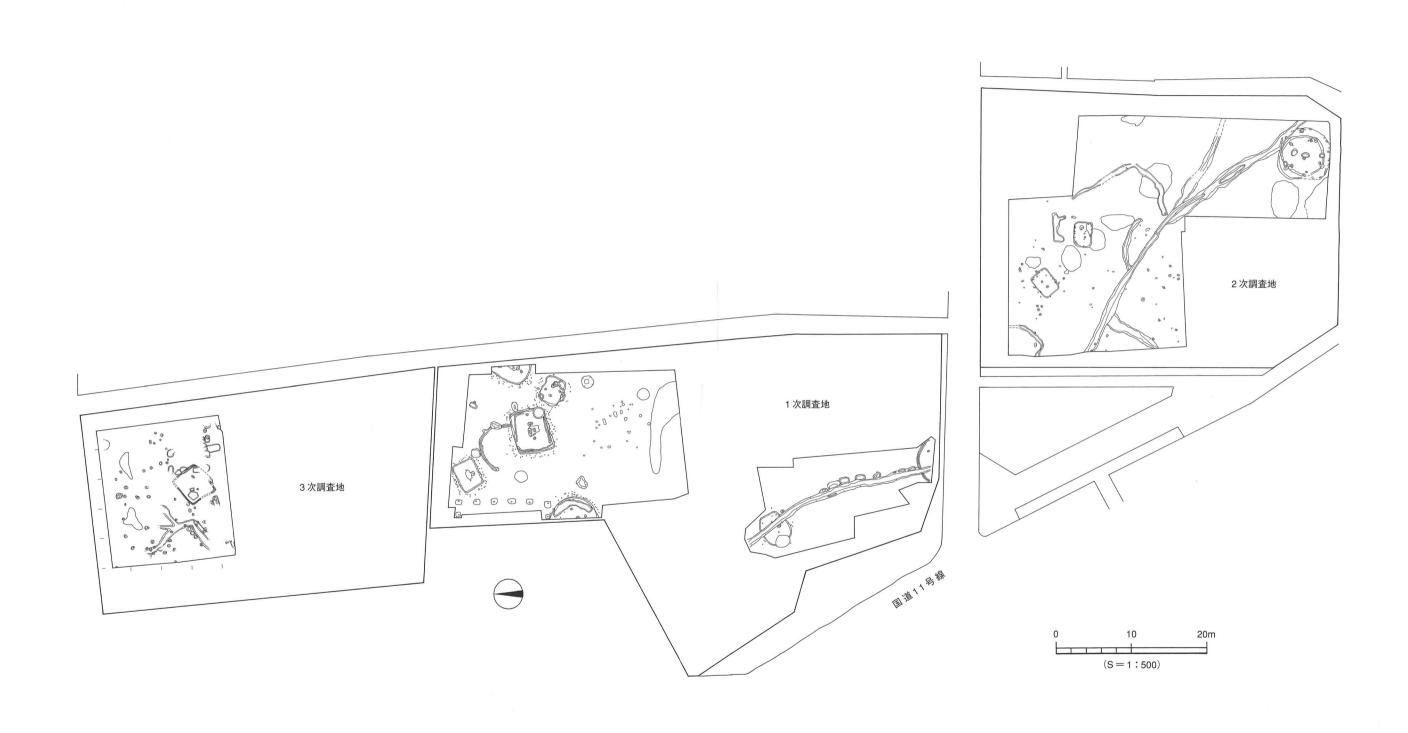
4. 中世

中村松田遺跡 2 次調査地では、少ないながら中世の遺構・遺物を検出している。遺構は柱穴に限られるが、少なくとも中世集落が調査地及び近隣地域に展開していることを裏づけるものである。

以上、二遺跡 3 調査地の報告をおこなった。中村地区における弥生時代後期集落の構造や住居形態、 及び土器廃棄の様子が明らかになった。また、中村・小坂地区における古墳時代から古代までの集落 存在が確認され、今後は集落構造の解明が調査研究課題となる。

〔文献〕

栗田茂敏 1985「七ノ坪遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ』松山市教育委員会



第78図 中村松田遺跡の遺構分布図

写 真 図 版

写 真 図 版 例 言

1. 遺構は、主な状況については、 4×5 判や 6×7 判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35mm判で補足している。一部の撮影には高所作業車・やぐらを使用した。

使用機材:

カ メ ラ トヨフィールド45A レンズ スーパーアンギュロン90mm他

アサヒペンタックス67 ペンタックス67 55mm他

ニコンニューFM2 ズームニッコール28~85mm他

フィルム 白 黒 プラスXパン・ネオパンSS・アクロスカラー エクタクロームEPP・RDP \blacksquare

2. 遺物は、4×5判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影している。

使用機材:

カ メ ラ トヨビュー45G

レンズ ジンマーS240mm F5.6他

ストロボ コメット/CA32・CB2400

スタンド等 トヨ無影撮影台・ウエイト、スタンド101

フィルム 白黒 プラス X パン・ネオパンアクロス

3. 単色図版は、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

使用機材:

引 伸 機 ラッキーMD・90MS

レンズ エル・ニッコール135mm F 5.6 A・50mm F 2.8 N

印画紙 イルフォードマルチグレードNRCペーパー

4. 製 版 写真図版175線

印 刷 オフセット印刷

用 紙 マットコート

製 本 アジロ綴じ

【参考】『埋文写真研究』Vol. 1~15 『報告書制作ガイド』



1. 調査前全景(北より)



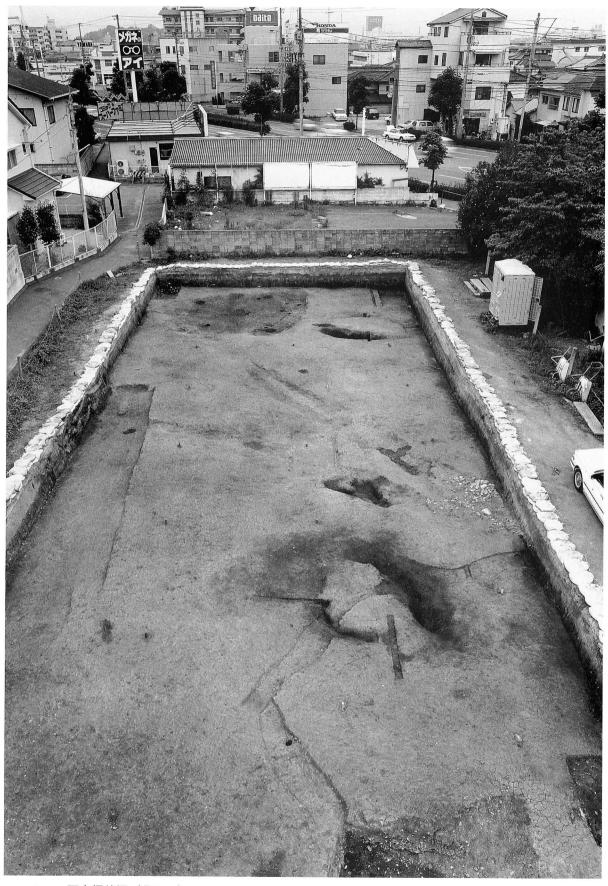
2. 掘削状況(東より)



1. 作業風景(南東より)



2. 基本土層(北東より)



1. A区完掘状況(北より)



1. B区完掘状況(1)(南東より)



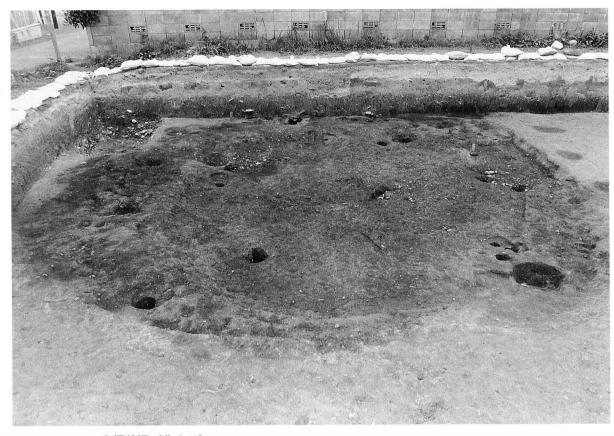
2. B区完掘状況(2)(北より)



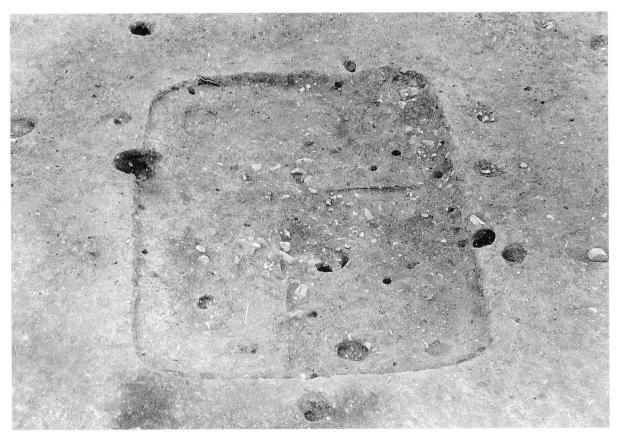
1. SD1・2遺物出土状況(西より)



2. SD1遺物出土状況(西より)



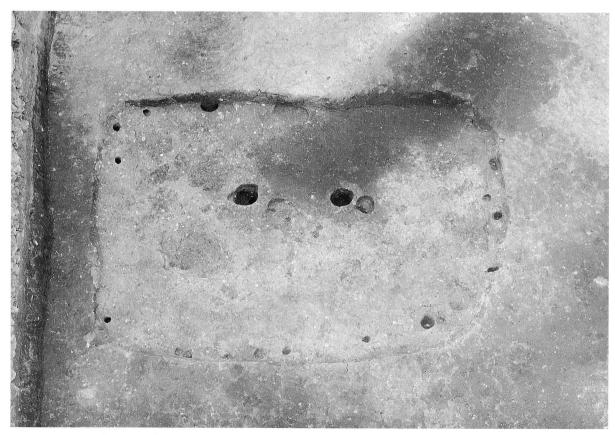
1. SB2完掘状況(北より)



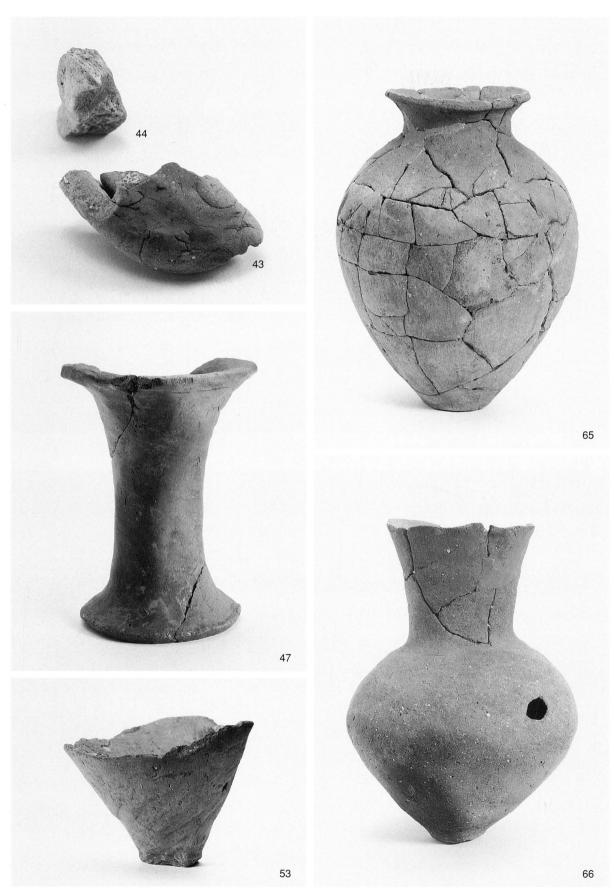
2. SB4完掘状況(北東より)



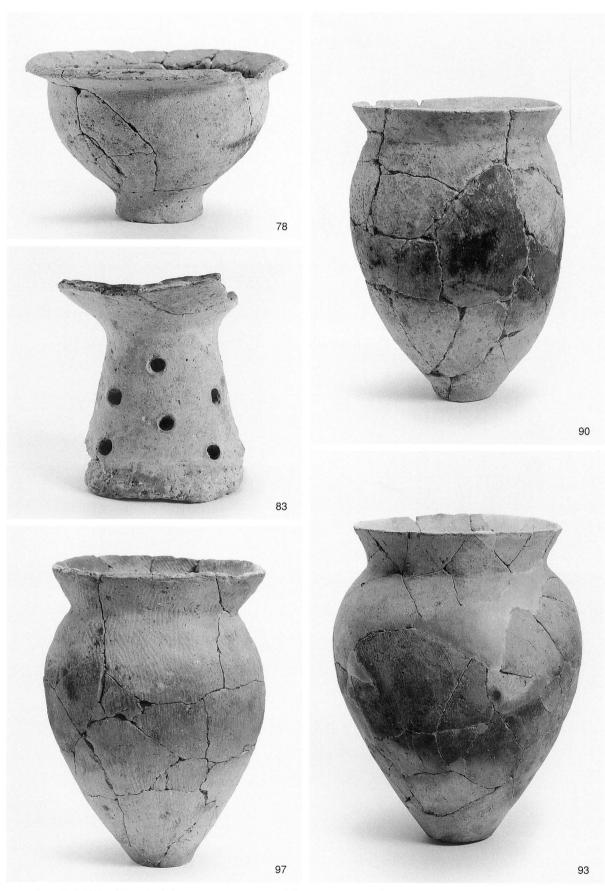
1. SB5遺物出土状況(南より)



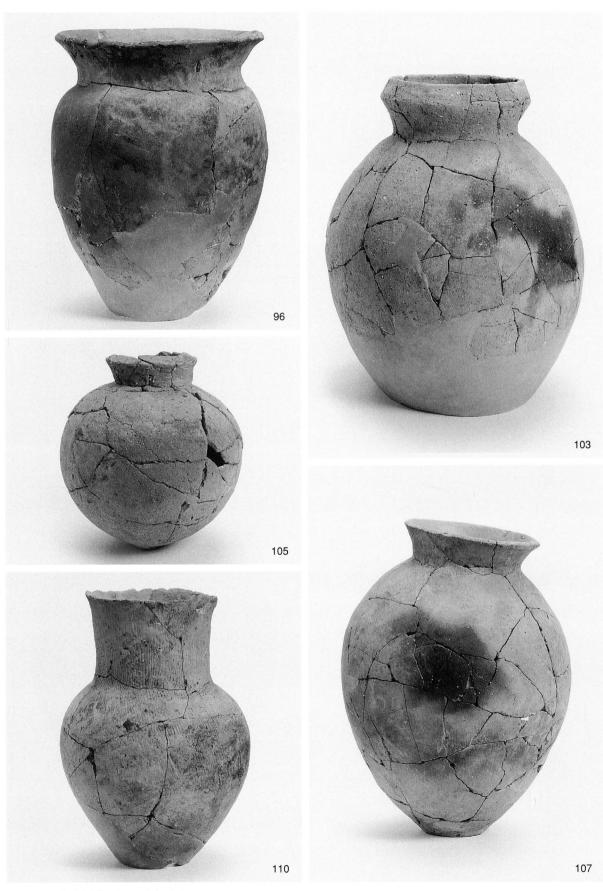
2. SB5完掘状況(北より)



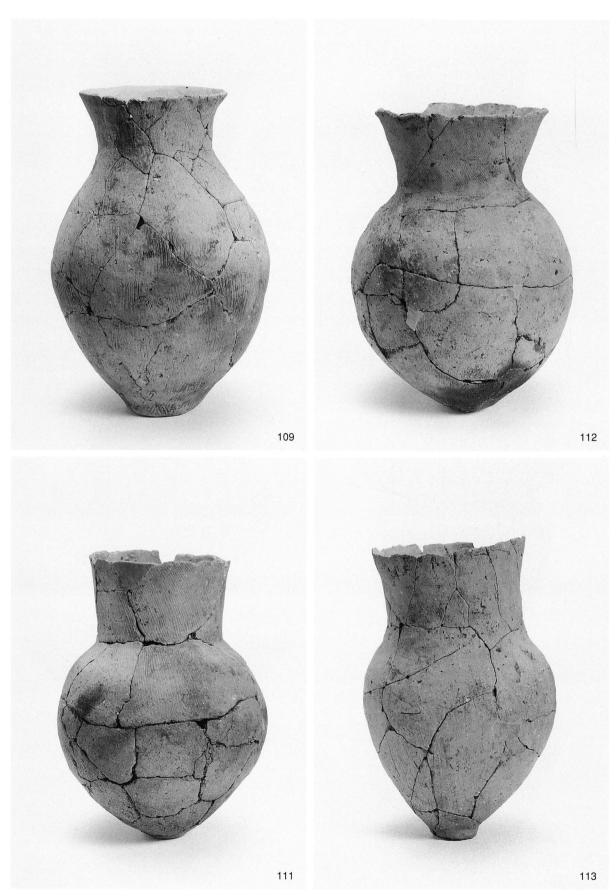
1. 出土遺物 (SB2:43·44、SB3:47、SB4:53、SB5(1):65·66)



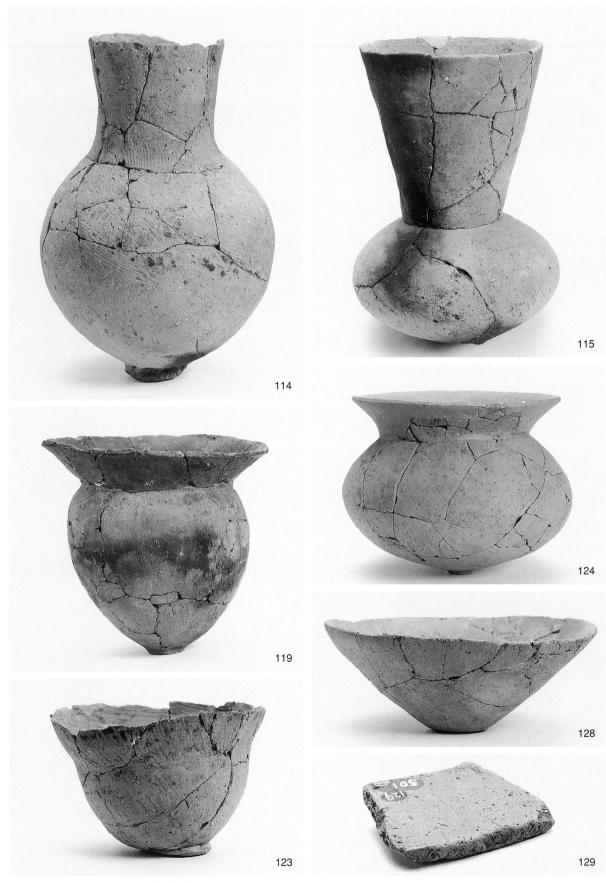
1. 出土遺物(SB5(2):78・83、SD1(1):90・93・97)



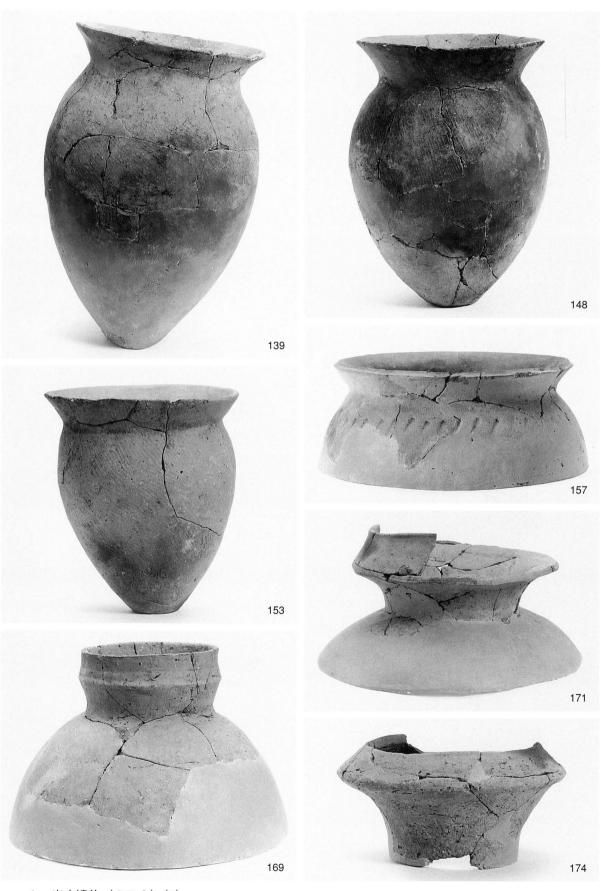
1. 出土遺物 (SD1) (2)



1. 出土遺物 (SD1) (3)

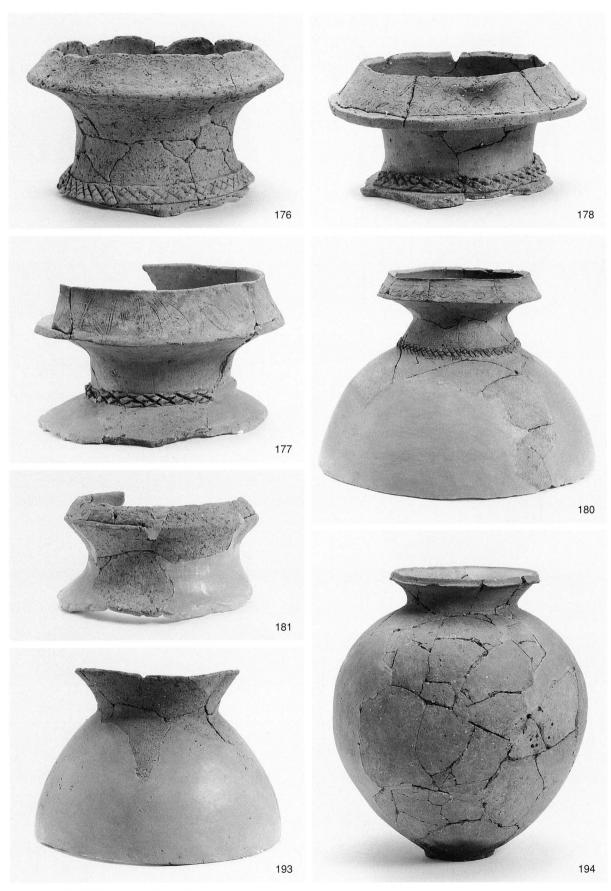


1. 出土遺物(SD1)(4)

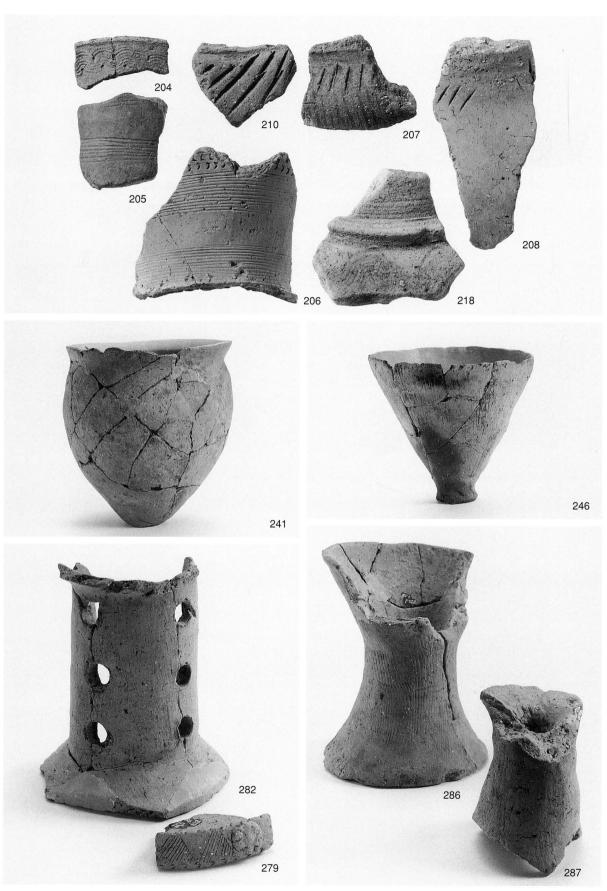


1. 出土遺物 (SD2) (1)

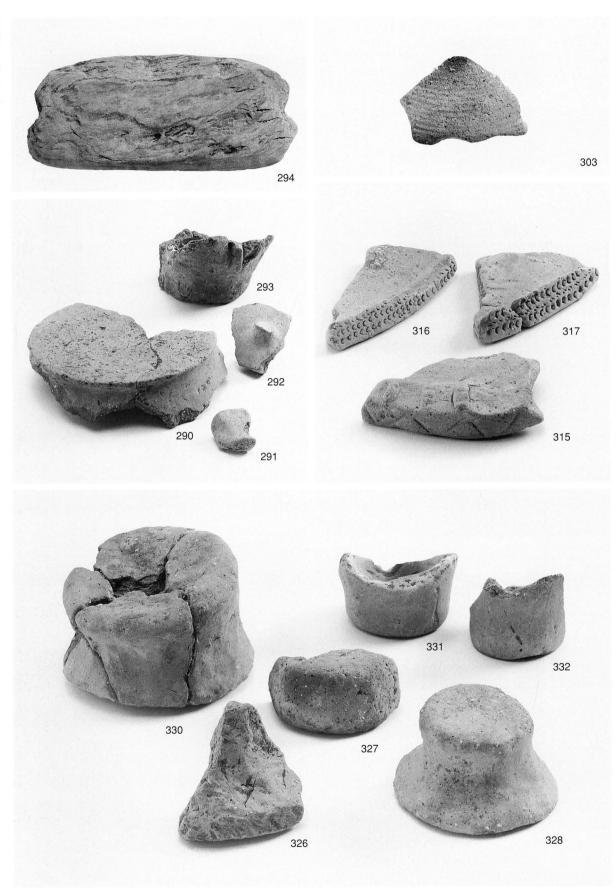
図版一四



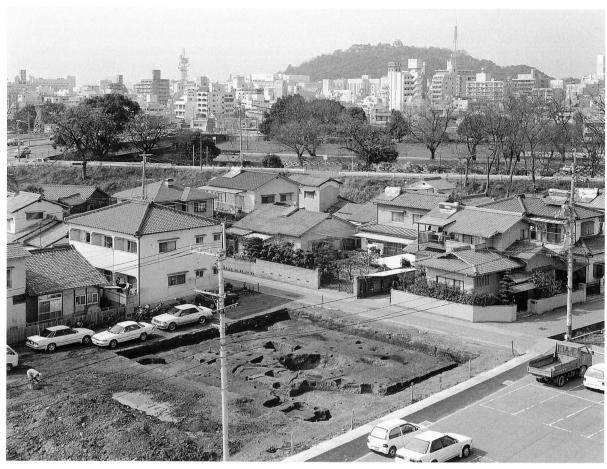
1. 出土遺物 (SD2) (2)



1. 出土遺物 (SD2(3))



1. 出土遺物(SD2(4):290~294、SD6:303、第V層:315~317・326~328・330~332)



1. 調査地遠景(南東より)



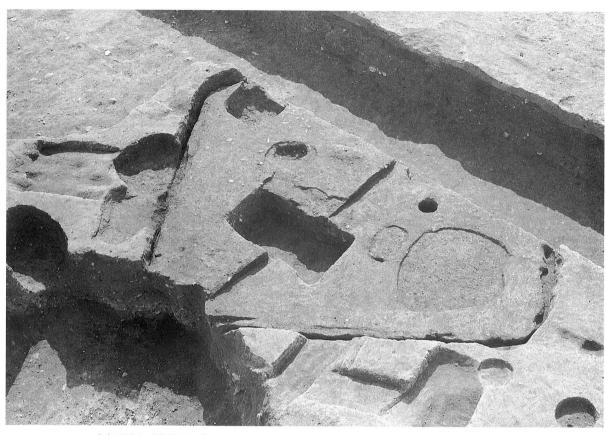
2. 調査前全景(北西より)



1. 基本土層(西より)



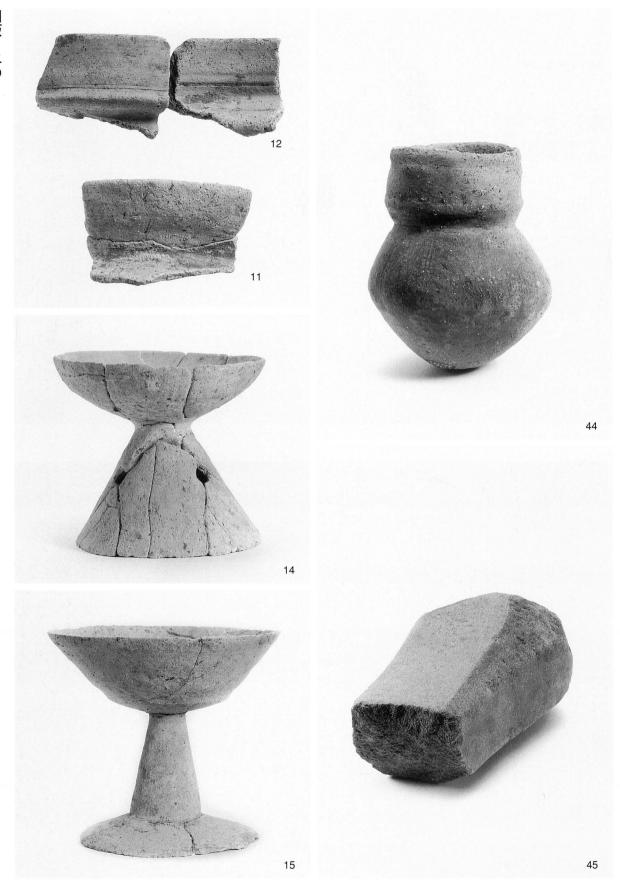
2. 遺構完掘状況 (西より)



1. SB1完掘状況(北西より)



2. SB1遺物出土状況(東より)



1. 出土遺物(SB1:11·12·14·15、SP32:44、SP10:45)



1. 遺構検出状況(東より)



2. 北壁・AD2断面状況(南西より)



1. SK13遺物出土状況(南東より)



2. S K 13断面状況 (東より)



1. SD1・2・3掘り下げ状況(西より)

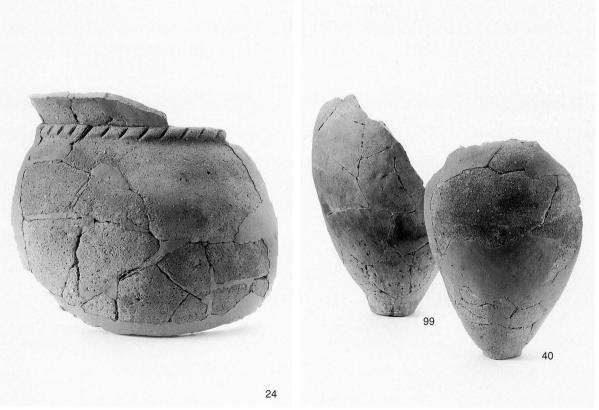


2. 遺構完掘状況(北西より)

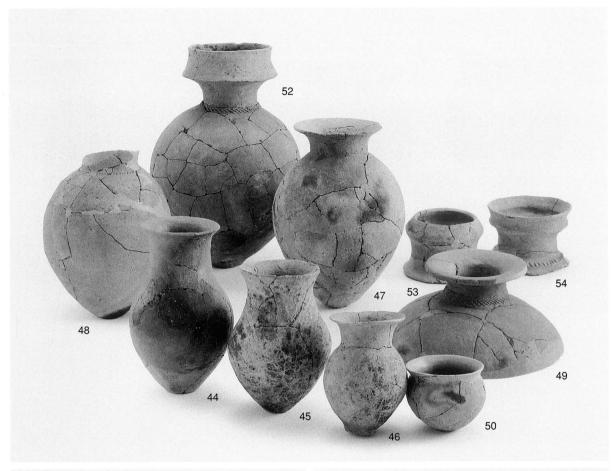


1. S K 13出土遺物(1)





1. S K 13出土遺物 (2)





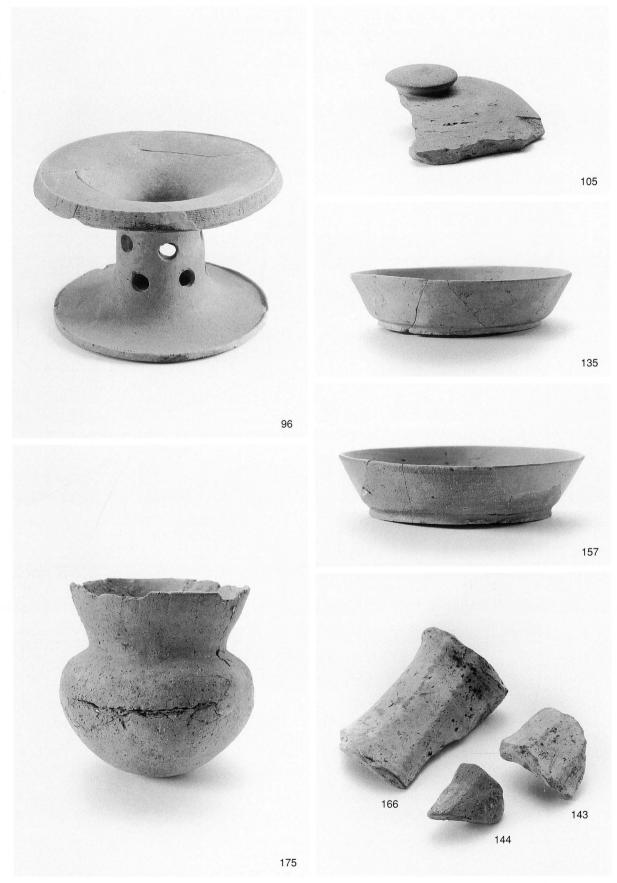


1. S K 13出土遺物(3)





1. S K 13出土遺物(4)



1. 出土遺物 (SK13(5):96 SD1:105·135·143·144·157·166 SK11:175)

報告書抄録

ふりが	な	なかむらちくのいせき									
書	名	中村地区の遺跡									
副書	名	中村松田遺跡2次・中村松田遺跡3次・小坂七ノ坪遺跡2次									
巻	次										
シリーズ	名	松山市文化財調査報告書									
シリーズ番	: 号	第120集									
編者名梅木謙一・宮内慎一・水本完児・小笠原善治・大西朋子											
編集機	関	松山市教育委員会 財団法人 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター									
所 在 地 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 TEL(089) 948-6605 〒791-8032 松山市南斎院町乙67-6 TEL(089) 923-6363											
発 行 年 月 日 西暦 2007年 3月 31日											
ふりがな 所収遺跡名	万	いりがな 折 在 地	市町村		北 緯。'"	東。	経"	調査期間	調査面積 ㎡		調査原因
かがわれて中村松田2次	中村	寸2丁目	38201		33°49'47''	132%	16'52''	19970401~ 19970831	1675.03		宅地開発
かいわだ 中村松田3次	中木	寸1丁目	38201		33°49'51"	132%	16'50''	19980202~ 19980331	1261.54		宅地開発
こさかななのつほ 小坂七ノ坪2次	小块	反2丁目	38201		33°49'52''	132%	16'58''	19980901~ 19981031			宅地開発
所収遺跡名	Ż	種別	主な時代	主な	遺構		主	な遺物	7 0	特	記事項
中村松田2次		集 落 弥生時代			竪穴住居 4 棟 溝 7 条		弥生土器 弥生土器・石器			SD2多量の土器 1次SD1に続く	
-		中世		柱穴48	柱穴48基		土師器			19(001101)00	
中村松田3次		集落	集落古墳時代		竪穴住居1棟 掘立1棟 溝1条 土坑5基		須恵器・土師器・弥生土器 須恵器・弥生土器 須恵器・弥生土器 須恵器・弥生土器 須恵器・弥生土器				
小坂七ノ坪2次		集落	集 落 弥生時代 古墳時代		溝3条 土坑2基 溝3条 土坑2基		弥生土器 弥生土器 須恵器·土師器·弥生土器 石器·瓦 須恵器·土師器·弥生土器			遺物廃棄土坑	

松山市文化財調查報告書 第120集

中村地区の遺跡

中村松田遺跡2・3次小坂七ノ坪遺跡2次

平成19年3月31日 発行

編.集 松山市教育委員会 発行 第700-0003 松山東三番町6-18-1

77 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 TEL(089)948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6 TEL(089)923-6363

印刷原印刷株式会社

〒790-0056 松山市土居田町396-6 TEL(089)974-8711

